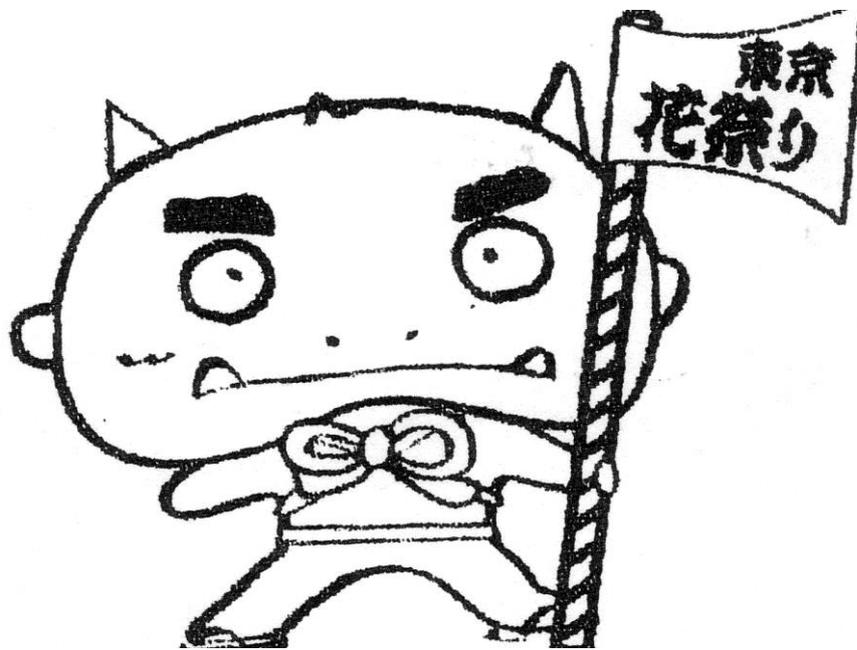


東京花祭り

二十五周年 記念誌

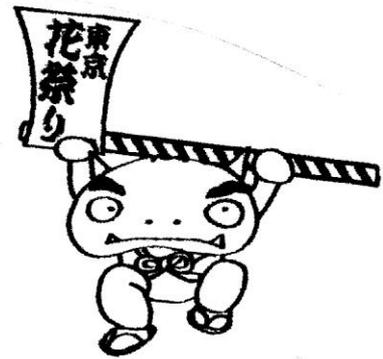






目次

* 二十五周年実行委員長挨拶	1
* 二十五周年を振り返って	2
* 二十五周年を迎えて	3
* 二十五周年に寄せて	4
* 東京花祭り二十五年の歩み	5
【一九九三年第一回】	
二〇一七年第二十五回】	
* 花祭り本質と理念	36
* 御園花祭「楽」について	43
* 歌ぐら	46
* 衣装	49
* 設営・舞庭飾り	52
* 後援組織	55
* 花だより	58
* 年間行事	
♪五月合宿	62
♪夏合宿	63
♪秋の講習会	64
♪新年会	66



二十五周年を迎えてのご挨拶

東京花祭り二十五周年実行委員長 千田 茂

一九九三年十二月に第一回「東京花祭り」が開催されて、今年二十五回目を迎えました。ここまで絶えることなく続けてこられたのは、会の皆さんの努力はもちろんのこと、毎年遠路はるばる東京まで駆けつけてくださった愛知県東栄町の御園花祭保存会と御園地区、滝山や前沢の商店会、東京土建等の皆さんのご理解とご支援によるものとたいへん感謝しております。

二十五年前、花祭りの本場、東栄町御園地区では過疎が進み、特に子どもの舞手が少なくなり花祭りの花である子どもの舞「花の舞」が、できなくなることが心配されておりました。東京で何とか役に立てればという思いで練習を始め、御園花祭で「花の舞」を舞わせていただいております。今では御園では外孫が大勢参加するようになります、これには東京の果たした役割も大きかったと感じております。

東京で「花祭り」をおこなう意義は何でしょうか。

舞をとおして未熟な魂が年々鍛えられ成長する、この魂の鍛練の場として「花祭り」があつたとも考えられています。私の子どもたち三人はこの花祭りに興味をもち関わってきました。数十分にもおよぶ舞を舞うことで少しは成長に寄与したのではないかと思っております。そして今は孫も参加するようになりました。

私たちの住んでいる地域は、故郷から離れて暮らしている人が多く、地域の伝統的な行事から縁遠くなっています。隣近所や人間同士の関係が希薄になっているなかで、老若男女が一緒に力を合わせ

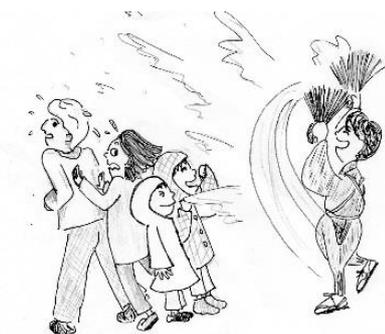
て築きあつていく「花祭り」を通じて地域のまちづくりに貢献できると感じております。

各地に伝わる日本の伝統芸能（明治時代の西洋化以前の芸能）の一つである「花祭り」を通して昔からの人々の考え方、集落のあり方、所作などを学び伝承していきたい。

五月のゴールデンウィークのダガスコ主催の現地講習会、夏の御園合宿、十一月の御園花祭、正月の各地の花祭見学と、二十五年間東栄町、豊根村などに通い、地元の人たちのあたたかい人情に触れてきました。今では御園を故郷と感じるものもあります。

二十五年間続けてこられたのには人見さん、廣木さん（邦楽アンサンブル「花しようぶ」の存在は大きかったと思います。御園花祭保存会のご支援、ご指導を受けられたのも人見さん、廣木さんの尽力のおかげであると思っています。

今後、何十年にもわたり「東京花祭り」が地域の祭りとして、若者の成長の場としての役割を果たしていくことを願っております。



〱二十五年を振り返って〱

私たちは四十四年前、伝統芸能を通じて地域の交流の場、子育ての場になればと、自宅前のある公園で「手づくりの盆踊りの夕べ」を催しました。その夕べが毎年続き、続けていくにはどうしたら良いか模索をしていました。参加していた東京都民族芸能、友の会であるメンバーから「花祭」を見たことがあるかという会話になったことをきっかけに三十四年前の正月、東栄町など各地域の花祭りを見に行きました。寒い・眠い・けむい祭りの中で、若いも若きも見ているものも、子供を育てることを、芸能祭を通じて楽しんで行なっているのを見て私たちが地域でやっていることをふくらませてくれる祭だと思いました。祭の中に自治が生きていっていると感じました。足の踏み方、リズムなど魅力を感じ、日本の大事な芸能だと思いました。

東京近在の民舞教育を実践している民族舞踊教育研究会(東京民舞研)の先生方と毎年花祭りに行ったり、「御園花祭」の方々に舞を教えていただいた中で花祭りが大好きな次男(広木穂)が小学校一年生の時から祭に「花の舞」で参加させていただくことになりました。又、三年生の時には御園に山村留学をしました。

その中で御園の祭がなくなるかも知れないという話を聞き、この祭りをなくしたくない。何とか東京で花祭りが出来ないものかと思いましたが。

「思い悩んでいるより行動を」と動き始めたのが二十五年前です。「あじさい盆踊りの会」の小学四年生までの子供たちを中心に訪ね、その知り合いも含め二十四人が集まり練習を始めました。

民舞の練習を一緒にしてきた北多摩民舞研(ダガスコ)の先生方の力

を借り試行錯誤の連続。

見たことも聞いたこともない子供たちがズーンとドコと一列になり、くり返しくり返しの練習でした。単純だけれどもむずかしい、でも一緒にやっていて楽しい場でした。まず「花の舞」の練習です。御園の祭で採ったテープやビデオをくり返し見て、歌ぐら・楽(太鼓)のメモ・楽譜づくりを準備。

年月を重ねる中で演目がふえ、子供たちの成長に合わせて準備するのが大変でした。

子供や若者たちが、舞う中で育つ魅力にふれ楽しく胸ふくらむ、豊かな体験をしてきました。時にはマンネリになったり、メンバーが減ったりして苦しい時もありました。

しかし、二十五年続ける中で花祭りの魅力を体験し、これからも共に学び花祭りをとり行なおうと思う仲間が少しずつ増え、層が厚くなり、二十五年周年を成功裏に執り行なうことが出来ました。

二十五周年を終え、七〇〇年続いてきた祭りを東京ですということでは生やさしいことではなく、改めてその中味の重要さを重く感じます。

都会人であろうと農山村漁村の人であろうと、日本人の失ってはならない次の世代へ伝えなければならぬ中味があるとつくづく感じています。ここまで御指導、御援助くださった御園花祭り保存会の皆様を始め、応援して下さった地域を始め多くの方々に感謝申し上げます。

幸いに次の代表も決まりました。

今後ともますます御指導、御鞭撻、応援をよろしくお願い致します。

人見 勇三

広木 房枝

東京花祭り二十五周年を迎えて

御園花祭花太夫 清水 晃

東京花祭り二十五周年を迎えられて誠におめでとうございます。花祭りを体得して学び、受け継いで行こうと永年に亘りがんばってこられた東京花祭りの皆様方にまずもって称賛のメールを送りたいと思います。

特に人見・広木ご夫妻には、会の立ち上げから今日の花祭りの会に仕上げされた功績は誠に大なるものがあります。

この四半世紀を振り返ると種々の事が思い出されますが、平成五年十二月滝山小学校図書館での「第一回仮称東京花祭り」に始まり、その後恒例となった講習会、夏の合宿、御園花祭の見学、祭りへの参加等に熱心に参加され理解を深め、納得できるまで研究し今日の姿にまで仕上げをされました。

祭りの会場も、西部地域センターホールから、火の使用ができる屋外の広場で行うようになり、地域の人達とのつながりが深められ、舞う人、見る人が一体となっていく祭り本来の姿が出来る様になつたと思われまます。

東京という離れた地区で、花祭りを継承していこうという心意気を、祭りに係る一員として大変うれしく、心強く感じ未永く花祭りができる事を願っております。

今、全国の過疎地域の神社のお祭りを如何にして守り育て続けて行こうかと事業にとり組み始められ、愛知県では「東栄町の花祭り」をとりあげ支援していこうと検討されています。

今迄の東京花祭りでの取り組みられたことが、今後の一つの在り方として指針になろうかと思われまます。



最後に東京花祭りが二十五周年の実績を基に今後共に粘りづよく実践され、さらなる発展を期してお祝い申し上げます。



東京花祭り二十五周年に寄せて

御園花祭保存会 尾林 克時

「これが東京？」地元と変わらぬ悠久の花祭りの持つエネルギーにユナ霽囲気に浸り、二十五年に渡る夢のような時の流れが体感させられました。

思い起こせば、穰君が小学校一年生の時に「花の舞」を舞い、その二年後に一年間我が家に泊まり込んで御園つ子として廃校を共に体験しました。私の三人目の息子である穰君が今年から東京花祭りの責任者となり、ご子息も花の舞を立派に舞われ、最高の世代交代が出来たと嬉しく思っています。

この事は人見さん広木さんを始めとし、東京花祭りに携っている皆様方の並々ならぬご努力の賜物であると思います。

特に、東京の野外で力一杯太鼓を敲き、火を焚き釜の水を煮えたぎらせ、遠慮もなく釜一杯のお湯を浴びせる等・・・この事は都会では実現し難い事であり、これも地元商店街のご理解とご支援の賜物であると思います。

この25周年を迎えた「都市と村との取り組み」は、民俗芸能を継承して行く新たな試みとして研究者の間でも注目されていますので末永く継続して行けるように願っています。

今回の両地域の花祭を体験して、新たな力が台頭（若手の勢いが増し活動領域を広げる）しており安心いたしました。

最後に宇野氏の山見鬼や植田東氏の天国からのご加護に敬意を表し、これからの両地域が発展することを祈念致します。



(御園の冬 撮影：尾林威行)

東京花祭り

二十五年のあゆみ

記録 千田 茂

1989年5月～1990年3月
廣木穰君（小学3年生）が閉校の年の御園小学校へ山村留学をする。

1990年5月
東京民舞研の北多摩地域の自主練習会として発足したダガスコと保存会の方々との交流が始まり、指導を受け始める。

1993年1月
御園花祭保存会が東京公演「民俗芸能と農村生活を考える会」（農協ホール）を行う。その後の交流会が東京花祭りのきっかけとなる。御園では過疎化が進み、祭りの継続も徐々に難しくなっている。花太夫の清水晃さんの「御園にはもうこのあと子どもがいない。花祭りの舞はよそのものでも伝承していける。本格的に教わりたいというところには、喜んで協力したい」という言葉を受けて「東京の子どもたちに教えよう」ということになる。

はじめに

東京花祭りは1993年に第1回の花祭りを開催したが、ここに至るまでの歴史がある。

1985年1月

東京民俗舞踊教育研究会（東京民舞研）が「日本の子どもたちに、日本の踊りを！」を合言葉に運動している中で、東栄町御園の花祭を見学、御園花祭保存会との交流が始まる。

1986年6月

民舞研が保存会から「花の舞」を習う。



資料提供

（渡辺）

（木暮）

第1回 1993年

仮称「東京花祭り」として開催
 日時…12月25日(土) 14時30分から
 場所…滝山小学校図書室

◆東京花祭りを始める

愛知県東栄町御園地区の花祭りで花の舞を舞う小学生が3人しかいないという現実を、東京で何かできないかと行動を起しました。9月に小学4年生以下二十数名を集め練習を開始しました。

花しようぶ、ダガスコ、父母会で実行委員会を構成し、第一回「仮称 東京花祭り」を開催しました。

仮称(東京花まつり) 愛知県東栄町御園花まつり保存会の方々をお迎えして
 (1993.12.25(土) 2:30~)

1. 花の舞 矢沢歩、佐々木敬、矢野聡、渡辺光
(秋津松崎小4)(月) (同三年) (同二年)
2. 花の舞 沼田有木、佐藤あや、木暮涼、千田圭介
(秋津松崎小4)(同) (同) (同)
3. 花の舞 矢野徹、渡辺里沙子、千田一子
(秋津松崎小4)(秋津松崎小4)(秋津松崎小4)
4. バケの舞 清水晃、清水靖
5. 花の舞 グガスコ他
6. 花の舞 矢野悠、佐藤あい、沼田光文
(四歳) (五歳) (五歳)
7. 地囃子の舞 清水靖、広木穂
(仙神五六中一年)
8. 順の舞 清水靖、奈良清美、星野英紀子、尾林今朝夫
高田美智子、川原知子、竹内礼子
9. 花の舞 鍛田稔、富田集、渡辺由佳子、千葉沙織
(秋津松崎小4)(同) (秋津松崎小4)(秋津松崎小4)
10. 鬼の舞 清水晃他

— 御園花まつり保存会の方々の紹介 —

清水 晃さん(花大夫)
 尾林 今朝夫
 清水 靖さん(大学生)



◆「花の舞」講習会

10月30日(土)

場所…滝山3丁目集会所
 講師…御園花祭保存会

◆「花の舞父母会」結成

初年度世話係…富田、鍛田、千葉、渡辺

◆舞庭

ストーブを釜に見立てた舞庭を作成。



第2回 1994年

日時…12月10日(土) 13時30分～16時30分
 場所…西部地域センターホール(3階)

◆夏合宿(御園)

8月18日(木)～20日(土)
 宿泊…天文台

参加者…25人(大人16人、子ども9人)
 練習の他、現地の子どもとの交流、鱒のつかみ取り等。
 父親も舞を習う。

◆釜の制作

段ボールや、紙を貼り合わせて釜を作成。釜の3本の足は木材で作成。

◆御園花祭

東京の子どもが「花の舞」などで参加。



突和県東条町御園花祭 平成6年
 保存会の方々をお迎えして、 1994.12月10日(土)
 滝山地域センター3階ホール

第2回 仮称 東京花まつり

プログラム

1. 花の舞 富田登代子、木暮明子、千葉初子、千田郁子
 (舞上) (親の会有志)
 2. 花の舞 矢沢 希、渡辺 光、矢野 聡、富田 隼
 (扇舞) (東条町北小3年) (同) (同4年) (同5年)
 3. 花の舞 鍛田 隼、富田 隼、大川さく乃、千葉沙織
 (盆) (東条町北小5年) (同) (同5年) (東条町北小5年)
 4. 花の舞 沼田光史、石岡 裕、岩波 輪、岩波 連
 (剣) (東条町北小1年) (同) (同) (同)
 5. 三つ舞 清水 靖、尾林威行、広木 権
 (大学生) (大学生) (小1和2年中2年)
 6. みんなで踊りましょう。(鬼の踊り)
- 休 息
7. 花の舞 川尻和子、岡村章代、柳 洋子、大川由美子
 (舞上) (ダカスコ有志)
 8. 唄の舞 船津美智子、竹内礼子、星野美紀子、奈良清美
 (ダカスコ有志)

9. 花の舞 沼田有未、矢野 徹、佐々木 敬、鍛田 隼
 (扇舞) (東条町北小4年) (同2年) (同3年) (同5年)
10. 花の舞 千田圭介、木暮 涼、佐藤 綾、千田一子
 (湯桶) (東条町北小4年) (同) (同) (同2年)
11. 花の舞 佐藤 愛、矢野 悠、宇野友来、川上 樹
 (舞上) (6歳) (5歳) (6歳) (6歳)
16. 鬼の舞 清水晃 他。

☆ 栗 ダカスコ有志
 手づくり盆踊りの会 舞若有志



☆ 御園花祭保存会の方々の紹介

清水 晃さん (花祭保存会長・花太夫)
 植田 栄さん
 清水 靖さん (大学生)
 尾林 威行さん (大学生)

〈※Xナンバーが変更になる場合があります。ご遠慮ください。〉

第3回 1995年

日時…12月9日(土) 13時～17時30分
 場所…西部地域センターホール(3階)

◆講習会

10月28日(土)～29日(日)

9小体育館、滝小図書室

講師…御園花祭保存会

◆夏合宿

8月18日(金)～20日(日)

宿泊…山荘、表屋さん

参加者…36人(大人17人、子ども19人)

新幹線、車に分乗。



※ 花の舞、いかがですか。長時間にわたるお祭りですので、お疲れの時は一息入れて下さい。ホール入口反対側の講習室に3:00～4:00の間、湯茶の用意をしておりますので、ご自由にご利用下さい。

※ 毎年さわやかな秋風が吹く頃になると、東京花祭りへ向けた活動が始まります。10月に行なわれる御園花祭り保存会の方々をお迎えしての楽しい講習会を中心として、9月から8回の練習会に取り組んで今日の日を迎えました。

その他、夏休みには花祭りの里御園での2泊3日の現地講習会、11月には本場御園花祭りへのバスツアーなど、楽しい企画も実施してきました。

こんな楽しい輪をもっともっと広げていけるように、来年の東京花祭りに向けて、新しい仲間を広く募集しております。踊ってみたい子ども達、御園のすばらしい文化に触れてみたいと思いの方々、ぜひご参加下さい。

お問い合わせは、東京花祭り実行委員会

広木 0424(73)8484

佐々木 0424(74)2458 まで。

第三回 東京花祭り実行委員会

第三回 東京花祭り 出演者紹介

- | | | |
|-------------|------------|----------------------|
| 地囃子 | 広木穰 | 船津美智子 |
| 1. 市の舞 | 佐々木豊 | |
| 2. 唄の舞 | 川尻和子 | 佐藤篤志 今田郁子 大川由美子 |
| 3. 花の舞(扇) | 竹内礼子 | 星野美紀子 奈良清美 植田東 (保存会) |
| 4. 花の舞(扇) | 沼田有未 | 佐藤綾 木暮涼 今田圭介 |
| 5. 花の舞(湯桶) | 矢沢希 | 佐々木敬 矢野聡 渡辺光 |
| 6. 花の舞(舞吐) | 佐藤愛 | 大野牙 西口由子 矢野徹 |
| 7. 鬼の舞 | 尾林克時 (保存会) | |
| 8. シツ舞 | 佐々木豊 | 尾林威行 広木穰 |
| 9. 花の舞(舞吐) | 木暮明子 | 富田登代子 手塚紀恵子 伊賀美樹 |
| 10. 花の舞(扇) | 鎌田絵 | 富田肇 大川さゆり 千葉沙織 |
| 11. 花の舞(金) | 矢野徹 | 佐々木敬 佐藤愛 今田一子 |
| 12. 花の舞(舞吐) | 宇野稜 | 矢野悠 大野牙 川上樹 |
| 13. 唄の舞 | 今田茂 | 佐藤敏則 入見勇三 宇野徹 |

御園保存会の方々

清水 晃三 (花祭保存会長・花太夫)

植田 東三

洞口 肇三

尾林 克時三

佐々木 豊三

尾林 威行三

栗

タカノ有花

手塚金踊りの会

津若直花

◆御園花祭

11月11日(土)～12日(日)

第4回 1996年

日時…12月14日(土) 13時～17時30分
 場所…西部地域センターホール(3階)

◆夏合宿

8月16日(金)～18日(日)
 宿泊…御園山荘、表屋さん
 参加者…23人(子ども10人、大人13人)



期間…8月16日(金)～8月18日(日)

場所…愛知県北設楽郡東栄町大野御園

宿泊地…山荘 おもてやさん

05367-(6)-0621

(参加者)

6年… 今田圭介 (73-5652)
 木暮涼 (74-0224)
 矢野航 (75-9187)
 沼田有未 (75-2873)
 佐藤綾 (74-8432)

5年… 渡辺山内 (76-2897)

4年… 矢野徹 (75-9187)

2年… 佐藤綾 (74-8432)

1年… 矢野悠 (75-9187)

父母会

矢野(父) 佐藤(父)
 木暮(母) 今田(父)
 佐藤 かつみ

ダンスの先生

人見 船津 星野
 奈良 YUKI 伊賀

子ども 10名

父母会 7名

スタッフ 6名

23名



第4回 東京「花祭り」へのおさそい

「花祭り」とは、太陽が一番衰える時期にその力を復活させ、無病息災や豊作を祈願し、新しい清らかな魂を再生する行事です。

愛知県奥三河地方の山奥に700年もの間伝えられてきたお祭り、国の重要無形民俗文化財にも指定されています。子供達が舞う「花の舞い」や、青年達の舞い、中年老年の舞い、「鬼の舞い」、「湯桶子の舞い」など、夜通しで舞い踊られます。見ている人々も「テホヘーテホヘー」のかけ声で舞い手を囃し励まし、周りで共に舞い踊ります。子供や青年の成長した姿を何よりも神聖なものとして皆で祝い、又観る行事でもあります。

そこには厳しい自然や社会の中を健全に生き抜いてきた先祖達の知恵が伝えられていると思います。

東京でもこの「花祭り」を受け継いでいこうと、現地東栄町御園保存会に指導と援助を受けて、楽しく交流してきました。今年も昨年にもまして子供達も練習を重ね、実行委員会も準備に励んでおります。この「花祭り」の世界に触れていただき、共に東京「花祭り」を盛り上げて頂きたいと思っています。

是非お誘い合わせの上、お越しください。



とき 1996.12月14日(土) 開場12時30分

開演1時～5時30分

ところ 滝山西部地域センター三階ホール

協力券 500円

ゲスト 御園花祭り保存会の方々

連絡・問い合わせ先 0424(73)8484 人見
 0424(72)3690 船津
 0424(73)4961 大野
 0424(74)2333 宇野



第4回東京花祭り実行委員会

愛知県東栄町御園花祭り保存会
 の方々をお迎えして

第4回 東京花祭り

◆-----プログラム-----◆

時間	内容	出演者
12:30	開場	
	四ツ舞	
13:00	1. 順の舞	(大人)
	2. 舞い上げ	(大人)
	3. 花の舞 扇	(子ども)
	4. 花の舞 盆	(子ども)
14:00	5. 三ツ舞 扇	(子ども)
	6. 鬼の舞	(保存会)
	7. みんなで踊ろう 鬼の舞	
15:00	8. 三ツ舞 谷地棒	(保存会)
	9. 花の舞 扇	(大人)
16:00	10. 花の舞 扇	(子ども)
	11. 花の舞 湯桶	(子ども)
	12. 舞い上げ	(子ども)
	13. 順の舞い	(父親)
17:00	14. みそ・しゃもじ	(保存会)

*プログラムは予定です。当日多少の変更があるかも知れませんが、ご了承ください。

*多少の時間のズレはお許しください。

第5回 1997年

日時…12月13日(土) 13時〜17時30分
 場所…西部地域センターホール(3階)
 東久留米稲葉市長の挨拶を頂く。

◆夏合宿

8月15日(金)〜17日(日)
 参加者…22人(子ども12人、大人10人)

◆衣装

「四つ舞」の衣装(藍染)、鬼の衣装、「ゆわぎ」を業者に発注し製作。「花の舞」の衣装は94年から父母会で製作をすすめている。

◆東久留米市コミュニティ振興財団の補助金

「コミュニティ意識啓発事業」として補助金の交付を受ける。

東京(第五回) 花祭り

1997・12・13(土)
 PM12:00〜6:00
 東久留米市西部地域センター



絵: 野村美文

東京花祭り五周年おめでとうございます。十年程前の民舞研や「ダガスコ」の皆さんの御園への見学に始まり、年を重ねる毎に子供達から母親、そして父親の会と大きな輪に広がりました。舞の練習には五月の連休、夏休み、十月の講習会、そして御園の花祭りに参加を戴くなど、たいへんな努力をされ、これ程までになった皆さんの熱意には感謝しております。又、今回は舞の中に「鬼の舞」が入り、一段と盛り上がりのあるお祭りになるものと楽しみに拝見させていただきます。

地元保存会は、過疎化の中で子供達も少なくなっておりますが、この交流を通じて花祭りの保存に一層努力して行きたいと存じておりますので今後ともよろしくお願い申し上げます。

御園花祭り保存会 清水 晃

愛知県東海市御園花祭り保存会の方をお迎えして

第5回 東京花まつり

本日はお越し頂き本当に有り難うございます。
 皆様方の様々なお力添えのおかげで、東京「花祭り」も5周年を迎えることが出来ましたことを心から感謝申し上げます。又、例年にも増しての「御園花祭り保存会」のご助力に對してあつく御礼申し上げます。
 「花祭り」は、子供や青年の成長を祝う行事でもあるわけですが、健全な地域や社会を育てていく行事でもあると思います。
 この700年もの歴史のある「花祭り」の伝統を私たちのものにするために、未永くおつきあいただき育てていただければ幸いです。尚、調理室にて、「接待所」を設けて飲み物などを用意しております。そちらの方も自由にご利用いただき、ゆっくりとお過ごしいただけますようご案内申し上げます。

東京花祭り実行委員会 人見勇三

プログラム

- 1 お湯立て
- 2 ばらの舞 清水 晃(保存会)
- 3 花の舞 大野みち子・守野千鶴子・西口恵美子・千葉初子
(舞い上げ) (父母の会) (同) (同) (同)
- 4 四つ舞 船津美智子・伊賀美佐子・奈良 清美・屋野美紀子
(ダガスコ) (同) (同) (同)
- 5 地固めの舞 植田 東(保存会)・千田 茂(おやじの会)
- 6 三つ舞 千葉 沙織・佐藤 綾・大川さく乃
(扇の守) (東久留米市) (同) (所沢市)
- 7 花の舞 守野友梨・大野 沙絵・矢野 悠・西口 悠子
(盆) (東久留米市) (東久留米市) (東久留米市) (同)
- 8 順の舞 川尻 和子・村田智加子・岡村 章代・山本 良江
(ダガスコ) (同) (同) (同)
- 9 花の舞 矢野 悠・守野友梨・安 涼介・大野 沙絵
(舞い上げ) (東久留米市) (4才) (4才) (東久留米市)
- 10 山見鬼の舞 役鬼 尾林 克時(保存会)
伴鬼 尾林 威行・守野 徹・佐々木幹根
(保存会) (おやじの会) (保存会)
- 11 三つ舞 清水 靖・尾林 暁史・広木 綾
(碁塚) (保存会) (保存会) (高校生)
- 12 花の舞 渡辺 光・千田 一子・矢澤 歩・矢野 徹
(扇) (東久留米市) (武蔵野市) (東久留米市) (同)
- 13 花の舞 川上 樹・佐藤 俊・安 雄樹・大野 香織
(湯桶) (東久留米市) (同) (東久留米市) (同)
- 14 花の舞 元田はるか・千田 柁・堀 裕征・守野友梨
(舞い上げ) (東久留米市) (6才) (6才) (東久留米市)
- 15 順の舞 千田 茂・佐藤 敏則・元田 剛・矢野 隆
(おやじの会) (同) (同) (同)
- 16 三つ舞 木暮 涼・矢野 聡・千田 圭介
(扇) (東久留米市) (同) (同)
- 17 湯ばやしの舞 清水 靖・尾林 暁史・広木 綾・尾林 威行
(保存会) (保存会) (高校生) (保存会)
- 18 朝鬼の舞 役鬼 守野 徹(おやじの会)
伴鬼 木暮 涼・千田 圭介・矢野 聡・壺井俊介
(東久留米市) (同) (同) (社会人)

第6回 1998年

日時…12月12日(土) 11時～18時
 場所…西部地域センターホール(3階)

◆講習会

5月2日～4日

ダガスコ、親父の会

10月17日～18日

◆夏合宿

8月15日(土)～17日(月)

宿泊…御園山荘、表屋さん

参加者…20人(子ども8人、大人12人)

◆新「日本標準教育賞」

「子どもたちと取り組んだ『東京花祭り』をまとめ、日本標準教育賞に応募し、奨励賞を頂く。賞状および賞金10万円。

◆金毘羅神社例祭(高尾)

10月10日(土)

参加者26人。舞を奉納。

◆鬼の面を制作

豊根村の白川さんに木彫り鬼面を発注。
 役鬼、伴鬼(赤、黒)、まさかり、鉾を制作。
 清水晃さんにお清めをしていただいた。

愛知県東栄町御園花祭保存会の方々をお迎えして

第6回 東京花まつり

本日はお越し頂き本当にありがとうございます。
 皆様方のおかげで、第6回東京「花祭り」を開くことが出来たこと心から感謝申し上げます。また「御園花祭り保存会」の暖かいご指導と援助に対して厚く御礼申し上げます。

何かと忙しい時節今日この頃ですが、元々「花祭り」は、1年の中でも1番楽しい時季を乗り越えていく為の行事でした。そして、子供達や若者の成長と共に未来を語り合い楽しい行事でもありました。

この700年もの「花祭り」の伝統を私たちのものにするために、今後とも未永くお付き合いいただき、育てて頂ければ幸いです。

尚、第2・3講習会にて、「接待所」を設けて飲み物などを用意しております。なにか長時間にわたるお祭り行事なので、自由にご利用いただきゆっくりとお過ごしいただけますようご案内申し上げます。

東京花祭り実行委員会 人見勇三

プログラム

- 0 地団めの舞 佐々木豊・清水 靖
(扇の手) (保存会) (保存会)
- 1 ぼりの舞 清水晃
(保存会)
- 2 地団めの舞 八幡直浩・千田 茂
(樺塚) (保存会) (おやじの会)
- 3 市の舞 元田 剛・佐々木新根
(二折リ) (おやじの会) (保存会)
- 4 四つ舞 奈良 清美・星野美紀子・竹内 礼子・伊賀美佐子
(扇の手) (同) (同) (同)
- 5 三つ舞 佐々木 豊・矢野 聡・矢沢 歩
(扇の手) (保存会) (東郷科中2年) (東郷科中4年)
- 6 花の舞 佐藤 愛・田口 咲・宍 雄樹・大野 涉絵
(盆) (東郷科小4年) (東郷科小6年) (同4年) (同4年)
- 7 順の舞 佐藤 善忠・木暮 明子・宇野千鶴子・大野みちよ
(お母の会) (同) (同) (同)



8. 花の舞 元田 ほか・細川 ぼつ子・大林 愛美・堀 祐征
(舞上) (東郷科小2年) (5才) (6才) (武蔵野小1年)
9. 山見鬼の舞 役鬼 尾林 克時(保存会)
伴鬼 清水 靖・佐々木新根・室井 俊介
(保存会) (保存会) (社会人)
10. 三つ舞 尾林 威行・木暮 涼・千田 圭介
(樺塚) (保存会) (東郷科中2年) (同2年)
11. 花の舞 矢野 徹・西口 悠子・大野 香織・千田 一子
(扇の手) (東郷科小6年) (同6年) (東郷科小6年) (武蔵野小4年)
12. 花の舞 宇野 友来菜・常永 千里・元田 ほか・矢野 聡
(湯桶) (東郷科小4年) (東郷科小4年) (東郷科中2年) (同3年)
13. 花の舞 千田 悠・籾 優奈・大林 優花・宇野 麻苗梨
(舞上) (武蔵野小1年) (6才) (4才) (5才)
14. 順の舞 植田 東・元田 剛・佐藤 敏則・尾林 今朝夫
(保存会) (おやじの会) (おやじの会) (保存会)
15. 三つ舞 佐藤 綾・渡辺 光・船津 美智子
(扇の手) (東郷科中2年) (東郷科中1年) (ダガスコ) 
16. 利子LeLi 八幡 直浩・佐々木 豊・佐々木新根
おかめ (保存会) (保存会) (保存会)
17. 湯轆子の舞 尾林 暎史・広木 謙・室井 俊介・広木 真
(保存会) (高校生) (社会人) (大学生)
18. 朝鬼の舞 役鬼 宇野 徹(おやじの会)
伴鬼 尾林 威行・木暮 涼・千田 圭介・矢野 聡
中鬼 矢沢 歩・大野 香織 子息也
(保存会) (東郷科中2年) (同2年) (同2年)
(東郷科中1年) (東郷科小6年)

第7回 1999年

日時…12月11日(土) 11時～18時
 場所…西部地域センターホール(3階)
 国立文化財研究所中村茂子芸能部長から挨拶を頂く。

愛知県東栄町御園花祭保存会の方々をお迎えして 第7回 東京花まつり

本日はお越し頂き本当にありがとうございます。
 皆様方のお力添えのおかげで、第7回東京「花祭り」を迎えることが出来ましたこと心から感謝申し上げます。また「御園花祭保存会」の暖かい指導と援助に対して厚く御礼申し上げます。
 「東京花祭り」は、御園の「花祭りの舞」を子供達と共に東京でも受け継いでいこうと始まったのですが、「祭り」としてもその本質をしっかりと受け継いでいきたいと思っています。奥三河に伝えられた700年もの伝統ある「花祭り」を私たちのものにするために、今後とも米永お付き合いたいただき、育てていって頂ければ幸いです。なにおん長時間にわたるお祭り行事なので、「接待所」を設けて飲み物などを用意しております。なにおん長時間にわたるお祭り行事なので、自由にご利用いただきゆっくりとお過ごしいただけますようご案内申し上げます。

東京花祭り実行委員会 人見勇三

次 第

- 一四の舞(扇) 八幡直清(保存会)
- 尾林晚文(同)
- 広木 康(同)
- 尾林成行(同)
- 奈良 清夫(同)
- 二 ばちの舞 清水 晃(保存会)
- 三 地固の舞(扇) 千葉沙織(高松)
- 大川さく乃(同)
- 七 花の舞(扇) 大野香織(東栄)
- 常水千早(東栄)
- 安 雄樹(同)
- 西口ゆう子(東栄)
- 佐々木幹枝(保存会)
- 元田 剛(同)
- 四 市の舞(二折) 元田 剛(同)
- 佐々木幹枝(保存会)
- 五 式三番 船津美智子(分志)
- 大川由美子(同)
- 星野美紀子(同)
- 奈良 清夫(同)
- 六 三つ舞(扇) 矢野 聡(東栄)
- 矢野 康(同)
- 渡辺 光(同)
- 七 花の舞(扇) 大野香織(東栄)
- 常水千早(東栄)
- 安 雄樹(同)
- 西口ゆう子(東栄)
- 八 花の舞(盆) 元田はるか(東栄)
- 千田 茂(おひの会)
- 人見勇三
- 佐藤敏明(おひの会)
- 矢野 聡(同)
- 九 花の舞(舞上) 大林愛夫(東栄)
- 古平陽代子(東栄)
- 細川なつ子(同)
- 宇野麻由美(同)
- 十 順の舞 木暮明子(父母会)
- 中野子鶴子(同)
- 大野みづ子(同)
- 佐藤 敏(同)
- 十一 山見鬼の舞 辰野 宇野 徹(東栄)
- 辰野 宇野 徹(東栄)
- 清水 靖(同)
- 川口航司(同)
- 子見 他
- 十二 湯囃子の舞 尾林晚史(保存会)
- 壺井俊介
- 佐々木 康(保存会)
- 広木 康(同)
- 十三 三つ舞(剣) 大暮 清(東栄)
- 壺井俊介
- 千田圭介(東栄)
- 十四 山見鬼の舞 辰野 宇野 徹(東栄)
- 辰野 宇野 徹(東栄)
- 清水 靖(同)
- 川口航司(同)
- 子見 他
- 十五 湯囃子の舞 尾林晚史(保存会)
- 壺井俊介
- 佐々木 康(保存会)
- 広木 康(同)
- 十六 三つ舞(扇) 大林愛夫(東栄)
- 古平陽代子(東栄)
- 細川なつ子(同)
- 宇野麻由美(同)
- 十七 湯囃子の舞 尾林晚史(保存会)
- 壺井俊介
- 佐々木 康(保存会)
- 広木 康(同)
- 十八 朝鬼の舞 辰野 宇野 徹(東栄)
- 辰野 宇野 徹(東栄)
- 清水 靖(同)
- 川口航司(同)
- 子見 他
- 十九 湯囃子の舞 尾林晚史(保存会)
- 壺井俊介
- 佐々木 康(保存会)
- 広木 康(同)
- 二十 三つ舞(扇) 大林愛夫(東栄)
- 古平陽代子(東栄)
- 細川なつ子(同)
- 宇野麻由美(同)
- 二十一 湯囃子の舞 尾林晚史(保存会)
- 壺井俊介
- 佐々木 康(保存会)
- 広木 康(同)
- 二十二 三つ舞(扇) 大林愛夫(東栄)
- 古平陽代子(東栄)
- 細川なつ子(同)
- 宇野麻由美(同)
- 二十三 湯囃子の舞 尾林晚史(保存会)
- 壺井俊介
- 佐々木 康(保存会)
- 広木 康(同)
- 二十四 三つ舞(扇) 大林愛夫(東栄)
- 古平陽代子(東栄)
- 細川なつ子(同)
- 宇野麻由美(同)
- 二十五 湯囃子の舞 尾林晚史(保存会)
- 壺井俊介
- 佐々木 康(保存会)
- 広木 康(同)
- 二十六 三つ舞(扇) 大林愛夫(東栄)
- 古平陽代子(東栄)
- 細川なつ子(同)
- 宇野麻由美(同)
- 二十七 湯囃子の舞 尾林晚史(保存会)
- 壺井俊介
- 佐々木 康(保存会)
- 広木 康(同)
- 二十八 三つ舞(扇) 大林愛夫(東栄)
- 古平陽代子(東栄)
- 細川なつ子(同)
- 宇野麻由美(同)
- 二十九 湯囃子の舞 尾林晚史(保存会)
- 壺井俊介
- 佐々木 康(保存会)
- 広木 康(同)
- 三十 三つ舞(扇) 大林愛夫(東栄)
- 古平陽代子(東栄)
- 細川なつ子(同)
- 宇野麻由美(同)



楽(全鼓笛歌く籠)
 御園保存会
 所 征子
 村田智加子
 他

第8回 2000年

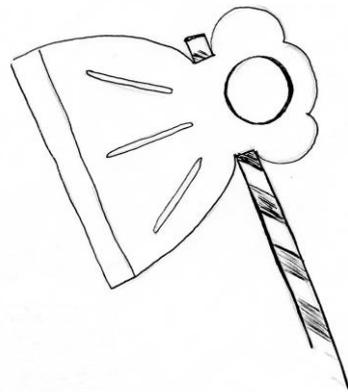
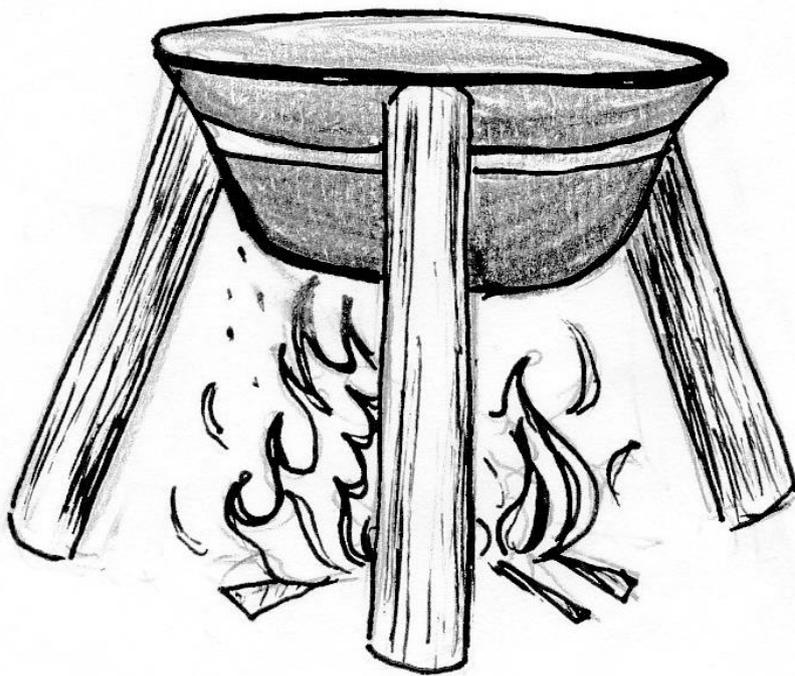
日時…12月9日(土) 11時～18時
 場所…西部地域センターホール(3階)

◆茨城大学民俗学集中講座

廣木さん、人見さんの講座で「花の舞」の実演を行う。

東京でも雪舞う時季になりました。
 昨年十二月九日の第8回東京「花祭り」には、多大のお祝いや励ましのお言葉を頂き、また地元・愛知県東栄町御園からは保存会や若連の方々にも大勢おいで頂き、無事終えることが出来、心より御礼申し上げます。
 高校2年生を筆頭に子供たちの舞がとても良くなったとの感想を周りからいただき、私たちも、「花祭り」で舞う子供たちや大人、つまり人間がこんなにも美しく豊かなのかということを再発見しています。また「花祭り」とは奥深いものだなということも改めて感じております。
 「花祭り」を、この東京・滝山の地域で伝承して行くには、「舞」や「楽」の問題、開催時間や場所、火や水の件など様々な問題がありますが、知恵を出し合って解決していきたいと思っています。
 今後とも米永、御指導御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。
 皆様とご家族さまに健康と幸せが訪れますよう！
 御礼とご挨拶まで

東京「花祭り」実行委員会



第10回 2002年

開催日…12月14日(土)

場所…西部地域センターホール(3F)、西部地域センター前広場
 時間…11時～18時
 前半を西部地域センターホール、後半を広場で開催。

◆講習会

5月3日(金)～5日(日) 於御園

6月22日(土)～23日(日)

10月26日(土)～27日(日) 尾林克時さんを迎えて

10小体育館、西部地域センターホールで花の舞、鬼の舞、三つ舞、四つ舞、順の舞など。

◆夏合宿

8月15日(木)～17日(土)

参加者…12人(子ども5人、大人7人)

マイクロバスの運転…千葉さん

宿泊…スターフォレスト御園(東栄町森林体験交流センター)

川遊びでは、釣りや、鮎ご飯を楽しむ。

◆設営

屋内は従来通り。屋外について御園保存会の方々、東京土建の秋元さん、そして会のメンバーと相談した結果、東京土建滝山分会の協力を得て建設足場に使用するパイプで5m四方の舞庭をつくることになった。

◆釜

御園で現在使用されていない釜を東京の祭り用に借用。合わせ、土台(金属製)を千葉さんが製作。火を焚いてはじめて釜

に湯を沸かしました。

◆物置

10周年を記念して物置を購入。祭りの機材を納める。

◆御園花祭

11月9日(土)～10日(日)

参加者…34人

◆御園花祭保存会

御園花祭保存会および関係者45名が「東京花祭り」のお祝いに駆けつける。

◆協賛・市後援

滝山中央名店会の協賛、東久留米市後援を申請。

10周年 東京「花祭り」へのおきそい

「花祭り」とは、太陽の力が一番衰える時期にその力を復活させ、無病息災や豊作を祈願し、新しい清らかで豊かな魂を再生する行事です。愛知県奥三河地方の山奥に700年もの間伝えられてきたお祭りで、国の重要無形民俗文化財にも指定されています。

子供達が舞う「花の舞」や、青年達の舞、「鬼の舞」、「湯囃子の舞」など、一晩夜通して舞い踊られます。見ている人々も「テホヘーテホヘー」のかけ声で舞い手を囃し励まし、周りで共に舞い踊ります。子どもや青年の成長を祝うと共に、1年の中で一番厳しい時期を、心を寄せ合って乗り越える行事でもあります。

東京民舞研や北多摩民舞研の先生達が、御園の花祭り保存会と交流を始めてからもう20年近くになりますが、その中から東京の子ども達にも教えてみてはと始まったのが、「東京花祭り」です。東京の子ども達も「花祭り」や「花の舞」がとても好きになりました。その子達が、今や若者集団「花若」として、会の推進力として期待される様になってきました。

今年は、これまでの成果を集約して、センター前広場にも舞庭を立てて地域の人々と共に、10周年「東京花祭り」を楽しもうと企画しました。

是非お問い合わせの上、お越し下さいませよう！



12月14日(土)

午前11時～午後6時

東久留米市
西部地域センター・ホール、
地域センター前広場にて
Tel:0424-71-7210

後援・指導・出演
東栄町御園花祭保存会

後援: 東久留米市
協賛: 滝山中央名店会

交通: JR武蔵小金井駅・西武
花小金井駅・東久留米駅
より西武バス「滝山団地
センター」下車徒歩1分

主催: 東京花祭り実行委員会
0424-73-8484
小平市花小金井4-6-5
広木方

次 第 (ホール)

一、地固めの舞(剣)

花太夫 清水 晃(保存会)

千田 茂(東京)

太鼓 人見 勇三(東京)

二、式さんば

船津 美智子(東京)

星野 美紀子(東京)

古矢 比佐子(東京)

渡辺 民江(東京)

太鼓 植田 東(保存会)

三、一の舞

元田 剛(保存会)

川口 航司(保存会)

太鼓 尾林 克時(保存会)

七、花の舞(盆の手)

広瀬 歩美(小学3年)

古平 陽代子(小学3年)

宇野 麻苗梨(小学3年)

井口 ジャスミン(小学3年)

太鼓 宇野 徹(東京)

八、三つ舞(扇の手)

大野 香織(花若)

西口 ゆう子(花若)

矢野 徹(花若)

太鼓 船津美智子(東京)

九、花の舞(湯桶)

井口 ジャスミン(小学3年)

広瀬 歩美(小学3年)

平野 知子(小学3年)

たが 優奈(小学4年)

太鼓 千田 茂(東京)

四、四つ舞(扇の手)

千葉 沙織(花若)

渡辺 光(花若)

佐藤 綾(花若)

大川 きく乃(花若)

太鼓 尾林 克時(保存会)

五、三つ舞(扇の手)

大野 沙絵(中学2年)

大野 香織(花若)

佐藤 愛(中学2年)

太鼓 船津 美智子(東京)

六、花の舞(扇の手)

元田 はるか(小学6年)

千田 柊(小学5年)

たが 優奈(小学4年)

矢野 悠(中学1年)

太鼓 船津美智子(東京)

十、順の舞

宇野 千鶴子(東京)

富田 登代子(東京)

松岡 佳子(東京)

井口 敦子(東京)

太鼓 千田 茂(東京)

十一、花の舞(舞上げ)

古平 陽代子(小学3年)

平野 圭祐(4歳)

松岡 古生露(小学2年)

たが 真代(小学1年)

太鼓 宇野 徹(東京)

十二、三つ舞(剣)

木暮 涼(花若)

矢野 聡(花若)

千田 圭(花若)

太鼓 人見 勇三(東京)

次 第 (広場)

一、神鬼の舞

神鬼 清水 靖(保存会)

伴鬼 藤原 光晃(保存会)

伴鬼 佐々木 幹根(保存会)

太鼓 清水 晃(保存会)

二、四つ舞

千葉 沙織(花若)

渡辺 光(花若)

佐藤 綾(花若)

大川 きく乃(花若)

太鼓 尾林 克時(保存会)

三、花の舞(湯桶)

千田 柊(小学5年)

宇野 麻苗梨(小学3年)

平野 知子(小学3年)

元田 はるか(小学6年)

太鼓 船津 美智子(東京)

四、火のねぎ・翁

八幡 直浩(保存会)

佐々木 豊(保存会)

太鼓 植田 東(保存会)

五、三つ舞(棒燈)

矢澤 歩(花若)

矢野 徹(中学1年)

矢野 徹(花若)

太鼓 人見 勇三(東京)

六、舞上げ

古平 陽代子(小学3年)

平野 圭祐(4歳)

松岡 古生露(小学2年)

たが 真代(小学1年)

太鼓 清水 晃(保存会)

七、湯囃子

佐々木 豊(保存会)

尾林 睦史(保存会)

清水 靖(保存会)

広木 穂(東京)

保存会及び関係者

清水 晃 植田 東 尾林 克時 伊藤 文忠

荒河 正 荒河 千金 伊藤 辰一 佐々木 太

尾林 経夫 尾林 清彦 藤原 巳義 村上 正彦

荒河 秀美 藤原 信広 尾林 光夫 三浦 勉

佐々木 幹根 佐々木 豊 藤原 光晃 尾林 威行

清水 靖 尾林睦史 八幡 直浩 川口 航司

植田 完 伊藤 益子 尾林 とし子 鈴木 きみゑ

伊藤 伴子 佐々木 一子 清水 ミナ 村上 美恵子

藤原 和枝 尾林 秀子 荒河 加代子 尾林 静香

平野 由美 尾林あゆみ 平野 知子 平野圭祐

佐々木 貴雄 清水 正巳 鈴木 憲 村松 忠夫

石田 乙女(旧本田) 日恵野 とめこ(旧高橋)

堀 美智子(旧藤原)

東京花祭り十周年おめでとうございます。
愛知県東栄町御園の御園花祭りに学び、子どもたちを中心にこの滝山地域で永く継承されようとしていますが、これを大変嬉しく思います。日頃から東京花祭り実行委員会を支援して下さい。さつてきている皆さんに心から敬意を表します。
滝山団地自治会では、明日十五日に環境問題を考えようと四九億年前に誕生した地球の歴史を学ぶ機会を企画しておりますが、この花祭りは七十年前の人々のくらしに思いをめぐらす機会でもあり、人間の歴史を考える良い機会になるのではないかと思います。(滝山団地自治会 会長 井口信治)

古い歴史の花祭りから、新しいものが生まれている皆さんの取り組み、ぜひ当日はおじやましたいと思っております。
八木雪子

第11回 2003年

開催日…12月13日(土)

場所…西部地域センターホール(3F) 11時～15時30分
 地域センター前広場 15時30分～19時

◆講習会

5月3日～5日 於御園

6月7日(土)～8日(日) 講師…清水晃さん

11月22日(土)～23日(日) 講師…尾林克時さん

◆夏合宿

日時 8月14日(木)～16日(土)

場所 御園

宿舎 スターフォレストコテージ

◆市民自主企画講座

日時 9月27日(土)

場所 東久留米市中央図書館視聴覚ホール

冊子 『奥三河の花祭』 東京で伝承10年』を作成

◆国立文楽劇場 「奥三河の花祭」公演

日時…2004年3月6日(土)～7日(日)

御園花祭保存会38人, 東京8人参加。

◆御園花祭

日時 11月8日(土)～9日(日)

◆花祭見学

日時 1月2日(金)～4日(日)

次 第(ホール)

一、ばちの舞

花太夫 清水 晃(保存会)

二、地堅め

千田 茂(東京)
 船津 美智子(東京)
 太鼓 人見 勇三(東京)

三、式さんば

八幡 直浩(保存会)
 木暮 明子(東京)
 渡辺 民江(東京)
 宇野 千鶴子(東京)
 太鼓 大野みちよ(東京)

四、三つ舞(扇の手)

大野 香織(花若)
 西口 ゆう子(花若)
 渡辺 光(花若)
 太鼓 宇野 徹(東京)

五、四つ舞(剣の手)

佐々木 豊(保存会)
 佐々木幹根(保存会)
 清水 靖(保存会)
 尾林 威行(保存会)
 太鼓 植田 東(保存会)

六、花の舞(扇の手)

千田 柊(小学6年)
 井口ジャスミン(小学4年)
 宇野 麻苗梨(小学4年)
 広瀬歩美(小学4年)
 太鼓 千田 茂(東京)

七、三つ舞(扇の手)

矢野 悠(中学2年)
 井上 亜耶(中学1年)
 元田 はるか(中学1年)
 太鼓 船津 美智子

八、四つ舞(扇の手)

千葉 沙織(花若)
 矢澤 歩(花若)
 大川 きく乃(花若)
 木暮 涼(花若)
 太鼓 人見 勇三

次 第(広場)

一、湯立て

保存会

二、市の舞

元田 剛(東京)
 太鼓 尾林 克時(保存会)

三、四つ舞(扇の手)

千葉 沙織(花若)
 矢澤 歩(花若)
 大川 きく乃(花若)
 木暮 涼(花若)
 太鼓 人見 勇三(東京)

休憩

(舞庭は外の広場に移動します)

第12回 2004年

開催日…12月11日(土)

場所…地域センター前広場 12時～19時

◆講習会

5月1日(土)～3日(月) 於御園 人見 船津 星野

千田

10月30日(土)～31日(日) 講師…清水靖さん 八幡直浩さん

接待を「花若」がおこなう。

◆夏合宿

日時 8月12日(木)～14日(土)

場所 御園 10人

◆ダンス白州2004花祭り公演

御園14人, 東京4人参加。

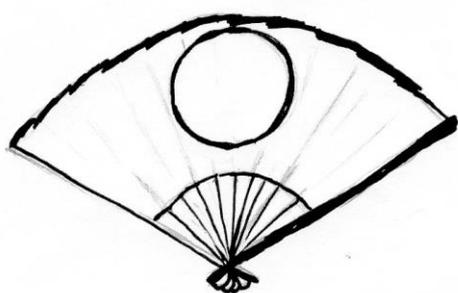
◆御園花祭

日時 11月13日(土)～14日(日)

◆東京土建清瀬久留米支部 新年会

日時 1月18日(火)

舞上げ, 鬼の舞を舞う。



ダンス白州 2004

今年も、秋すぎで「冬咲く花」の季節になりました。
みなさま方のお力添えと、愛知県東栄町「御園花祭り保存会」の御指導と援助により、東京「花祭り」も十二回目を迎える運びとなりました。悪霊退散・五穀豊穡・子孫繁栄・魂の再生を願って、七〇〇年もの間行われ伝えられてきた国重要無形民俗文化財である「花祭り」の伝統を、東京でも多くの人々と共に傳承し、楽しもうと関係者一同準備に励んでおります。今年も、「祭」としての新たな挑戦として、全てセンター前広場の野外で舞い踊ることになりました。

是非お越し頂き、お力添えくださいますようお願い申し上げます。

2004年度東京「花祭り」実行委員会

TEL 0424(73) 8484 広木方

日時 二〇〇四年二月一日(土) 十二時開演

会場 東久留米市西部地域センター前広場

演目 湯立て・地固めの舞・花の舞・榊鬼の舞・三つ舞・湯囃子の舞 等
交通 JR中央線武蔵小金井駅、又は西武新宿線花小金井駅

又は西武池袋線東久留米駅下車、

滝山団地・久留米西団地行きバス滝山団地センター下車1分

第13回 2005年

開催日…12月10 (土)

場所…地域センター前広場 12時～19時

◆講習会

5月3日(火)～5日(木) 於御園

9月17日(土)～18日(日) 講師…清水靖さん

◆夏合宿(御園)

日時 7月29日(金)～31日(日)

参加者 10人

◆御園花祭

日時 11月12日(土)～13日(日)

◆新年会

日時 1月29日(日)

歌ぐらカルタ

◆クネヒト・ペトロさん来訪

廣木、人見応対

◆「百の花 結ぶ花」NHKで放送

日時 12月16日、2月25日

◆祭りの運営

祭り参加費制度をやめ、協力券と寄付金で祭りを運営することにした。年会費は大人4000円、子ども3000円は変わらず。

『奥三河の山奥から鬼様がやってくる』

今年も、秋過ぎて「冬咲く花」の時節がやってきました。

みなさま方のお力添えと、愛知県東栄町「御園花祭保存会」の御指導と援助により、東京「花祭り」も十三回目を迎える運びとなりました。「悪霊退散」「五穀豊穡」「子孫繁栄」「魂の再生」を願って、七〇〇年もの間行われ伝えられてきた国重要無形民俗文化財である「花祭り」の伝統を、東京でも多くの人々と共に傳承し、楽しもうと関係者一同努力してまいりました。

是非お越し頂き、お力添え下さいますよう心からお願ひ申し上げます。

2005年度東京「花祭り」実行委員会

TEL 0424(73)8484 広木方

日時 二〇〇五年二月一〇日(土)十二時開演

会場 東久留米市西部地域センター前広場

演目 湯立て・地固めの舞・花の舞・神鬼の舞・三つ舞・湯囃子の舞 等

交通 JR中央線武蔵小金井駅、又は西武新宿線花小金井駅

又は西武池袋線東久留米駅下車、

滝山団地・久留米西団地行きバス滝山団地センター下車1分

本格的な寒さを迎える時節になりました

去る十二月十日の第十三回「東京花祭り」には、多大のお祝いや励ましのお言葉を頂き、また地元・愛知県東栄町御園からは保存会や若連の方々が大勢おいで頂き、天候にも恵まれ無事盛大に終えることが出来ましたこと、心より御礼申し上げます。

世の中は「景気回復」が報道されていますが、私たちの身のまわりでは、様々の暮らしぶり状況が進行しています。その様な中で東京「花祭り」が、ささやかではありますが楽しく夢いっぱい行事になつて来たことを、頼もしく思っています。

厳しく過ごしつらい時節ほど、祖先の先輩達は、力を合わせ互いに思いやつて生き抜いてきたその伝統が「花祭り」の中に受け継がれており、その心が、東京に住む人々にも受け継がれて来ていることを頼もしく思いました。

今回の成功を土台に、「舞」や「楽」について指摘されたことなどをしっかりと勉強し、「花祭り」の輪を広げ深めていきたいと思っております。

今後共、御指導・御援助・御鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

御礼とご挨拶まで

東京「花祭り」実行委員会

〒187-0002 東京都小平市花小金井4-6-5 広木方

第14回 2006年

開催日…12月9日(土)
 場所…地域センター前広場 12時～19時

◆講習会

5月3日(水)～5日(金) 於御園
 10月21日(土)～22日(日)
 講師…清水靖さん
 接待 花若

◆夏合宿(御園)

日時 8月11日(金)～13日(日)
 参加者 3人(中学生2人 人見)

◆御園花祭

日時 11月11日(土)～12日(日)
 (社)全国農協観光協会のバスに相乗

◆新年会

日時 1月7日(日)
 歌ぐらカルタ

◆宇野徹さんお別れ会

日時 7月29日(土)
 場所 成美教育会館
 御園から植田さん、尾林克時さんが出席

◆JR東海の車内誌

須藤先生と穰さんの対談

◆花祭りだより第1号発行

会員への連絡、情報発信として便りを発行する。

◆御園のできごと

「表や」8月 そば「茶禅一」を開店

国指定重要無形民俗文化財「奥三河の花祭り」を東京で伝承

第十四回

東京花祭り

二〇〇六年十二月九日(土)
 西部地域センター前広場十二時～十九時

五穀豊穰
 無病息災
 平安安穩



「花祭り」とは一年の内で太陽の力が一番衰える時期に、その力を復活させ、無病息災や豊作を祈願し、新しい清らかで力強い魂を復活させる行事です。愛知県奥三河の山奥に七百年もの間伝えられてきたお祭り、国の重要無形民俗文化財に指定されています。東京でも伝承しようと滝山地域で始まりました。



後援 東久留米市
 協賛 滝山中央名店会
 協力 東京土建東久留米支部
 しばたふとん店

鬼さまの話

古来、鬼は祟りをなす、人々を迫害するものとして恐れられ、追い払われる対象となっております。しかし花祭では、その力強い威力と頼もしい存在に畏敬の念を込め「鬼さま」あるいは「神さま」「山見さま」と呼んでおります。
 釜の前での「へんばい」、大地を踏みしめる舞の動作は、悪霊を封じる魔除けの意味が込められております。お供の鬼達も沢山出て、舞庭狭しと乱舞する様子に見物の人々も思わず熱狂する舞いです。

山見鬼

舞庭の中央に据えられた釜に向かって、大鉾を振り下ろす釜割り。山見鬼の舞で一番の見所です。森を切り開き、田畑を造った祖先の姿を映し、「山の神」としていつも村の暮らしを見守ってくれる心強い存在です。



禰鬼

根っこが付いた大きな禰を持って登場する禰鬼は、鬼様の中では格が一番上とか。

気品ある風格で平安を願う舞いは人々を圧倒するが、禰宜さまとの問答に負けて、魔の火を鉾の柄で引っかき回して悔しがり退散するやんちゃな一面もあります。

朝鬼

白い面をつけた、子供が大好きな優しい鬼です。村の将来を担う子供の誕生、成長は人々に希望と生きがいを与えてくれます。暖かく子供達を守ってくれる朝鬼に、そんな願いを込めて舞われます。

愛知県東栄町「御園花祭保存会」を迎えて!

花祭り次第	
12時	湯立て・釜払い ばちの舞 式さんば
1時頃	地固めの舞(扇) 地固めの舞(剣) 市の舞
2時頃	山見鬼の舞 三つ舞(扇)
3時頃	三つ舞(剣) 火のねぎ・おきな みこ・おさんど 三つ舞(棟塚)
4時頃	順の舞 花の舞(舞上げ)
5時頃	四つ舞(扇の手) 禰鬼の舞
6時頃	湯熨子の舞 (時間は多少前後します)
*振る舞い甘酒……3時頃	
*振る舞い酒……鬼の出る時	

第15回 2007年

開催日…12月8日(土)

場所…地域センター前広場 12時～19時

◆講習会

5月3日(火)～5日(木) 於御園

10月20日(土)～21日(日) 講師…佐々木豊さん 清水靖さん

接待 花若

◆夏合宿

日時 8月11日(土)～13日(月)

場所 御園 大人だけ6人

◆御園花祭

日時 11月10日(土)～11日(日)

◆舞習いの夕べ

日時 6月16日(土)～17日(日)

御園花祭保存会の清水晃さん、植田東さんを迎えて、歌ぐらの練習、傍らで食事をしながらの舞習いなど、初めての取り組みでした。

◆NPO御園夢村興し隊が設立される

東京花祭り実行委員会および個人が賛助会員として入会。

◆新年会

日時 2月10日(日)

歌ぐらカルタ

◆会費

年額1,000円に変更

祭り運営は協力券と寄付金でおこなう。

『奥三河の山奥から鬼様がやってくる…東京花祭り十五周年』

今年も、秋過ぎて「冬咲く花」の時節がやってきました。みなさま方のお力添えと、愛知県北設楽郡東栄町「御園花祭保存会」の御指導と援助により、東京「花祭り」も十五周年を迎える運びとなりました。「悪霊退散」「五穀豊穣」「子孫繁栄」「魂の再生」を願って、七〇〇年もの間行われ伝えられてきた国重要無形民俗文化財である「花祭り」の伝統を、東京でも多くの人々と共に伝承し、交流を深め、楽しもうと関係者一同努力してまいりました。みなさんと共にこの「十五周年」を祝いたいと思っております。是非お越し頂き、お力添え下さいますよう心からお願い申し上げます。

2007年度東京「花祭り」十五周年実行委員会

TEL 042(473) 8484 広木方

日時 二〇〇七年二月八日(土) 十二時～七時頃

会場 東久留米市西部地域センター前広場

演目 湯立て・地固めの舞・花の舞・榊鬼の舞・三つ舞・湯囃子の舞等

交通 JR中央線武蔵小金井駅、又は西武新宿線花小金井駅

又は西武池袋線東久留米駅下車、

滝山団地・久留米西団地行きバス滝山団地センター下車1分

本格的な冬を迎える時節になりました。

去る十二月八日の「東京花祭り十五周年」には、多大のお祝いや励ましのお言葉を頂き、心より御礼申し上げます。また花祭りの里・愛知県東栄町からは御園区を上げてこの「十五周年」を取り組んで大勢でお越しいただき、祭りをより立てていただきました。おかげさまで、地元商店会を始め多くの人々の思いと力が寄り合わさって、「東京花祭り」も、ようやく祭りらしい雰囲気が出てきたかとうれしく思っています。

景気回復といわれるこの頃ですが、一人一人の状況は以前にもまして忙しく厳しくなっておりますかと思えます。このような中でこそ、「花祭り」の伝統が持っている力、つまり皆の思いを寄せ合い語り合って、人間の素晴らしさと美しさを育て合い花咲かず知恵と技術が、大切なものだとひしひしと感じました。

この「十五周年」を土台に、「舞や「楽」・「運営」や「設置」などについてしっかりと検討し、「花祭り」の輪を広げ深め、有意義な楽しい「東京花祭り」を目指して歩んでいきたいと思っております。

今後共、御指導・御援助・御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

御礼しご挨拶まで

『東京花祭り十五周年』実行委員会

〒187-0002 東京都小平市花小金井4-6-5 広木方

第16回 2008年

開催日…12月13日(土)

場所…地域センター前広場 12時～19時

◆講習会

5月3日(土)～5日(月) 於御園

11月29日(土)～30日(日)

講師…佐々木豊さん、伊藤浩也さん、清水靖さん

◆御園花祭

日時 11月8日(土)～9日(日)

◆月の花祭公演

日時 1月31日(土) 於一ツ橋教育会館

「民俗芸能と農村生活を考える会」主催
会から見学に出かける。

◆新年会

日時 2月10日(日)

◆御園のできごと

御園花祭保存会若連の清水靖さんが9月に結婚。



お祝い

「第十六回東京花祭り」のご盛会を心より、お祝い申し上げます。私の地元、奥三河の「花祭り」を東京で伝承して頂き、国指定の重要無形文化財の保護と伝承の為に、日々ご努力の皆様、心より敬意を表するものです。地元でも、地域の過疎化と高齢化で存続が危ぶまれている地域も有り、東京でこの様に盛大に開催される「花祭り」に感謝を申し上げる次第です。今後共、伝統文化の保護と発展に向け、皆様のより一層のご支援とご厚情をお願い致しますと共に、本日ご参集の皆様のご健勝と益々のご発展を祈念致します。

平成二十年十二月十三日

(衆議院愛知十四区選出)

衆議院議員 鈴木克昌

東京花祭り代表
人見 勇三様

第十六回「東京花祭り」のご盛会を心よりお慶び申し上げます。愛知県奥三河の「花祭り」を東京にて伝承下さる関係各位のご努力に對しまして心から感謝と敬意を表しますとともに、皆様方にとりまして楽しいお祭りのひとときとなりますようご祈念致します。

衆議院議員 杉田 元司

愛知県東栄町 「御園花祭保存会」を 迎えて!

.....花祭り次第.....

- 1 2時 湯立て・釜払い
ばちの舞
式さんば
- 1 時頃 地固めの舞 (剣)
市の舞
山見鬼の舞
- 2 時頃 三つ舞 (剣)
- 3 時頃 すりこぎ・しゃもじ
順の舞
- 4 時頃 花の舞 (舞上げ)
順の舞
花の舞 (盆の手)
花の舞 (湯桶の手)
- 5 時頃 四つ舞 (扇の手)
花の舞 (舞上げ)
榊鬼の舞
- 6 時頃 湯囃子の舞
(時間は多少前後します)

- *振る舞い甘酒…… 3時頃
- *振る舞い酒…… 鬼の出る時

御園花祭りのご盛会を心よりお祝い申し上げます。
伝統芸能保存の為、ご尽力賜っております皆様へ敬意を表しますとともにますますのご活躍、ご健勝を祈念致します。

参議院議員

浅野 勝人

第17回 2009年

開催日…12月12日(土)
場所…地域センター前広場 12時～19時

◆講習会

5月3日(日)～5日(火) 於御園 人見 船津 千田
10月31日(土)～11月1日(日)
講師…佐々木豊さん 本田博さん 清水靖さん

◆夏合宿(御園)

8月12日(水)～14日(金)
参加者 18人(大人10人、小学生4人、幼児3人、乳児1人)
久しぶりに貸し切りバスを利用しました。練習、鯨つかみ、交流会など楽しく生活しました。初めての人も多く貴重な体験ができたと思います。

◆御園花祭

11月14日(土)～15日(日)

◆奥三河花祭り見学

1月2日(土)～4日(月)

◆新年会

1月17日(日)

◆ダンス白州 奥三河「御園の花祭り」

2月13日(土)
2004年夏に続き2回目。
参加者…人見 穰 千田
東京在住の尾林暁史さんも東京から参加。

◆東京花祭りカレンダー制作

祭りのご祝儀のお返し品としてカレンダーを制作した。
カレンダー制作委員…人見、広木、千田、川上、

加藤、室井、元田

◆囃し賞新設

佐々木責雄さんの好意で、祭りで囃しがよくできた人に景品をあげることになりました。



ダンス白州2009 空の節で 田中浪さんと

愛知県東栄町「御園花祭保存会」を 迎えて!

.....花祭り次第

- 湯立て・釜払い
 - 12時頃 ばちの舞
 - 朝鬼 式さんば
 - 1時頃 地固めの舞(剣)
 - 市の舞
 - 三つ舞(扇)
 - 山見鬼の舞
 - 2時頃 ひのねぎ・おきな
 - すりこぎ・しゃもじ
 - 3時頃 三つ舞(剣)
 - 花の舞(扇)
 - 花の舞(舞上)
 - 4時頃 順の舞
 - 花の舞(盆)
 - 三つ舞(扇)
 - 5時頃 花の舞(湯桶)
 - 三つ舞(棒塚)
 - 花の舞(舞上)
 - 6時頃 神鬼の舞
 - 湯囃子の舞
- (時間は多少前後します)

- *振る舞い甘酒 … 3時頃
- *振る舞い酒 … 鬼の出る時
- *とん汁 … 協力券をお持ちの方

第18回 2010年

開催日…12月11日(土)

場所…地域センター前広場 12時～19時

◆講習会

5月の御園講習会は中止

10月30日(土)～31日(日)

講師…本田博さん 尾林和明さん

◆夏合宿(御園)

8月11日(水)～13日(金)

参加者 8人(大人5人、小学生2人、幼児1人)

練習 切り草講習、プラネタリウム鑑賞

◆御園花祭

11月13日(土)～14日(日)

参加者 20人

◆奥三河花祭り見学

1月2日(金)～4日(日)

◆新年会

1月23日(日)



夏合宿



夏合宿



御園花祭



御園花祭

第19回 2011年

開催日…12月10日(土)

場所…地域センター前広場 11時30分～19時30分

◆講習会

5月3日(火)～5日(木)

12人参加(大人9人、子ども…一誠、聖天、奏也)。

朝食は自炊、御園の子も参加。神野山ハイキング。

10月15日(土)～16日(日)

講師…御園若連2人

◆夏合宿(御園)

8月11日(木)～13日(土)

参加者 11人(大人6人、子ども6人)

練習の他、御園の盆踊りに参加、川遊びも楽しむ。

◆伝統文化研修セミナー(全日本郷土芸能協会主催)

8月21日(日)

事例発表者として参加。廣木さんが「東京花祭り」について発表。

◆御園花祭

11月12日(土)～13日(日)

参加者 20人

◆花見(バーベキュー)

3月31日(土)



春 講習会



春 講習会



夏合宿



夏合宿

第20回 2012年

開催日…12月8日(土)

場所…地域センター前広場 11時～19時30分

◆20周年記念行事

- ① 6月の講習会
- ② お返しの商品として手ぬぐいを作成。
- ③ 2013年夏合宿のバス費用を支出

◆講習会

- 5月3日(木)～5日(土)
9人参加(大人6人、子ども…芽生、一誠、陸翔)。
- 6月8日(金)～10日(日)
講師は、清水晃さん、佐々木豊さん、尾林和明さん、佐々木幹根さん。
- 8日夜は団地センターパーク2Fで交流、舞。9日、10日は大沼地域センターで講習。
- 10月7日(日)～8日(月、祝)
講師…清水靖さん。

◆夏合宿(御園)

- 8月10日(金)～12日(日) 表やさんに宿泊。
- 参加者 13人(大人7人、子ども6人)
- 練習の他、パル豊根でバーベキュー。茶禅一で夕食。

◆御園花祭

- 11月10日(土)～11日(日)
- 参加者 20人

◆日本民俗音楽学会東京大会

「東京花祭りの20

年」について廣木さ

んが発表しました。

◆新年会

1月27日(日)

東京花祭り20周年について

永く続いてきた芸能・祭りはそれを直接維持してきた人々と支えてきた集落の人々の力が合わさって成り立ってきた。

そしてその営みの中で、伝統芸能は皆の思いを結集し、集落の人々の思想、感性を反映し、その結晶として伝承されてきた。そのことを続けていくためにはエネルギー、知恵とそれを裏付ける経済力があり努力と苦労がある。だからこそそれはオウガ村・町の誇りであり、財産でもある。

その祭り、芸能、具体的にはその祭りの中の花である舞なり踊り、囃子を他地域、他の人々に伝えるということは大なり小なり抵抗、葛藤があるのは当然である。

東京花祭りは御園の絶大な支援・指導のもとにここまでやってきた。このように大都会東京のある地域で、過疎でなくなるかもしれない祭り、芸能を伝承するという事は日本の伝統文化の危機を感じている人々には驚異である関心を向けている。

昨年は芸能団体をまとめている全日本郷土芸能協会の研修会で話をした。祭りの大事な道具であるお釜を東京花祭りはどのようにしてきたかを話したが、それが今年は民俗音楽学会で報告することになり、祭り当日にはNHK音楽伝統芸能班の方が見えるという。

子育て、祭り育ては手間がかかり苦労もあると思うが、共に苦勞し楽しく会をつくっていききたい。

2012年11月24日

廣木房枝



『東京花祭り二十周年・・・奥三河の山奥から鬼様がやってくる』

今年も「秋過ぎて冬咲く花の花祭り」の季節がやってきました。
 「御園花祭り保存会」をお迎えして、第二十回「東京花祭り」が開催できる事をうれしく思っています。これも地域の皆さまを始め、いろいろな方々の様々な支援のおかげだと思っております。この二十年、毎年楽しく開催出来る事を目標に努力してきましたが、「花祭り」とは、人と人との絆を育て深める智慧の「伝統」でもあったのだと言ったことを改めて考えさせられております。
 この花祭りの「伝統」と「夢」を語り合える場になればと願っています。
 是非お越し頂き、お力添え下さいますようお願い申し上げます。

2012年 「東京花祭り」二十周年実行委員会

〒042 (473) 8484 広木方

日時 二〇一二年二月八(土) 十一時～七時半頃

会場 東久留米市西部地域センター前広場

出演 湯立て・地固めの舞・花の舞・神鬼の舞・三つ舞・湯離子の舞 等

交通 愛知県東栄町「御園花祭り保存会」・「東京花祭り」

JR中央線武蔵小金井駅・西武新宿線花小金井駅・西武池袋線東久留米駅下車、滝山団地・久留米西団地行きバス滝山団地センター下車1分

本格的な冬が訪れて、この一年も、はや年を越す時期になりました。
 去る十二月八日の「東京花祭り」には、多大のお祝いや、「援助をいただき、心より御礼申し上げます。また、愛知県東栄町御園の皆さまや「花祭り保存会」には大勢お越しいただき心より御礼申し上げます。おかげさまで、すばらしい晴天にも恵まれて、地元商店会を始め多くの人々の思いと力が合わさって、無事盛大に二〇周年を執り行う事が出来ました。

「東京花祭り」にとつて、この二〇年は、とにかく楽しく字ぶ事をモットーにして努力してきましたが、「花祭り」の本質に少しでも迫っていく事が、楽しくなる要因であり方法でもあるのだなと言ふ事も気づき始めてきました。

二〇年前に、あの可愛い花の舞を舞った子供達が、子供が出来て、つまり孫が祭りに登場し始めています。まだまだささやかな数ですが、このような事が代々行われてきたのだと言ふ事も喜びと共に始めての経験として持ち始めています。

二〇周年を終えて、第一回目を始めたときの思いを振り返りながら・・・、これからはまた、新たな始まりだな・・・との思いを強くしています。

今後とも末永く、御指導・御援助・御鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。
 皆さまの健康とご多幸を祈念して、御礼とご挨拶まで

「東京花祭り」実行委員会

〒187-0002 東京都小平市花小金井4-6-5 広木方



国指定重要無形民俗文化財 奥三河の「花祭」
 東京花祭り 20年

「花祭」は、古くから日本で行われていた「神楽」が山伏たちの手で鍛えられ、それを愛知県奥三河地方に700年もの間、綿々と伝えられてきたお祭りです。

子どもたちが舞う「花の舞」や青年たちの舞、中年壮年の舞、「鬼の舞」そして「湯ばやし」などが夜通し舞い踊られています。太陽の力が一番衰えるこの時期に、その力を復活させ無病息災や豊作を祈願し、清らかで豊かな魂を再生する行事です。また子どもや青年の成長を祝うとともに、一年で一番厳しい時期を心を寄せ合い乗り越える行事でもあります。

日本は、世界有数の山岳山林園でもあり、その山や水・自然と共に生きてきた先人の智慧と文化・精神の華が、「花祭」として進化し守り伝えられてきたものと思います。

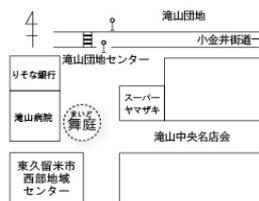
東京でも伝承し、豊かな成長を願い1993年に「東京花祭り」を始めました。地元保存会をはじめ、滝山中央名店会、東久留米市や小平市等たくさんの方々のご支援のおかげで、今年20周年を迎えました。

地域の皆様とともに花祭りの「伝統」と「夢」を語り合う場になればと願っています。

- ぼちの舞
- 地固めの舞
- 市の舞
- 順の舞
- 三つ舞
- 花の舞
- 山見鬼 神鬼
- 四つ舞
- 湯ばやし
- 火のねぎ・おきな
- すりこぎ・しやもじ
- 朝鬼 など

後援・指導・出演
 愛知県奥三河御園花祭り保存会

2012年度東京花祭り実行委員会 千田茂 TEL 042-473-8484



協力券 (一口五百円)

ぜひご協力ください。
 花の舞なべ・甘酒・お酒の振舞いあります。

JR中央線 武蔵小金井駅
 西武新宿線 花小金井駅
 西武池袋線 東久留米駅より
 西武バス「滝山団地センター」で下車徒歩1分



東京、花祭り

奥三河の山奥から
 鬼様がやってくる

2012年 12月8日(土)
 午前11時00分～午後7時30分

東久留米市滝山西部地域センター前広場

- 主催 東京花祭り実行委員会
- 協賛 滝山中央名店会
- 協力 しばたふとん店
- 後援 東京土建清瀬久留米支部
- 東久留米市
- 小平市・小平市教育委員会



第21回 2013年

開催日…12月14日(土)

場所…地域センター前広場 11時30分～19時

◆20周年記念事業

①花祭り研究会

5月に実施していた御園での講習会を改めて、「花祭り研究会」として実施することにした。

②夏合宿に取り組み、バス費用を支出

③「花祭りたより」を発行

◆花祭り研究会

4月30日(火)～5月2日(木)

第1回は4人の参加で、「地固めの舞」をテーマとし、清水晃さん宅で習った。宿舎は表屋さん。

◆講習会

10月13日(日)～14日(月、祝)

◆夏合宿(御園)

8月11日(日)～13日(火) 山荘に宿泊。

参加者 14人(大人7人、子ども7人)

練習の他、川遊び。

◆御園花祭

11月9日(土)～10日(日)

参加者 16人

◆物品販売

東日本大震災支援の「かりんとう」を1000袋扱う。

「東京花祭り」2013年

国重要無形民俗文化財
愛知県東栄町「御園花祭保存会」
を迎えて！

—花祭り次第—

- 11:20頃～ 湯立て・釜払い
- 11:35頃～ ばちの舞
- 11:45頃～ 式さんば
- 12:10頃～ 地固めの舞
- 12:40頃～ 一の舞
- 12:50頃～ 山見鬼の舞
- 13:30頃～ 火のねぎ・おきな舞
- 13:45頃～ すりこぎ・しゃもじ・みこ・おさんど
- 14:20頃～ 三つ舞(棒塚)
- 15:10頃～ 花の舞(扇の手)
- 15:35頃～ 花の舞(幣の手)
- 15:50頃～ 三つ舞(扇の手)
- 16:25頃～ 花の舞(湯桶の手)
- 16:40頃～ 花の舞(舞上げ)
- 16:55頃～ 三つ舞(棒塚)
- 17:45頃～ 禊鬼の舞
- 18:20頃～ 湯囃子の舞
(時間は多少前後します)

- * 振る舞い甘酒 … 15時頃
- * 振る舞い酒 … 鬼の出る時
- * 豚汁 … 協力券をお持ちの方



花祭り研究会

第22回 2014年

開催日…12月13日(土)

場所…地域センター前広場 11時30分～19時

◆花祭り研究会(第2回)

5月2日(金)～5月4日(日)

3人の参加で、「地固めの舞」の楽をテーマとした。
宿舎は表屋さん。

◆楽の講習会

9月14日(日)～15日(月、祝)

講師…清水晃さん

◆舞の講習会

10月12日(日)～13日(月、祝)

講師…御園花祭保存会若連

◆夏合宿(御園)

8月11日(月)～13日(水) 山荘に宿泊。

参加者 11人(大人4人、子ども7人)

練習の他、川遊び。交流会で流しそうめんを楽しむ。

◆御園花祭

11月8日(土)～9日(日)

参加者 10人

◆新年会

2月7日(土)

五平餅作り。歌ぐらカルタ



夏合宿

第23回 2015年

開催日…12月12日(土)

場所…地域センター前広場 11時30分～19時

◆花祭り研究会

5月1日(金)～5月3日(日)

3人の参加。研究課題は楽(三つ舞棒塚、役鬼)
宿舎は表屋さん

◆楽の講習会

6月20日(土)～21日(日)

場所…西部地域センター、大沼地域センター
講師…清水晃さん 参加者…8人

◆舞の講習会

10月17日(日)～18日(月、祝)

講師…清水靖さん

◆夏合宿(御園)

8月10日(月)～12日(水) 山荘に宿泊。

参加者…7人(大人3人、子ども4人)

交通手段…新幹線

練習のみ(レクレーション無し)。

◆御園花祭

11月14日(土)～15日(日)

参加者…26人

◆新年会

1月30日(土)



第24回 2016年

開催日…12月10日(土)

場所…地域センター前広場 11時30分～19時

❖2歳児4人が初出演

◆花祭り研究会

5月4日(金)

今回は東京・廣木さん宅で自主練習。

◆楽の講習会

7月9日(土)～10日(日)

場所…花小金井北地域センター、西部地域センター

講師…清水晃さん。8日(金)の夕方から来ていただく。

◆舞の講習会

10月22日(土)～23日(日)

講師…清水靖さん、佐々木豊さん、本田博さん

◆夏合宿(御園)

8月11日(木)～13日(土) 山荘に宿泊。

参加者…16人(大人8人、子ども8人)

吉田さん家族3人が初参加。

練習の他、パターゴルフなど。

◆御園花祭

11月12日(土)～13日(日)

参加者…12人

◆パナソニックスペシャル

テレコムスタッフの1年に及ぶ取材により「花祭」が全国TV放送される。



第25回 2017年

開催日…12月9日(土)

場所…西部地域センター前広場 11時～19時

❖「三つ舞」を中心に練習を積み、祭りでは4折舞う。

◆25周年記念事業

大型の物置を購入

記念誌発行

◆花祭り研究会

5月4日(金)

今回は東京・廣木さん宅で自主練習。

◆楽の講習会

7月7日(金)～9日(日)

場所…大沼地域センター

講師…清水晃さん。7日(金)の夕方から来ていただく。

舞上、あくま、三つ舞の楽を習う。

◆舞の講習会

9月30日(土)～10月1日(日)

講師…清水靖さん、尾林和明さん、藤原光晃さん

◆夏合宿(御園)

8月8日(火)～10日(木) 山荘に宿泊。

参加者…11人(大人4人、子ども7人)

練習の他、川遊びなど。

◆御園花祭

11月11日(土)～12日(日)

参加者…22人

◆新年会

1月27日(土)



- ばちの舞
- 地固めの舞
- 一の舞
- 順の舞
- 三つ舞
- 花の舞
- 山見鬼 櫛鬼
- 湯ばやし
- 火のねぎ・翁
- すりこぎ・しゃもじ
- 朝鬼 など

後援・指導・出演
愛知県奥三河御園花祭保存会

国指定重要無形民俗文化財 奥三河の「花祭り」
東京花祭り 25年

「花祭り」は、古くから日本で行われていた「神楽」が山伏たちの手で継がれ、それを愛知県奥三河地方に700年もの間、綿々と伝えられてきたお祭りです。

子どもたちが舞う「花の舞」や青年たちの舞、中年壮年の舞、「鬼の舞」そして「湯ばやし」などが夜通し舞い踊られています。本舞の力が一番見えるこの時期に、その力を復活させ無病息災や豊作を祈願し、清らかで豊かな魂を再生する行事です。また子どもや青年の成長を祝うとともに、一年で一番厳しい時期を心寄せ合い乗り越える行事でもあります。

東京でも伝承し、子どもたちの豊かな成長を願い1993年に「東京花祭り」を始めました。地元保存会をはじめ、滝山中央名店会、東久留米市や小平市等たくさんの地域の方々のご支援のおかげで、今年25周年を迎えました。

地域の皆さまとともに花祭りの「伝統」と「夢」を語り合う場になればと願っています。



協力券(500円)

ぜひご協力ください。
花の舞なべ・日酒・お酒の振舞いがあります。

- 主催 東京花祭りの会
25周年実行委員会
- 協賛 滝山中央名店会
- 協力 しばたふとん店
東京土建清瀬久留米支部
- 後援 東久留米市
小平市・小平市教育委員会



日時:2017年12月9日(土) 11:00～19:00
場所:東久留米市西部地域センター前広場

愛知県東栄町「御園花祭り保存会」を迎えて

国指定重要無形民俗文化財「奥三河の花祭り」を東京で伝承

第二十五回

東京花祭り

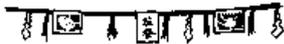
二〇一七年十二月九日(土)

西部地域センター前広場十一時～十九時

五穀豊穰
悪霊退散
家内安全
平和安穩

「花祭り」とは一年の内で太陽の力が一番衰える時期に、その力を復活させ、無病息災や豊作を祈願し、新しい清らかで力強い魂を復活させる行事です。愛知県奥三河の山奥に七百年もの間伝えられてきたお祭りで、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

東京でも伝承しようと滝山地域で始まりました。



後援 東久留米市
小平市
小平市教育委員会
協賛 滝山中央名店会
協力 東京土建東久留米支部
しばたふとん店



「東京花祭り」2017年

国重要無形民俗文化財
愛知県東栄町「御園花祭保存会」
を迎えて！

花祭り次第

- 11時頃 湯立て・釜払い
ばちの舞
式さんば
- 12時頃 山見鬼の舞
序の舞
- 13時頃 花の舞(盆)
花の舞(扇)
花の舞(剣)
お披露目舞
- 14時頃 花の舞(湯桶)
順の舞
- 15時頃 三ツ舞(扇)
三ツ舞(剣)
- 16時頃 東京鬼
三ツ舞(棒塚)
- 17時頃 花の舞(舞上)
三ツ舞(扇)
- 18時頃 神鬼の舞
湯囃子の舞

(時間は多少前後します)

- * 振る舞い甘酒 … 3時頃
- * 振る舞い酒 … 鬼の出る時
- * とん汁 … 協力券をお持ちの方



【花の舞】

花祭りの子供の舞は「花の舞」と言い、頭に花笠をかぶるのが特徴です。4、5歳でデビューをして「舞上げ」「盆の手」「湯桶の手」「扇の手」と4種類の舞があります。子供の成長に合わせて難易度が段階的に上がっていき、舞時間も約13分、約17分、約30分と段階的に長くなっていきます。

【三ツ舞】

中学生になる頃「花の舞」を卒業して、花笠をかぶらない青年の舞「三ツ舞」に移行していきます。舞時間は約45分のもの約1時間ものがあります。長時間の舞は過酷です。将来、その村の未来を背負って立つ若者達を体力的に、そして精神的に鍛錬する意味合いがあります。村人達は「三ツ舞」を通して若者達の成長を見守ります。

東京花祭りでは、時間の制限もあり「三ツ舞」を短くしたものを舞ってきました。しかし1時間の舞には1時間だからこそのストーリーがあります。体慣らしのような舞から始まり、ゆっくりじわじわと時間をかけて舞が進んでいき、終盤には舞い手以外の人達も大勢集まって、盛り上がりのピークを迎えます。子供達は皆「三ツ舞」に憧れ、「三ツ舞」を目標に練習に励みます。

東京花祭りの25年の歴史の中で中高生が1人もいない時期もありましたが、現在中高生は10数名いて正に嬉しい悲鳴です。

今回、「東京花祭り25周年」のテーマを「三ツ舞」と位置付けて「三ツ舞」を4つ舞います。一つ一つの舞がとても長いですが、極力短くしないで舞います。長い舞の中にはドラマがあり、若者の成長が込められています。

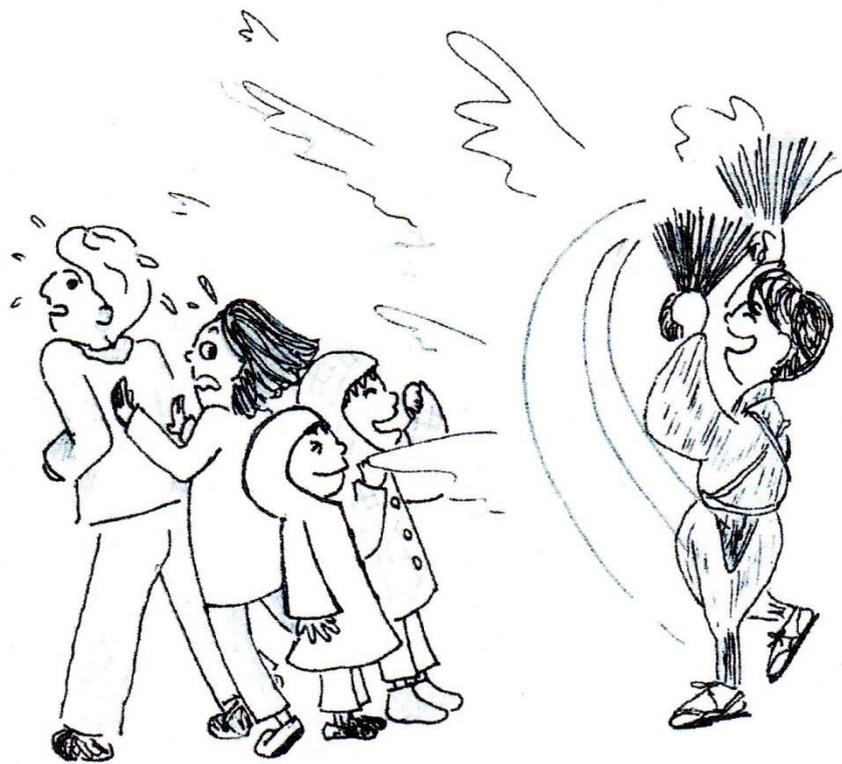
是非皆様に地域の若者の成長を見守ってあげてください。若者達が意気揚々と舞っている時も、疲れて下を向いている時も「テホへ」と声をかけて応援してあげてください。そのエネルギーが若者のエネルギーとなり、そして地域のエネルギーへと繋がっていきます。

【鬼さまのはなし】

古来、鬼は祟りをなす、人々を迫害するものとして恐れられ、追い払われる対象となっております。しかし花祭では、その力強い威力と頼もしい存在に畏敬の念を込め「鬼さま」あるいは「神さま」「山見さま」と呼んでおります。

釜の前での「へんばい」、大地を踏みしめる舞の動作は、悪霊を封じ込める魔除けの意味が込められております。お伴の鬼たちも沢山出て舞庭狭しと乱舞する様子に見物の人々も思わず熱狂する舞です。





花祭りの「舞・振り・動作」本質と理念

東京花祭り…人見勇三 記す 二〇一一年 五月二日

「舞や楽」（芸能側面）についての基本と本質について

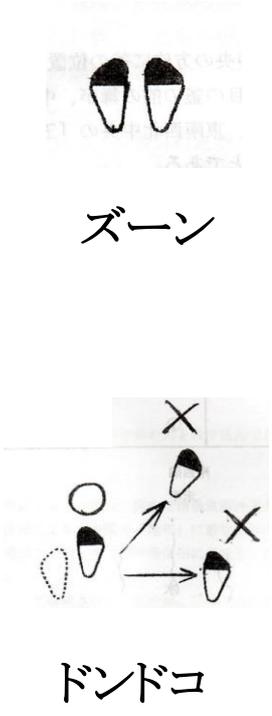
二〇一一年 四月十一日

これまで、花太夫の清水晃さんから、最初から一貫して指導指摘されてきたことをまとめ、今後の研鑽発展の要として芸能的に深め高めていくことが、今後の「東京花祭り」の舞や楽の本質とその発展の大事な指針の要となる。検討の参考にしてください。

移動しないときの足の踏み方について

他の場所に移動するのではなく、その位置でその場所を踏み鎮める動作であること。

人によって、横や斜め前に踏み出す人もいるが、舞の動作上横に踏み出す意味と必然性がない。基本的にその場で踏む。移動のための準備動作ではないその場で半足くらい踏み出す程度。



移動するときの足踏みの位置について

移動する方向に踏み出すことが当然ながら必要になる。移動する足の歩幅は、基本は歩幅大きくしないで進むこと大きな歩幅で移動するのが基本ではない。反問を行いながら丁寧に移動すること。その状況に応じて大きく踏み出す箇所がある。必要な個所では大きく踏み込むこと

テホへ舞も基本的には足は開かない

両足そろえて踏むのが基本 両足を開くのが基本ではない

手・扇・鈴・剣・谷地棒・いなだく動作

「いなだく」とは、頂くの発展表語で、いただき自分の身の中に取り込んでいく動作所作のこと。他の神楽の舞などに普遍的に基本動作として見られる所作

採り物：依り代としての扇や鈴、剣や御幣に寄りついた乗りついた神や精霊の魂や力・気を我が身に取り込み、舞手自身が神の魂や精霊の力が充滿していき取り込み所作 自己を浄めていく動作

あらゆる舞の基本動作所作の一つである
舞手の身体が清められ高められ、身体の重さを
神・精霊と体化する身神体の芯に、清新な気高い
ものを通していく動作所作である。
主として、天・空間との関係

足脚の動作・・・反閉・踏む・鎮魂

その土や場所に反閉・踏み込む・植え込む・魂を鎮め込む動作・所作

悪霊を沈め込み、同時に、善霊を興し身体に頂く動作・所作主として、大地との関係

跳躍はその発展成長型

大きく踏み込むための準備的所作・動作

上へ飛びあがるのが目的ではなく、大きく豊かな反閉を行うためのエネルギーや力の取り込みの所作動作
従って大きく力強い反閉を行うには豊かな大きな跳躍が必要となる。

回転も反閉の発展型

回転しながら、ねじこみながら反閉を行うことによって、より豊かな広く効果的な鎮めと興しを行う行為所作
回転することが直接の中心目的ではない。

回転の意味と内容

- ① トランス状態へ入り込む準備動作
- ② 反閉の発展型

舞の基本動作の習得

一

一九九八 十月十五日 記す

一、「基本ステップ」…(二拍子)ズーンドンドコ ズーンドンドコ

手…右手鈴の持ち方…横に前向きに

鈴の鳴らし方…身体が沈んだときに握るように

左手採り物の持ち方…扇子親骨に親指と小指をかけるように

うに要を軽く握る 盆・湯桶・谷地

棒・太刀の持ち方動かし方

両手腕の広げ方…真横ではなく少し前に柔らかく肩より

高くあげる。両肩は力まない 水平より

高く、輪を描くように、充分見える

視角の中にはいるように

足…膝を柔らかく屈伸すること 基本的にはその場で踏む

ズーンで着地したとき両足で地面を踏みしめる動作(片

閉の原初始形態)

ドンドコで出す右足の歩幅は半歩ぐらい基本的には前へ

踏み出す。

左足をあげる動作で、膝でリズムを取るように、右膝を充

分曲げる。(これも地面を踏む動作) 体重を乗せる

脚…

頭…背骨・頸椎の上に素直にバランスをとる

胴…背筋はまっすぐ、前かがみにならない

腰…

身体全体は上下動。横には動かない。斜前めでもない。

その場で踏む

二、「あおり」…基本リズム七回で一パターンを三回、四回目で

移動 東西南北（四方立て）

手 鈴の持ち方…肘を貼る 広げた腕を肘から折り曲げた形

鈴は胸より下がらない

扇の要いなく所作…目上の高さ額おでこのあたりでいなく

扇を左に振ったときの位置 形…左後ろに充分回すとき

も手が下がらない様に

谷地棒は余り上がらないように少し下げて

太刀のとき

足 基本リズム四回目で深く沈み、扇をいなく動作に入る

前に少し大きく出る

三、「舞い」…右左右と回る動作…これが舞いの語源。あおりの

動作の発展型

舞の回る動作の楽しさ面白さ自分の物に出来るように心地

よさが大きく柔らかく舞い回る課題 基本一、二、を土台に

して舞う（片閑の要素を忘れぬように、身体が沈み込んだ勢

いで回る）

ズーンで沈み込む、ドンドコで送り足（次の軸）を送り体

重架け替え

四、「すくみ」…扇で押さえて一両手鈴と扇を引きさけるように

扇を掲げるー下がってー大きく飛び込むーしゃ

がんで右左右立って四、五回舞って輪に入る

五、「入り舞い」

足 元氣よく膝を屈伸して地面を踏みしめて、伸びあがり

少し上に飛び上がるように上から踏みしめる（片閑原

初態）ドーンコズットンは左右と踏み、テンテントン

トンも左右と踏み大きく左右に両手振り上げて下がり

気味に、

六、「テホへ舞い」…元氣よく舞いながら、上から地面を踏みし

める動作（片閑原初態）両足で踏みしめた

後伸びあがり少し飛び上がるように！両足

は余り広げない。

「舞の発展型」

トホへの入り方…左足から回りながら

舞って回る…四隅へ大きく跳んで移る

舞の基本動作の習得 二

エンヨー(三拍子)…(鶴の舞い)

鈴、扇の手充分前から上に上げて回す。チョコンと跳ばない・すり足のようには跳ぶ

扇の持ち方 両手三、四回糸巻きして下からゆつたりと広げる広がり方は基本と同じ伸び上がり方…スーッとゆつくり伸び上がる。羽を広げるように

手 足 頭 胴 腰 それぞれの基本的な形を全体統一して習得する

「すくみ」…ゆつたりと豊かに

※各舞の次の鎖へ移り方をしっかり習得する事

※「群舞の基本」を習得すること

四人の連なり方・位置取り関係・方向

群舞の基本は四人一体で、その場と空間を清め鎮め支配して行くこと

四方立て…

おしめ口…

輪…

鈴・扇合わせ…

釜の前の舞い…

釜のくろの舞い…

自座の確認

方向…東南西北中央 四正四隅 九方 天地人(天地中) 正反合
リズムの共有…舞庭を踏み鎮めていく動作・図形を描いていく

動作

歌の共感内容…空間と時間を共に創造する行為(神の来臨する

世界・魂鎮め) 順逆順 右左右

一番になった人の課題

次の動作に移る動作合図をしっかりと大きくすること

(四回目合図)

入り舞…

テホへ舞い(舞い立ち)…①の場所へトホーへで飛び込むこと

陰陽五行思想用語

五行…木火土金水

五方…東南西北中央

四正…東南西北

九方…四正四隅中央

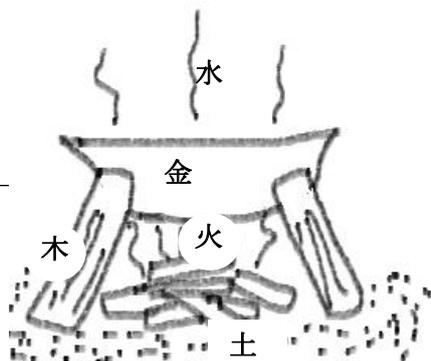
四隅…東北・東南・西北・西南

順―逆―順(右―左―右)

片閉 九字 契印 壺切り 切払い 射払い

正―反―合 天―地―人(上―中―下)

大陽 大陰 少陽 少陰 陽 陰 太極 太一



現地御園では花の舞から三つ舞にはいった時点で、厳しく仕込み鍛えられた。子供の舞いから大人の舞・青年の舞にはいつていくための大事な節目であった。東京では、この節目が曖昧になってきたが、これまで注意指摘されてきた点をメモしました。この際**基本的な動作**で、花の舞との共通点と違いをしっかりと覚え身につけよう！

二拍子の舞

- ① 足の踏み方が大人の踏み方に 基本踏み脚 その場で出す右足は基本的には、斜め前へ大きくではなく、前へ少し踏み出し体重を乗せる
出す右足膝は突っ張らないでゆっくり曲がる・沈む
 基本的には**体は前向き**で 斜めに揺れる人があるが
- ② 「舞」の足の踏み方・回り方が大人の踏み方・回り方にズーンズットン…ズーンズツまで充分回り込む
ズツの時もう一步送り回し込み、重心を両足に乗せる
ズーンの時ゆっくりと回り、半回転くらい
ズツの時回し込み、トンで緩やかに反転
 手で回さないで、足の踏み方と腰の回し方で回る。
- ③ 手の動きは二齣で、ズーンの時押さえ込みだが下には下がない(扇)
- ④ テホへ舞の基本の再確認…回転角度を大きく。両足を大股に開かない。上から踏み鎮める
- ⑤ 入り舞の基本の再確認…右左と踏み足 ゆっくり巡る左右に振らない

- ⑥ **片閉をものにする…楽しく自分を表現できるように**
 まで練習・習得
 一人反閉は、中央の舞
 四とこ反閉は、四方の舞

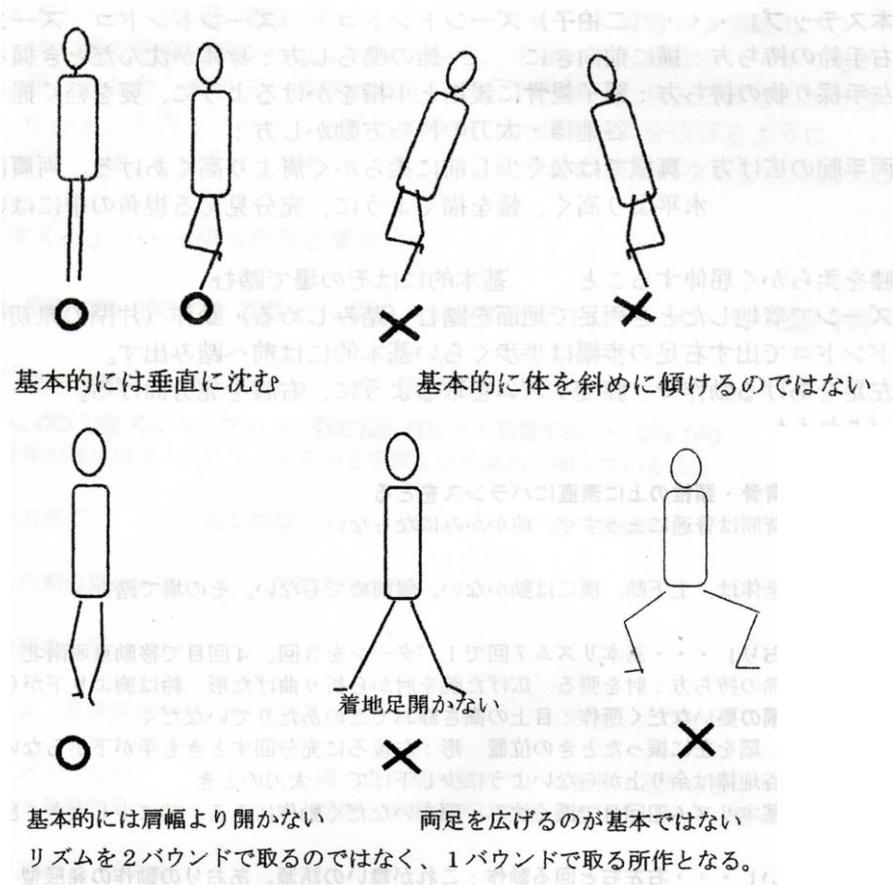
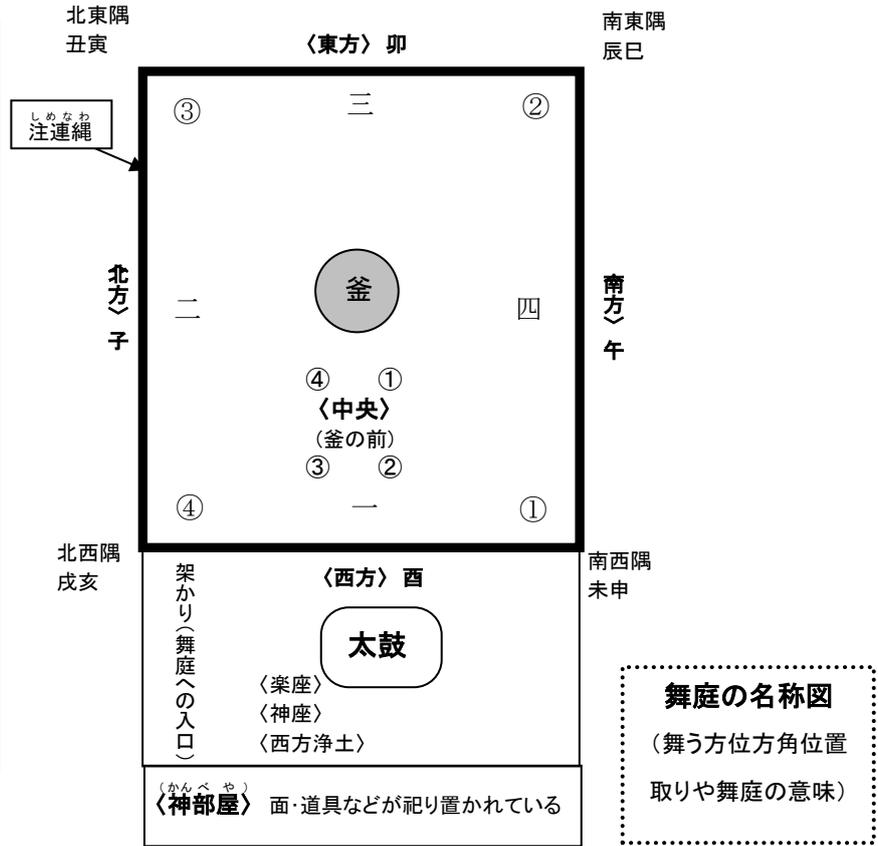
今までの、**気が付いた変な癖・弱点(もちろん無い人はいる)**

- ⑦ 首・頭と脊椎・背筋がバラバラにならない。首・頭を前後左右に振らない
 自然に垂直の姿勢…腰の上に脊椎が、その上に首・頭がのっかっている姿勢。
 普通に背筋・脊椎が回っている方向に、首・頭を向ける
 首・頭を反対の方向にねじらない。体の方向に普通にまっすぐ
 手だけ大きく回そうとするとそうなる。体全体で腰で回ること
 背筋・胴体は基本的には垂直に沈む。前後左右に振れないように。
- ⑧ **余り気にして堅くならず、のびのびと大きくおおらかに舞うように!**
 膝・足の沈み込みが充分でないと、前後左右の動きでカバーしバランスを取ろうとする。
 重心が沈み込んだとき、お尻を突き出さない
 一足を二バウンドで処理しようとする癖・基本的には一足一バウンド
 体全体を統一とれて動き舞うこと!

本来中央の方位に釜の位置であるため、五回目の釜の前の舞が、中央での舞となる。東南西北中央の「五方の舞」と言うことである。

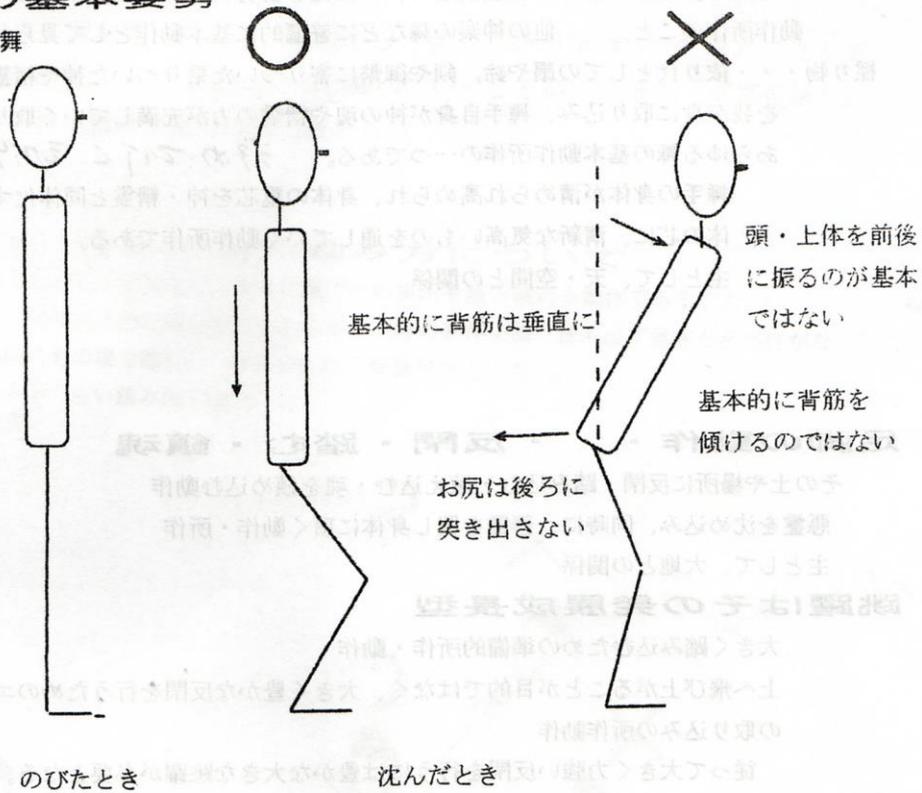
釜のくろの舞いが、四方での舞行となる。釜の前の舞が中央の舞か、釜のくろの舞の西方向の舞かを区別する必要がある。

中央では、地—中—天の位置がある。

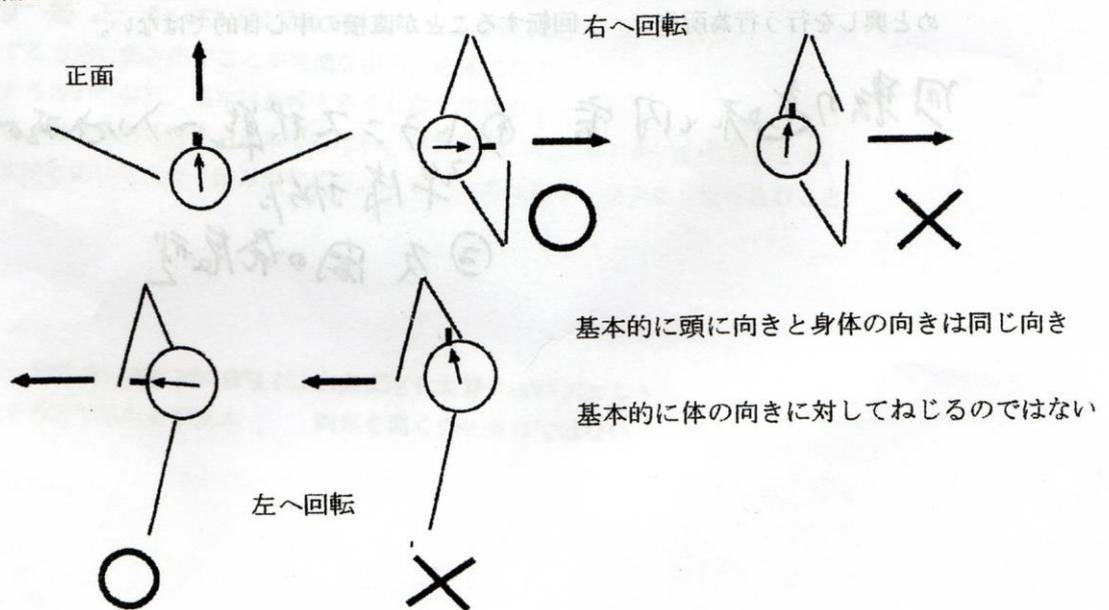


背筋の基本姿勢

二拍子の舞



回転したときの頭の向きと体の向き・・・身体のひねり・ねじりでは無いこと



御園花祭り「楽」を

学び伝承していくに当たったの方針と課題（案）

- ❖ 「楽」は、伝統的には舞をマスター・卒業した人が随時役割をきめて受け持つようになっていた。
- ❖ 舞習いの時から本番と同じように、大勢の楽人達と一緒に練習してきた。
- ❖ 特に太鼓を「楽」と称して、長老の人が受け持ち、舞や「楽」全体に責任を持ち指導してきた。
- ❖ 古代、宮中で行われていた「舞楽」の形態をもっているが、もともと古い原始舞踊の要素を含んでいる。

うたぐらについて

- * 唄の内容を把握・研究すること
- * 歌詞の順序の研究・歌で舞のテーマやストーリーが進行していった。当面は帳面順で
- * 旋律の研究・三拍子・二拍子
- * 発声のあり方やダシ（太鼓の人）・ツケ（大勢の合唱）の受け答えのあり方
周りの勢庭衆達も歌い囃した

笛について

- * 音程のそろえかた・メリ・カリの訓練。使用する笛の種類について

- * 吹くときのマナーと決まり・アンサンブルのし方・「楽」太鼓のリードをよく聞き分けること。太鼓のリードを無視しないこと

- * 笛全般についての基礎力量の向上・・・
- * 舞手が笛の音を聞いてリードされて舞っている部分や太鼓に左右されて舞っているところなどがある
- * 各舞の所作・振り区切り目の吹き方を覚える。舞の順序を覚える

太鼓（楽）について

- * 全体の指揮者の役割・・・伝統的には全体の指導的・長老的立場にある人が受け持ってきた。
- * 歌倉をしっかり歌い出す技術・・・演目や状況に応じた歌詞を歌い出すことを研究していくこと。
- * 太鼓のたたき方・ひびかせ方・・・太鼓の基礎技術の訓練・基礎リズム訓練。メリハリの訓練。
舞のリズムと同時に歌のリズムや旋律を叩き囃すこと

せいと衆のかけ声について

- * 見物衆がテホへや歌倉などが囃せるようになると本物

一九九八、十一、五

御園花祭資料『楽』

人見 勇三 記す

歌倉二拍子

御園花祭り

人見勇三編

※笛運指表記便のため、実音は長2度下。以下同じ

ダシ

は な の ま - い さ し で る す が た
あ き す ぎ - て ふ ゆ さ く は な は

※下段のようにも歌う

ツケ

は な か と よ は - な か - と - よ
きょう う か と よ きょう - か - と - よ

は - な と - さ し で て す が た み ら る れ
か - ぜ も - の ろ か に や よ に さ く は な

ダシ (+ツケ)

は な と さ し で て - す が た - み ら る れ
か ぜ も の ろ か に - や よ に - さ く は な

律音階

オ モ - シ □ ヤ
オ モ - シ □ ヤ

(核) (核)
徴 羽 宮 商 角

※花の舞の時と、ゆったりした大人の舞の時と少し歌い方が違う。

※歌詞により旋律が少し違う部分がある

歌倉三拍子

御園花祭り

採譜・人見勇三

ダシ

3型 エ ン 工 ー 工 あ き
4型 エ ン 工 ー 工 お ぶ

す ぎ ー て ふ ゆ
す な ー の お ま

さ く は な と は ヨ
え を か ー ざ る ヨ

ー ー サ きょ う か
ー ー サ お し め

ツケ

と ー ヨ 3型 きょ う か と
だ ー け 4型 お し め だ

3型省く

よ か ぜ (省) も の ー ろ ー
け む ら さ き さ ー か ー

か ー に ヤ ー ー や よ に ー さ
え ー て ヤ ー ー や や ま と ー ぶ

ダシ(+ツケ)

く は な か ぜ も (木)
え た な け む ら さ き

の ろ か ー に や よ に ー
さ か ー て や ま と ー

さ ー く は な オ ー モ シ ロ
ふ え た な け オ ー モ シ ロ

□ 歌ぐら

□ 衣装

□ 舞庭・設営

□ 後援組織

□ 花だより



花祭りの奥深さ

元田 剛

あれは何回目のことだったか、初めて地域センターで開催されることになった年のことです。宇野徹さんに誘われて見に行ったのが縁です。

「花祭り」については、それ以前から柳田国男先生、折口信夫先生の民俗学の著書を通して知っていて、また花祭を最初に世に紹介した早川孝太郎さんの著書「花祭」や芳賀日出男さんの写真集などで、その断片的なイメージは抱いておりました。

しかし現地を訪れたことは無く、それは著書を通して、あるいは写真からの知識であって、我が国に古くから伝わる土俗的信仰と悪霊払い、生まれ清まりの祈願など修験道との関わりといった、主として日本人の死生観という側面からの興味が中心でした。

今から二十数年前のことです、ほとんどの演目を御園の方々が中心で舞っておりましたが、その実に躍動的な動きと呪術性を帯びた所作の、何時果てるとも無く延々と繰り返される舞いの動き、初めて実際に目にした「本当の花祭」に圧倒され、私が従来抱いていた花祭に対する呪術的静的なイメージはその時全く一変致しました。みんな若かったです。また御園の方達に始めてお会いしたわけですが、中でも強く印象に残っているのは、三つ舞いで佐々木豊さんの舞い振りです。若々しい生命の躍動、今もその姿が鮮やかに記憶に残っています。これが私をその後東京花祭りへと引きずり込むきっかけです。

父親が大分県宇佐の出で、私も若い頃に修験者だった叔父に連れられ大峯山や加賀白山などを歩き回ったことから、東京花祭りに顔

を出すようになって、やはり私の興味の中心は花祭の舞庭や舞いの裏側に隠れていて時折垣間見せる宗教的な部分でした。

当時は東京花祭りの打ち上げは広木先生のお宅で、御園の方々も交え全員が、溢れるばかり大勢、また時には民俗学者や大学の研究者達も一緒になって、そうだ民俗写真家の須藤功さんがお見えになった年もありました、夜を徹し熱く花祭りを語り明かしたのです。

その席で御園のお年寄り達から伺う花祭の史話や山見鬼、榊鬼の謂れ、祭文の読み解き、学者さんたちからは日本各地の伝統祭儀から世界の祭りの話、果ては古代ペルシャの拝火教まで話は及び、御園花祭の姿が見え興味深くまた一面学術的であり、お父さん達も大勢いて「東京花祭り」草創期の熱気に溢れた、それは実に楽しい打ち上げの会でした。

その後、花祭りでは（歌ぐら）に関わってきましたが、その歌詞中にかつて修験で出会った詞が随所に見られ、裏付ける事物や社などを識ることで一層花祭の奥深さを思い知らされたのです。

過疎化、高齢化で各地の花祭が姿を消しつつあり、見られるうちに見ておこうと、毎年冬になるとあちこちの祭りを見て回りました。

二〇一七年、東京花祭りは二十五回目を迎えることが出来ました。「東京花祭り」はその設立の動機からも（舞いの集団）なので、その円の中心から離れた外周に立ち居地を意識的に定めて、淡く関わってききましたが、日常から離れた花祭りの異空間で二十五年も楽しく遊ばせて頂き、人見先生には何とお礼を申し上げたら良いのかわかりません。

新しく子ども達が増え、益々賑やかになってきて嬉しいことです。御園六百年、東京二十五年、まだまだ追い付くには大変、一年一年を楽しんで続けていきましよう。

花祭は舞庭(まいど)の中心に湯釜を据え、天井から神々の依代(よりしろ)となる白蓋(びやつけ)・湯蓋(ゆぶた)を吊るし、周りにざげちを巡らせる。ここに八百万(やおよろず)の神々を勧請して湯を献じ、立願し、舞を奉納する。第一の目的はここにある。そして勧請した神々と和合し、「生まれ清まり」を祈願する。これが第二の目的である。さらに悪霊祓いや厄難除け、精霊の復活など様々の目的がこの祭りには含まれている。

祭りは大きく分けて、神勧請、湯立て、舞、神返しに大別できる。東栄町誌より

東栄温泉の前を通り、大千瀬川に沿って下ると途中で大入川を合わせて佐久間ダムで天竜川になり、しばらく行くと左から飯田遠山郷、青崩峠からの信州街道が会って、あとはひたすら天竜川に沿って152号線を走り、秋葉ダムの下で秋葉山大権現に着いた。

この秋葉権現の本来の名称は秋葉山三尺坊大権現といい、寺の縁起によると三尺坊は信濃の人で母が観音を念じて誕生し、6歳で出家してやがて越後国古志郡蔵王堂の一つの三尺坊の主となった。

不動三昧の法を修行し満願の朝、焼香の火焰のなかに、鳥の如く両翼が生じ、左右の手に剣と索を持つ相を感得し、一法を編み出し自ら本尊たらんことを思惟すると煩惱生死の業が滅尽、飛行神通自在となつて一匹の白狐にまたがり飛行して遠州秋葉山に降り立った。この鎮座は平城天皇大同四年(八〇九年)という。

この縁起から考察すると三尺坊は天狗であり、信州戸隠山には観音を祀る戸隠神社、すぐ隣には天狗で名高い飯綱権現があり飯綱行者は管狐をもつて予言すると恐れられたが、その流れは高尾山薬王

院にも伝えられていてやはり狐に跨った鳥天狗を描いた御札を出す。秋葉山三尺坊の信仰は剣難・火難・水難除けといわれ、全国から秋葉講を組んで参拝したが、特に密集した木造長屋に住んでいた江戸庶民には火難除けの秋葉信仰は大いに広まり、秋葉山三尺坊権現を勧請することが流行して「秋葉山大権現」と刻まれた石碑や秋葉神社が各地に残るし、JR山手線にも「秋葉原」という駅名が残っている。

秋葉山本宮・秋葉神社の例大祭である十二月十五、十六両日は特に参詣者が多く、当日は火防せ祭り・火渡りが行われて「秋葉の火祭り」として賑わう。

春の旅 花たちばな 駿河路行けば 富士のお山は春がすみ

風はそよ風 茶の香が匂う 唄がきこえる 茶摘み唄

富士と並んで その名も高い 清水港の次郎長

次郎長が義兄の仇である神沢小五郎を甥の仙衛門と共に討った「秋葉の火祭り」は広沢虎造の浪曲でお馴染みの場面である。

明治初年の神仏分離で三尺坊権現は袋井の可睡齋に移されたが、この可睡齋は庭園が美しい寺で裏に沼が有って、そこで竿を出した。十八尺で水深二メートルとやや浅いが釣台を置いて一時程エサを打ち続けているとやがてウキが動き出し、ジャミが数匹釣れて続いて尺半のへら鮒が釣れたがそれ一匹のみで後はまた静かになり、諦めて道具を片付けた。

秋葉山 谷に木の葉が 八重がさね

ひとえにおがむ 富士のお巖を

(花だより 第二号より)

『歌ぐら』歌って盛り上がりましょう！

篠崎 統夫

♪しめの内 八ツ目の鈴を 振り鳴らし

御前（ごぜ）のためとて 舞いや遊ぶら

花祭りの「歌ぐら」は何首あるか知っていますか？

答えは六十首あまりで、百人一首よりはずっと少ないです。

それでも「全部覚えるのは大変だなあ」と敬遠してしまっているあなたに朗報です！

実際の舞のときに歌われるのは、実は前の方だけ。二十首くらい覚えてしまえば、それでだいたい八割くらいはOKなのです（大雑把）。来年のカルタ大会では、下の句が読まれないうちにどんどん札をとれるように（二十首覚えれば優勝間違いなし）、いやその前に東京花祭りでは、みんなと一緒に「歌ぐら」を歌って盛り上がりましょう。

♪伊勢の国 いりこのすすき 穂に出でて

いかに駒形 食むやよかるら

♪峯は雪 ふもとはあられ 里は雨

雨に舞いての 時雨なるらむ

♪おぶすなの 御前（おまえ）をかざる おしめ竹

村さきさかえて 大和ふえたけ

（花だより 第七号より）



秋すまへ
冬咲く花は
今日かよ
風ものろか
八重咲く花





えんよう

地固め・三つ舞・四つ舞
湯囃子



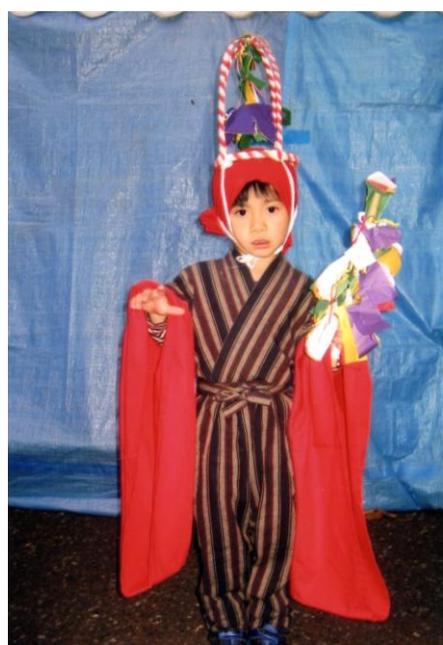
『赤』模様と『白』模様の二種あり、地固め、三つ舞、四つ舞で着ます。採り物によって衣装を替えていて、谷地では『赤』に赤たすきをつけて舞い、扇と剣では『白』に白たすきをつけて舞います。(三つ舞扇の手ではこの衣装の上に湯わぎを羽織り、四つ舞では湯わぎを持って舞った後、羽織って舞います。)
湯囃子では『白』に水色たすきをつけて舞います。



子鬼



衣装



舞上げ

舞上げの衣装は、千田郁子
さんのお母様が縫って下さっ
たものです。
布地も人見先生広木先生が
想いを込めて選びました。
第一回(仮称)東京花祭りの
時からの大切な衣装です。



あくま

衣装

千葉 初子

衣装を着て舞う子どもたちを見るたびに、

子どもの幼き日を思い出す

東京花祭りが始まった25年前、娘は4年生でした。

あじさい盆踊りでお世話になっていたのが縁で、先生直々に挨拶に
みえ、声をかけていただきました。

祭を見たことも、舞すら見たこともない「無」からの始まりでした。

衣装が必要とのことで、御園の700年の歴史を感じさせる趣の
ある衣装をお借りして型紙におこし、衣装づくりが始まりました。

呉服屋さんへ先生と布地を買いに行き、御園の衣装を基に最初に作
ったのは 盆・湯桶で着る青い衣装でした。

第1回東京花祭りが滝山小学校の図書室で行われた当時、演目は
舞上げだけで、衣装は青い衣装の上衣だけだったと思います。

舞が増えるごとにみんなで新しい衣装をつくり、とても華やかにな
りました。

自分たちの作った衣装を着て自分たちの子どもたちが舞い、その
子どもたちの子どもにも同じように繋がっていく。

自分たちのつくった衣装を着て舞う子どもたちを見るたびに、子
どもの幼き日を思い出し、この様に代々受け継がれていくことを嬉
しく思い、これからも続くことを願っています。



皆さん、祭りは好きですか？

日本人で祭りが嫌いな人は、少ないのではないのでしょうか。

日本各地で伝統的な祭りは年に数千件、イベント的な祭りも含めれば数万件ともいわれます。祭りは何故人をひきつけるのでしょうか。

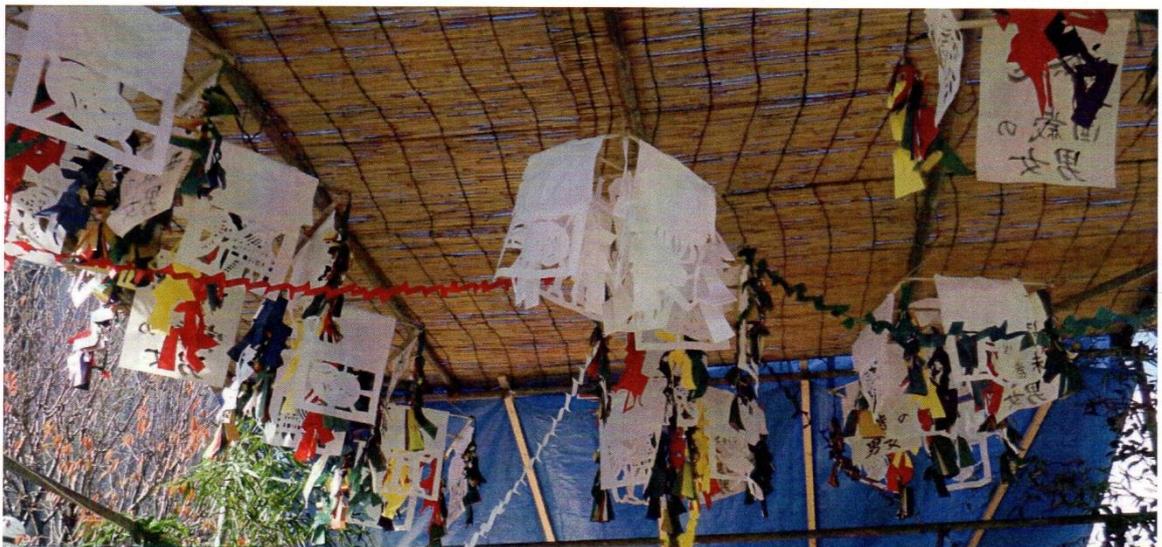
花祭りは七百年以上の昔から行なわれてきました。

勇壮な若者の舞、荘厳な鬼の舞、愛らしい子供の舞、ワクワクする太鼓や笛の音、せいと衆の囃しなど、それぞれが魅力ですね。

祭りに集まる人々もそれぞれ。とにかく自分が舞うのが楽しい人。子供が舞うのを熱く応援するお父さん・お母さん。囃しに熱狂する人。笛を吹くのが好きな人。伝統芸能の継承とか研究に熱心な人。飲みたい人。あるいは裏方に徹してみんなのお役に立ちたい、等々。

「祭りは人の集まり」ではないでしょうか。

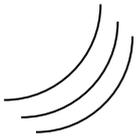
毎年、舞習いの傍らで大人・子供入り混じってワイワイ言いながら、五色の和紙を切ったり割った竹を紐で結んだりやっています。舞庭飾りは、あの作っているときが一番の魅力じゃないかと思えます。祭りが人の集まりだとすれば、飾り作りは、花祭りの大事な一部のように思います。



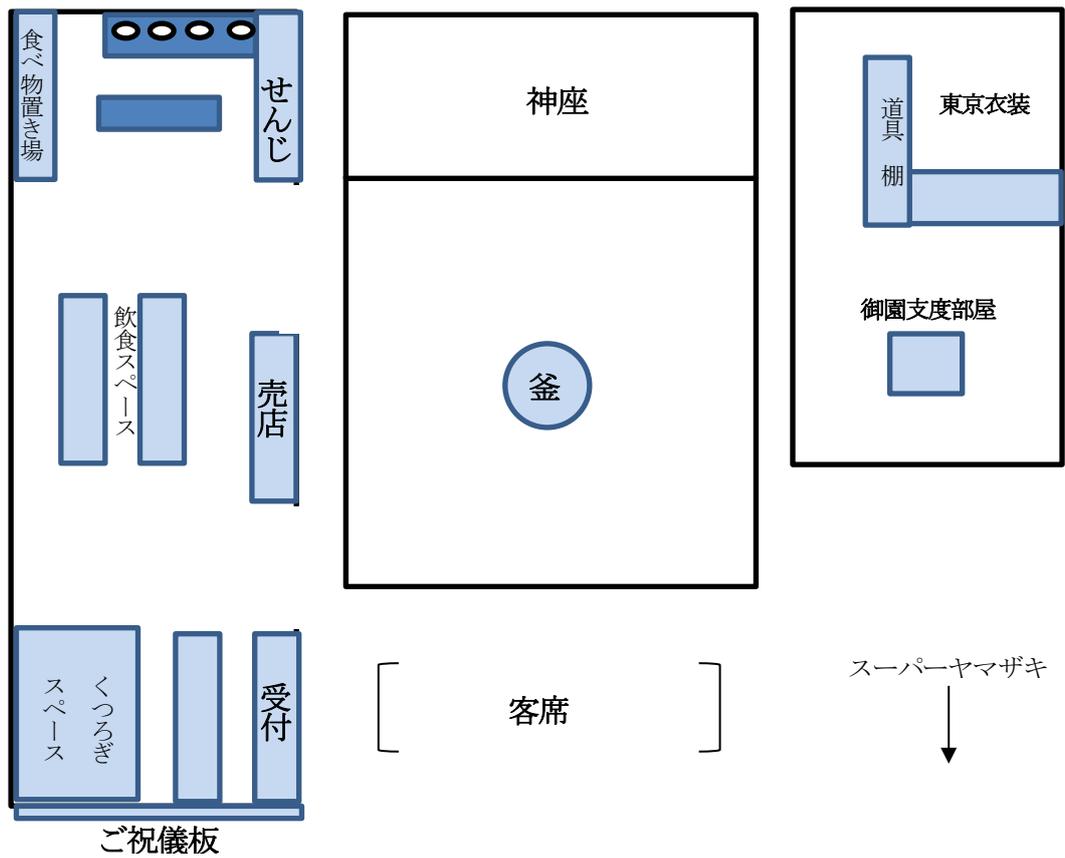
東京花祭り 舞庭周辺図

2017年 東京花祭り

西部地域センター



滝山病院



交流会

『交流会』は御園と東京が交流を持てる貴重な機会。毎年しばたさんのご厚意でセンターパークをお借りしています！25周年は商店会の横井さんも相談に乗って下さり、オープン前の『アルゴ参番館』スペースをお借りして沢山の人が集う事が出来ました！



【 舞庭 】

前日の金曜日に東京土建さんに建てて頂く舞庭。足場を組んでの骨組み作業はプロにお願いしますが、神座の部分は東京花の男手衆が水平器片手に木材とベニヤを重ねて作り上げます。当日の朝に御園の榊、奥住さんの竹、皆で作った飾り…舞庭に息吹が吹き込まれます。商店会に舞庭が建つと毎年感動します。25周年では、「大きく舞える様に、地面の凹凸の改善を考えよう」と土建さんや内装のプロ、様々な方から意見を聞いて検討し、厚いゴムシートを敷いて、子どもも大人もわらじを履いて舞いました！

【東京衣装・御園支度部屋】

前日の金曜日に舞庭と共に建てられるテント。テントや机椅子は土建さん、滝山中央名店会、センターパーク、西部地域センター、前沢小町商店街…色々なところからお借りしています。テントも一見普通に見えますが、床には段ボールを敷き発砲スチロールを敷きブルーシートを敷き…愛情たっぷり♡ここに入ると大人も子どもも根っこが生えてしまうので要注意です。

【 せんじ 】

西部地域センター調理室を借り土建婦人会にお手伝い頂いてせんじ準備や交流会の惣菜を作っていましたが、この数年はせんじで湯を沸かして一から豚汁・甘酒を作っています。大量の水をせんじまで運ぶのも力仕事！！子ども達も手伝って台車に鍋を乗せてジャバジャバこぼれない様に気をつけながら運びます。

25周年では受付・売店と横並びで舞庭にぐっと近くなり、会員の飲食スペースが出来たことで、皆で美味しい豚汁を食べながら会話も弾みました。鬼様の振舞酒や3時の甘酒を楽しみにしているお客さんも増えている様で、嬉しいです(^^)

【 売店 】

売店は、御園の煎茶・ほうじ茶・日本酒1合瓶・4合瓶・花祭DVD・版画・・・様々なものを取り扱っています。子ども達が店番に座って「いらっしやいませ～」と元気に言ってくると、お客さんも寄りやすいみたいです(^^)物品販売は協力券と同じく御園の皆さんを東京へお招きする大事な資金源です。みんなで売店も盛り上げていきたいですね！！

今年は売店が舞庭に近かったので、一合瓶片手に舞庭で楽しむ方も♪

【 受付 】& 【 ご祝儀板 】

東京花祭りの資金源『ご祝儀』。祭りを毎年行えるのはご祝儀を下さる沢山の方のおかげです。例年お返しはあかぎのお菓子ですが、25周年のお返し『ざぜちバック』は好評でした！毎年受付は星野さん、川尻さん、柳さん、渡辺さん、ダガスコさんに主に守って頂いています。いかに分かりやすく受付を運営出来るか毎年工夫を凝らして下さって、本当に感謝です！

(図・文 荒木)

東京花祭りの大切な方 しばた布団屋さん

しばたさんは戦時中、北設楽に疎開され、その時に花祭りに親しんだそうですが、まさか東京で花祭りに出会えるとは夢にも思わなかったそうです。阿波踊りや地域の活動を熱心に行っているうちに、滝山で花祭りをしていくと聞き、半信半疑で行った地域センターホールで「てほへ」を聞いたときには本当に懐かしく、驚いたと話されていました。

しばたさんが疎開された場所は、東京花メンバーもよくお世話になる和菓子店の若松屋さん近くの若松屋クリーニング屋さん。

当時の暮らしは、生活水は川や井戸の水を汲み、崖からしたり落ちる湧き水を竹の樋を通して風呂まで運び入れ、沸かしていたそうです。夏はきれいな川が遊び場で、川には大水に備えて橋の土台がレンガで出ている場所があり、そのレンガの山から川に飛び込んで流れに身をまかせると川岸につくという遊びをし、冬は大きなツララを見つけて、本当に自然豊かだったそうです。

御園にお布団を運んで下さる際に、川に寄って橋をのぞいてみたら、当時飛び込み台にしていたレンガ山が残っていて、その時のことが思い出されて何とも言えない感動だったと話されていました。夏合宿で川に行かれる方は是非そのレンガを探してみてください！

当時はクリーニング屋さんの坂を上ったところの高校で高校生が藁束に向かってナギナタの練習をしているところを見たり、子ども達が杉の葉を集めて風呂焚きの準備をしていたり、縁側に花嫁さんがお歯黒を塗って得意げに座っていた姿だったり…と想いがいっぱいある土地なので、東京花祭りの度に、御園の皆さんが夜中に出発してまで祭りの為に来て下さって、当時の話や北設楽の四季や町並みの話が出来るとは本

当に嬉しいとのことでした。「町全体が穏やかで素晴らしい場所で、何と言っても皆さんお人柄が良い！本当に良くして頂いたから、何でも出来ることはご恩返しをしたい」と言っておりました。

最後にしばたさんより、滝山中央名店街の皆さんも本当に豊かな方が多く、心にゆとりがある方の集まりで、皆さん快く力を貸して下さいから、色々な事が出来るんですよと教えて頂きました。

地域センターの中で東京花祭りをするよりも「花祭りは火の祭りだから外に出ないと」としばたさんが話した時も、祭りを外で行うことを快く応援して下さい、

センターパークも「遠く北設楽からお客様を招くんだからこんなトイレではいけない！」としばたさんが話したら、驚くほどキレイなトイレにして下さって、本当にみんな心豊かで協力的で良い方の集まりなんですと教えて頂きました。



滝山地域では、以前は府中の大國霊神社のくらやみ祭りから大きな太鼓や神輿を借りて、しばたさんが氏子となり練り歩いたりした時期もあったそうですが、少しずつこの地域の雰囲気も変わり、色々とやっていくことが今は減ってきているので、東京花祭りにはこれからも頑張ってくださいって欲しいと応援して頂きました。

東京花だより第2号より抜粋(荒木)

◆会場設営（舞庭・テント） 東京土建東久留米支部

第一回から第九回 東久留米九小図書館・地域センターホール
第十回・十一回 前半は地域センターホール。後半は屋外
第十三回から、 一日中屋外

十周年を迎えるにあたり、火が使える屋外で実施する方向で考えていきましたが、舞庭（まいど）をどのように設置するのか、大きな課題でした。素人の私達では分らないので、鳶職をやっていた秋元さんに相談を持ちかけたのが、東京土建さんとの最初の出会いでした。花祭りのことは、何も分らなかったと思いますが、滝山地域で十年も続いている祭りには、協力しようと言ってくださり、今日まで協力していただいています。

当初、私達は、御園の舞庭のように、木の柱を四本立て、上で組み立てようと考えたのですが、木は高額であること、終了後一年間保管する事を考えると、長い柱は保管場所もないことから、タンカン（鉄パイプ）で組み立てる事になりました。

組み立て方は、まず、高さ5メートルのタンカンを4本建て（その後4メートル）上部を組んでいく方法です。一般的な足場の組み立て方は、4本の足と足の間にタンカンを渡して足場（ねがらみ）を組んでいきます。しかし、足場（ねがらみ）を作ると、舞いのじやまになり、舞うことが出来ません。足場（ねがらみ）を作らず組んでいく方法を考えました。足場は中間に仮足場を設け、仮足場に作業の為の鉄板を渡し、一番上の桁組みを行いました。

足場（ねがらみ）がないこの方法は、非常に不安定でグラグラします。バランスのとれる人、揺れについていける人しかやれない危ない作業でした。秋元さんと後一人くらいしか登れませんでした。最後に揺れを防ぐ為の筋交いを入れ、中間に設置した、仮足場を取

り除いて完成しました。下がアスファルトなので、杭が打ちこめず、砂袋で重しをしました。

一般的な足場は、建物の周りに組んでいき、建物に沿って組み立てられます。しかし舞庭は、手がかりになる物が一切ないところから組まなければならないので、形はシンプルですが、とても危険な、足場作りの中でもとても難しいものだと分りました。

組み立ての前の下準備にも半日から一日かかるそうです。何人かで、テント、タンカン、部品など舞庭作りやテント設営に必要な材料集めをします。これらの部品や材料は、一か所に置いてありません、いろんな分会や倉庫に置いてあるので何人かで集めて回ります。

花祭りが終わった後は解体の仕事があります。花祭りの舞庭作りには東京土建東久留米支部の人達が三日間にわたり、五・六人で協力して仕事にあたってくださっています。

今まで東久留米滝山分会が中心になって、声をかけて集まってもらっていました。高齡化が進み、やれる人は限られてきました。現在は、東久留米支部が実行委員会形式で若手の人達を募っています。今、仕事は勝手に休めないため、作業をするために休める人が少なく、休みを調整してもらって当日の作業に当たってもらっています。今までのように、ボランティアでは集まらない現状です。仕事は必死です。文化や芸術・伝統は大切ですが、それだけでは協力してもらえない厳しさがあります。実行委員形式になって、若手が参加してくれているので、体力もバランスもあり、少々グラグラしても手早くやってくれているそうです。今後とも東京土建東久留米支部のみなさんの協力のもと東京花祭りを発展させていきたいと思

います
今回秋元さんのお話を伺って、組み立て方や人集めの大変さが分かりました。協力に感謝します。
（大野 みちよ）

『 淡い想い・夢・願いが結びあうところ 』

荒木 久子

花だよりを作りたいたと思つたのは、どうしてだったかなあと
思い返すと、本当に単純な気持ちで「会のみんながもつと興味
を持ち合いたいな。」ただそれだけだったように思います。

第一号の一面には人見先生より『それぞれの淡い夢や願いが
寄せ集まり結びつき合うと、淡い夢は動き出し、現実になりう
るのだな……この改装お便りが、それぞれの淡い想いや夢や願
いを大事にし、それらを結び合わせ、お互いを知り合い学び合
う場になっていくように……』とお言葉を頂きました。

二十周年を機に始めたこのおたよりが、そのような場になれ
ていたか……なろうと努力出来ていたか……そう思うと不安です。

おたよりの提案をした時は、意気揚々と「お世話になつて
いる方の紹介もしたいなあ」「歌ぐら、舞の意味ってなんだろう」
「御園の方、東京の皆さんからお話を聞いて載せたらみんな
が嬉しいだろうなあ！」「他には何がいいかなあ！」「とワクワク
していました、さあ動こうとしてハタと気づくと自分から扉
を開けるものが何も無い！東京花祭りの所以も知らないし、支
えて来られた方々のことも知らないし、芸能の事も知らないし、
あら……誰に何を聞いたらいいのか何にも分からない。今いる人
もちよつと離れている人も皆が読んでちよつと楽しいおたより
を作りたかっただけなのに、私はやっぱり自分の身近な仲間の
ことしか知らなかったのです。そこで毎号廣木先生をはじめ事
務局の皆さんに内容の相談に乗って頂き、原稿の推敲にお付き
合ひ頂いて発行し、五年間で十号まで到着しました。でも、そ
れまでもお便りは千田さんが出して下さっていたので……花だよ
りにした事は良かったのかなあ……というのが正直な気持ちです。

今までの花だよりトピックス

一号『夢と願いを・人見』『船津さんパン教室』他

二十周年記念企画として花だよりスタート！人見先生より
お言葉も頂いて、船津さんのお家でのパン教室に参加した様子
や、この年に小学一年生、中学一年生になった子ども達から自
己紹介のコメントを貰いました。

二号『歌ぐら・元田』『舞・楽について・人見』『しばたさん』他

『東京花祭り』を知る事も出来る楽しいおたよりにした
という想いから、元田さんに秋葉山の歌ぐらの解説、人見先生
より舞と楽の二十周年のまとめをお願いし、東京花を支えて下
さる方の紹介として、しばたさんを取材しました。東京花祭り
が熱い想いに支えられて成り立っていることに感動しました。

三号『奥住さんの梨』『舞庭の名称』『植田先生』他

毎年舞庭の四隅に立てる竹を頂いている奥住さんの梨や、
東京花祭りの大切な方として、植田先生の紹介をしました。植
田先生は東京花祭りを常に案じ、「組織を作らにゃいかん」とア
ドバイスをくださいました。

四号『夏目平吉さんの話』『一ロメモ・元田』『音也くん誕生』他

東京花祭りを立ち上げる時に保存会長をされていた夏目平
吉さんから、「二十周年は正念場、これから自立に向け目的を決
めることが大切」とお言葉を頂きました。穰さん沙織ちゃん
の次男、音也くん誕生の紹介も出来ました♡

五号『念願の！「楽」の講習会』『泉くん誕生』他

楽が出来る大人を増やしたい！会の財産を育てたい！でも御園に教わりに皆で行けない…という想い。念願の東京での「楽」の講習会が開かれました！市村泉くん誕生の紹介できました♡

六号『憧れの循環・歩』『佐々木責雄さん』『一珂ちゃん誕生』他

フランスから帰ってきた歩ちゃん熱い想いを寄せてくれました。毎年沢山の美味しいものを東京花祭りに送って応援して下さる責雄さんの紹介もしました。そして、千田さんがジイジになった紹介ができました♡

七号『歌・篠崎』『御園感想・大野・佐藤』『星野紘さん』『山岸さん』他

歌ぐらの楽しさを篠崎さんが、御園花祭の感想を大野さん佐藤さんが寄せて下さいました。植田先生からの「組織を作る」話を具体的ににする為に星野さんからお言葉も頂きました。せんじの柱でいて下さった山岸さんの紹介もしました。

八号『二十五周年に向けて・千田』『御園 神の移植』『堀江さん』他

榊鬼が根つきの榊を持つ花祭。その榊がどの様に育てられ守られているのか、御園若連連報の抜粋を載せさせて頂きました。今まで東京花祭りのために沢山の版画を作って下さっている堀江さんの紹介もしました。

九号『二十五周年・千田』『移りゆく花祭・穰』『健くん誕生』他

二号続けて千田さんに東京花祭り二十五周年について寄せて頂きました。穰さんには御園花祭の感想として熱い想いを書いて頂き、奏也くんの鬼のイラストがよく観察されていてビツ

クリしました。そして、木暮涼くんがお父さんになって木暮さんがバアバになった紹介が出来ました♡

十号『花の到来を直感で感じる仲間・穰』『夏合宿・講習会感想』他

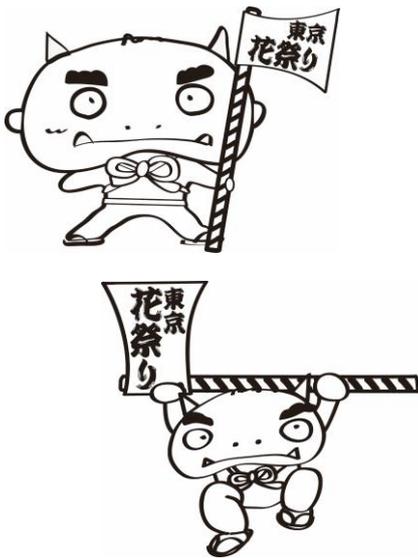
二十五周年直前号として、今回の祭りへの想いを穰さんに。夏合宿と講習会の感想も皆さんの協力で集まって充実したページになりました。

~~~~~

おたよりを作るといふ作業を通して私はすごく贅沢な経験をさせて頂いているんだなあと思えました。何も知らない私に編集を一任して下さいました。勇気ある東京花の皆さまに感謝の気持ちでいっぱいです。

これからの『花だより』が良くなるには…もつと沢山の人が関わって沢山の想いを載せる事が出来たらいいな、みんなで作りに上げて、手に取った人みんながホッと集ったような気持ちになれるおたよりになりたいな、と思います。

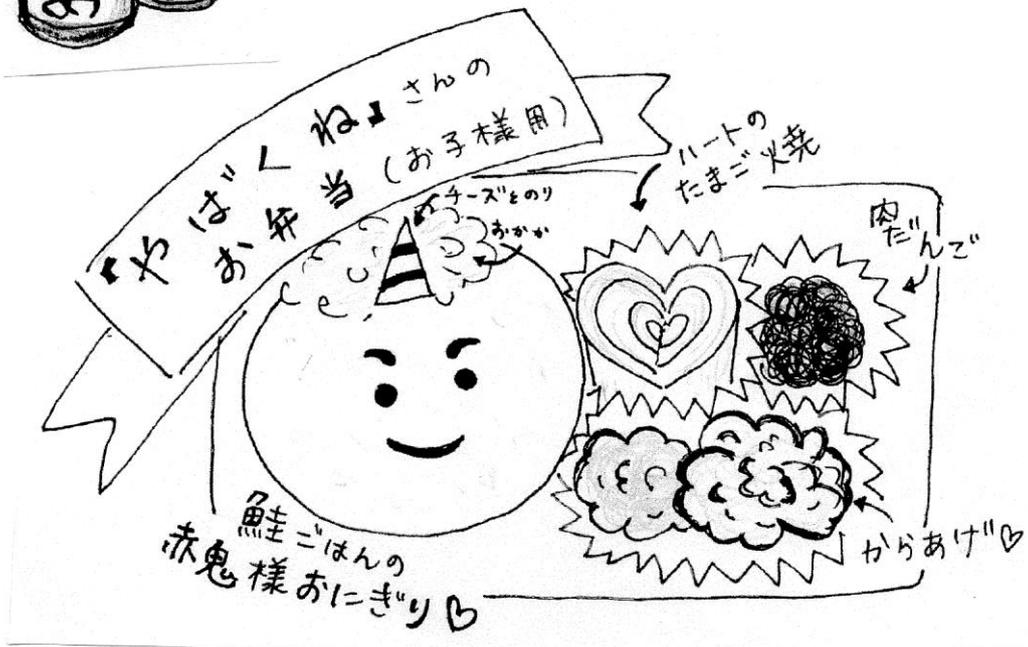
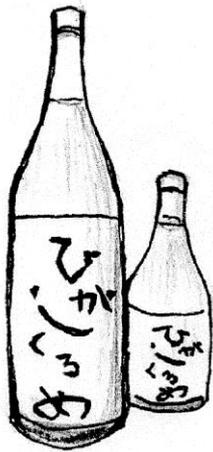
おたより仲間、アイデア大募集！



二十周年を記念して亮二さんが描いてくれた東京鬼キャラクターも、おたよりで大活躍でした！この鬼が入るとホッと！  
なくてほならない存在です！

# 年間行事

- 五月合宿
- 夏合宿
- 秋の講習会
- 新年会



## 春、御園合宿

藤田 亜紀子

悠然とした環境と温かい人の笑顔に包まれた御園は、幼いころから憧れていた私の理想の故郷であり、いつも帰郷するような心持ちです。GWはまだひんやりと肌寒く、桜が散りはじめ、若葉が香る頃。必死に掘った竹の子、目を見張る美しい星空、夢見心地で眺めた雲海。山登りで出会った神様が宿る巨石。あめんぼうを見るのに夢中になって田んぼに足を滑らせたことも、全てがかけがえない思い出です。御園には、東京では味わえない癒しが詰まっています。そう、御園の人々との交流と、御園の空気をたっぷり吸い込むことが合宿の醍醐味です。

もちろん、じっくり舞い込みました。晃さん、靖さん、豊さんを中心に、日中と夕食後の熱のこもった練習会は、とても充実していました。子どもたちは舞うなかで同じ温度になるため、東京つ子と御園つ子で一つの輪を作るたびに、喜びを覚えます。



舞庭には、四方と釜に神様がいます。練習であつても、その中で舞うことは緊張しますが、同時にピンと張り詰めた心地よさもあります。ズーンと土を踏みしめた時に、スーッと風が通りに抜けると、励まされたように感じます。この何ともいえない快感は御園でしか味わえません。

御園の舞を、御園で舞う。この喜びは、温かく迎えてくださる御園の方々、先生方と実行委員の尽力



のお陰です。ありがとうございます。

次はいつ御園に帰れるかしら……今年こそ……。

## 夏合宿

### ◆第一話



夏合宿といえは、やっぱり初回の十年前。芽生(小三)、大輔(四歳)、結生(一歳)とまだ若かった私(笑)と勢いで参加させていただきました。子供たちが順々にバスに酔う姿と对象的に、御園の地に足を初めて踏み入れた時の表屋さんからの景色は忘れられません。そして、いざ合宿開始。子供たちは汗をかきかき舞を教わっては遊びに行き、また戻って舞っては遊びに行き、一緒にご飯を食べて、流れ星をみて……。御園の地で地元の方々と一緒に過ごすこの時間は子どもたちにとって何て贅沢な時間なのだろうと思ったことを覚えていきます。

それから子供たちは何回もお世話になり、夏の一大イベントになっていきました。そのたび、御園の風景、御園の方々との交流は当たり前のようになり、子供たちにとっては第二の故郷のようになっていきました。

二年前には大輔が心優くんと清水家にお世話になりました。清水家ややまとくんととの交流で、花祭りに取り組んでいくじっくりとした空気にふれられたことはありがたい経験でした。

私は、一昨年久しぶりに夏合宿に参加させていただきました。景色も御園のあたたかな雰囲気もかわっていませんでした。ただ、子供たちだけは大きくなっていて、一緒に舞の練習をしていただきました。花祭りがつながつていく姿に一人じーんとしていました。

東京花祭り二十五周年おめでとうございます。細々とですが関わらせていただけているのも、人見、廣木先生、千田さんをはじめとしたスタッフの方々のおかげです。これからも東京花まつりを通して

で、御園の方々の花祭り思う気持ちに少しでも携われたらと思っています。

### ◆第二話

(加藤 裕子)

我が家が東京花祭りに関わるようになったのは、長女(芽生)の曖昧な記憶によると、小学校三年の時かららしい。夏合宿に母と子ども三人で参加したこと、網戸に突っ込んでそのまま窓から落ちたこと、祐輔・洗太郎・隼人たちと一緒に遊んだこと、みんなでカレーを作ったこと、さおちゃんが薪割りをしていたこと(さすが!)、コテージに泊つてとても楽しかったこと等々……。曖昧な記憶ながらも楽しかった貴重な思い出として心に残っているようです。当時父は花祭りの歴史やこれまでの積み重ね、その意義等々全くわかっていなかったと思うのですが、この初めて参加した夏合宿は、子どもたちに貴重な経験をさせていただいただけでなく、親にも東京花祭りを通して地域を考える、関わるきっかけになったような気がします。私自身は夏合宿には、五年前に一度参加しました。運転手のつもりで参加したのですが、いつの間にか鬼のレクチャーを受ける流れに……。知らず知らずのうちに呑み込まれていったような気がします。温かく迎えてくださった御園の方々、企画して引率してくださった方々には本当に感謝しています。

今回で二十五周年ということで、まずは、その中の十年に関わらせていただいたことに感謝いたします。御園の方々との交流も家族みんなで毎回楽しみにしています。一方で、いつも感じるのは継続の大変さです。廣木家の方々、千田さんをはじめ運営に関わっている方々には、いつもおんぶに抱っこで、甘えてしまっていますが……。申し訳ないなと思いつつ、今出来ることをその都度やっています。というところをベースに関わらせていただいています。

(加藤 理)

## 秋の講習会

保科千夏

毎年、御園保存会若連を講師にお招きして開催されている秋の講習会。二日間にわたり舞を習い、夜には交流会が開催されています。

千田さんのお話によると、第二回東京花祭りの年には、清水晃さんと尾林克時さんをお招きして講習会が開催され、平成十九年から若連さんにお越しいただくようになったという事で、東京花祭りとはほぼ同じ年を重ねている恒例行事となっています。

この度、東京花祭り二十五周年記念誌の「秋の講習会」の執筆するにあたり、藤田亜紀子さんに協力いただき御園保存会若連の方に、  
・講習会の日は何時に出発していますか  
・楽しみな事は何か  
・要望などありますか。と以上三点の質問をさせて頂きました。

すると、恐縮してしまうほど丁寧なお答えを頂きました。

早速お返事をくださったのは本田博さん

・毎年、御園を5時頃出発して豊川組と6時頃合流、豊川ICから高速で移動して途中朝食、休憩を取り広木家には11時頃到着です  
・子供たちからお母さん達の懐かしい顔、新人さんの顔を見る事。舞の成長を見る事。最近では、煮卵がみんなの楽しみですね。  
・練習は今のままで、良いと思います。  
・広木家での交流会が盛り上がり上がると楽しいと思います。  
みんなの色々な意見も聞いてみたいです。

本田 博

「煮卵がみんなのたのしみ」だなんてお言葉・・に本当恐縮です  
ありがとうございます。

そして清水靖史さんと尾林和明さんから

東京花祭りより依頼を受け、御園花祭保存会若連で 現地講習会を平成19年から行うようになりました。御園の花祭が始まる前の9月下旬〜10月の土日に行われ、若連では恒例行事となりました。大概の土日が仕事休みである私は、行く機会が多く何度か参加させて頂いておられます。5人くらいで行くことができれば、舞・笛・太鼓など分担して教えたり、4人で舞ってみたりすることが出来る良いのですが、毎回2、3人の時が多く申し訳なく思います。自分一人で行くことも何回もありました。一人の時には電車を利用してますが、2、3人で参加できる時には、車で朝5時に出発し高速道路にて東京へ向かいます。新東名の開通、スマートインターが出来たりして車で向かうのも楽になりました。

毎回ですが、1日目(土)の午後と夜、2日目(日)の午前とみっちり練習が組み込まれています。限られた時間の中で、子どもも大人もみなさんとても真剣に取り組んでいて、教える方もついつい熱が入ってしまいます。夕食時や懇親会では、お母さん方が各自で作ってくれた料理とビールを頂きながら歓談するのがとても楽しいひとときです。このお母さん方の作ってくれたいろいろな料理(絶品で居酒屋を開いてもいい位です!)を頂くのが、講習会の楽しみとなっております。また、東京へ到着後に穰くんお勧めのラーメン屋で食事をするのも楽しみです。でも、一番の楽しみは、みなさんの舞が上達していく事です。東京花祭りの本番で自信を持って舞っている姿を観るととても嬉しく思います。

これからも、秋の講習会、東京花祭りを楽しみにしています!

清水 靖

早速ですが、講習会の感想意見を伝えます。講習会の内容や進め方など、二日間の短い時間の中では、充分とは言えませんが、良くやっているといます。これまで通りのスタイルで開催してもらえれば良いかと考えます。

とは言うものの一つ言うならば、私が常に理想に思う舞いの習得や、祭りに前向きな姿勢になろうと思える事があります。それは、自分の目で見て覚える事。具体的に表現すると、「ああこの人のように舞えるといいな」と思える舞い手を見つける事です。それは大人でもよし、先輩でもよし、後輩もあるかもしれません。我々の子供時代は、そんな気持ちで舞い習いをしたものでした。そこで、我々が協力出来るのは講師4人を確保する事かと思えます。4人いれば臨機応変に舞いを見せること、また指導も、より、個人寄りに出来ると思います。実は、指導者が増えると細かい点では相違もありますが、最終着地点は同じ考え気持ちですので、そんな事も感じ取ってもらえたらと思います

尾林和明



そして鬼の舞の講習にお越しいただく尾林威行さん

東京花祭り25周年に東京の役鬼を！花太夫の清水晃さんにご提案により、鬼の講習会に参加しました。

鬼の講習会、夜は子供達中心、昼間は加藤さん、本橋君とマンツーマンで練習します。鬼の仕草や、姿勢、力の入れ方などじっくりと練習できるすごく良い機会でも私も嬉しく思っています。

自分達で鬼のイメージを膨らませて、力強く舞う子供達、そして加藤さん本橋君の熱心さにも心打たれます。

25周年に東京の役鬼の堂々とした舞、東京の鉦も披露できて、私としても感慨深いものがありました。

そしていつも練習後、温かくお迎えいただきましてありがとうございます。

少しでも力になれたらと思いますので、これからもよろしく願います。

尾林威行

御園保存会若連様 お時間ない中、丁寧にお答えいただき誠にありがとうございます。併せて 毎年「秋の講習会」にお越しただいていること心より感謝申し上げます。

若連さんが、花祭りを控えている時期で、大変忙しい中、朝早くから御園を出発してくださり、どんな想いを持ち東京にいらして下さっているか知ること東京花祭りの会員も、これからより大切な気持ちで講習会の日を迎えられるとおもいます。そしてもっと積極的に舞を習い、交流させていただけたらいいなと思います。

♡ 保存会の皆様、「秋の講習会」はママさんの絶品手料理が食べられるチャンスです。そこも楽しみに是非いらして下さい♡

## 新年会のこと

…大人も子どもも楽しい集い…

市村 百合子

二十五周年を終えて、改めて私が出会ってからの東京花祭りを思い出してみました。私が続けてきたのは、この仲間がいたからだと思います。そんな仲間が開く新年会のエピソードを少し書きます。

子供たちの様子は、本当に面白いです。とにかく、良くもそんなに楽しそうに遊ぶものだと感心してしまうくらい。年齢関係なく愉快にたわむれる姿に癒されます。

会場である先生宅は、基本的に会員の出入りがあるから開けっ放しなわけで、そんな風だからか鬼ごっこことかして部屋を行ったり来たりしても、部屋の戸を閉めない。途端にす〜っと冷気が入ってきて

「のんちやくん、閉めて〜」と最初は優しい口調で言っていた大人も終いには「深生人、閉める！」に声色が変化。意外にも、音ちゃんや泉は重いだろう引き戸をゆ〜くり閉めてくれたり。

大人たちにとっても楽しい集いで、祭りが終わって安堵の気持ちでゆるく飲み食い語ります。食卓には、持ち寄り具材で作ったいつもの汁物、各家庭からの一品が花を添えています。

皆大好き篠崎さんのジェノベーゼサラspa、保科さんのテツパン煮卵♪木暮さんの手作り味噌を使った一品も絶品！お酒も進み、気づくと千田さんの顔は真っ赤です。

毎年同じ時期にする新年会ですが、子供も大人も花祭りを通して信頼し合い、成長しているんだなとしみじみ感じます。ゆ〜くりじつくり話すこの時間の有難さをつくづく感じました。

恒例、歌ぐらかるたの話を最後に。真咲ちゃんは毎年一位を狙っているのになれなくて悔しい思いをしているみたいです。苦手意識を持つている人も多いこのかるたですが、亮君や春花ちゃんは覚えるのが楽しいと普段から暗記しているみたいで、やはりたくさん札が取れています。

色んな思いがあつてそれを共有して分かり合つて、東京花祭りがこれからも益々地域に根差した祭りになりますように！



## 「花若」について

廣木 穰

最近、「花若」と口にする人はいないので、何の事かわからない人も増えていると思います。東京花祭りを立ち上げる時にまず子供達に募集をかけました。御園の舞のニュアンスをつかむ為にはなるべく小さい子の方がいいということになり、小学四年生以下に声をかけました。最初の頃は子供は全員舞い上げ、大人も全員舞い上げを舞ったように記憶しています。それから六〇七年経った頃、高校生達が増えてきました。御園の保存会の中では、若者達が中心となつて「若連」を立ち上げていました。「若連」のお揃いの法被を着て、舞庭に立つ姿を東京の子供達はみんな憧れたものです。あじさいにも10周年の時から「若連」が発足していて、高校生以上が「若連」になれたので、それに倣って東京花でも「若連」を立ち上げよう、という事になりました。

名前が若連だと混同してしまうので他の名前をみんなで考えました。花祭りの若連だから略して「花若」がいいのでは、という事になりました。一昔前の相撲界では「若貴ブーム」があり、それにもあやかろうという事で、いづれ「花若ブーム」が来るといいねー、と話したものです。発足当時は八人程いました。御園の若連のように会則があるような立派な組織ではなく、何となく若者が集える居場所、みたいな組織でした。活動といっても、事ある時に広木家に集まって鍋パーティーをしたぐらいです。みんなで料理をする事で普段とは違う交流が生まれます。ただ、料理にあまりに時間がかかると大変なので、色々なメニューを試した結果、鍋に行きつきました。暑い夏でも花若は鍋でした。入学祝いや就職祝い。みんなが真っ赤な顔をしてサンタの格好をしている写真もあるのでクリスマス

パーティーもしたのだと思います。

舞に関しては、地固め、三つ舞、四つ舞、男子は湯囃子を舞いました。役鬼も本橋君が取り組んでいるので、主要な舞としては残るは一の舞です。飲み会の時には「翁」の問答を東京の風土にあった内容や多摩弁にアレンジしよう、と盛り上がったものです。まだ実現できていませんが、飲み会の席で夢を語りあつて実際に動いて夢を具現化していく、という流れは組織の原動力になっていきます。東京で「一の舞」、東京で「鬼の着付け、面付け」、「東京風の翁の問答」、平成世代で「男子は湯囃子」、「女子は四つ舞」と、目標、夢は広がる一方です。ただ急にできるものではありません。その時々状況に応じて、焦らず時間をかけて一つづつ実現していきたいと思えます。項目によっては何十年とかかるものもあるかもしれません。ただ、一つ一つの目標が何十年とかかるということは、いくつかの目標を目指している内に、どんどん世代交代が進みいつの間にか百年経っているかもしれませんね。

花若が高校生の時は、部活やバイトが終わった後、夜に集まった練習したりしました。大学生になると夜までバイトなどがある為二十二時にあじさい公園に集合して練習したこともありましたが、みんな小学生の時は時間がありませんが、そこから成長するにつれて自由な時間が減っていきます。成長過程の中で普段の時間の使い方、集まった時の時間の使い方など学んでいく事が、先々とても重要になっていきます。みんなが集まった時は徐々に会うので、それぞれの近況報告をしたり雑談したりする時間もとても大切です。ただ、ダラダラしてしまうとタイムリミットはすぐにきてしまうので、集中した練習と雑談の時間の切り替えが重要になってきています。そういういった切り替えと、役割分担がしっかりできてきている集団は長い間続いていくのだと思います。

花若が一番多かったのは十五周年あたりでメールリストに十六人いました。しかし、二十五周年に参加できたのはその中から五人でした。私自身も、思春期の頃は花祭りから離れた時期もありました。社会人になり社会の責任を感じて、花祭り関係の連絡もすっかりするようになり心掛けました。そして、自分の子供が参加するようになると、より一層責任を全うするようになり心掛けています。責任だらけになってしまふと物事が楽しくなくなってしまうますが、楽しく充実した環境を作っていくにはどつしりとした土台が必要です。その土台を作りあげていくには、それぞれの責任感がどうしても必要だし、重労働な作業も的確な人数確保と、大変な事でも協力して楽しい事に変換しようという心意気が大事だと思います。その為には意見交換の場や過去の反省をしつかり生かせるような環境作りも大事です。それぞれに忙しい時期があり、花祭りから離れる時期もあると思いますが、少し落ち着いて「あ、久々に花祭りに戻りたいな」と思った時に、戻れる場所、環境、仲間、同世代がいる事が理想です。ただ、そういったものは天から舞い降りてくる訳ではなく、みんなで作らなければいけません。祭りの日が学校や仕事だからといって関わりが0になるのではなく、自分がこういう状況だから、今年はどういう関わりをしようという十人十色の関わり方ができるようになると東京花祭りは未永く続いていくと思います。

最近、参加できない花若達もご祝儀で応援してくれたり、久々に舞ったりと、それぞれの参加が浸透してきています。

子供達を育成していくには、大人の指導と、若者達という憧れの存在が必要不可欠です。この二つが揃った時にその地域の子供達は、舞においても、社会性においても、物事を楽しむという力においても、総合力に長けた大人になっていくのではないのでしょうか。子供達の憧れの花若に。。。



## 初東京花祭りの開催のあれ・これ

富田 登代子

係の方から依頼されたテーマ「父母会の役割」ですが、私達父母は、前知識もなく、前準備もない状態の中に置かれていたので、広木・人見先生に指導を頂き色々と作業を進めなければの思いで頭の中がグルグル回っていました。広木先生から言われた事を作業の中で伝え、話し合いながら他の父母とも仲良くなり祭りを迎えて行った一年目でした。祭りを一回経験すると、保険に加入したらとか色々な声を発信してくれる様になる。そんなプロセスを得て、一つひとつ祭りをクリアする中で自然と父母会の必要性が生まれ現在に至っているのではないかと思う。一、二回目は、祭りの道具・衣装もなかったので父母達は作業が中心だったのでそれらを記します。

あじさい太鼓の会員でもあり、子供は次年度四年生になる事から広木先生より鍛田さん、私に声がかかりました。愛知県御園に七〇〇年も伝わる芸能がある。過疎地区になって祭りを舞う若者がいなく継承が難しい。次年度四年生になる子供達を中心に東京で祭りをし応援していきたいので現地の祭りを見に行きませんかと誘われたのが発端でした。

穰君が山村留学し舞いを習っている事は知っていたので少し興味もあり鍛田親子と行く事にする。広木先生達と車に分乗し出発。やはり現地の若者は少なく都会に出て働き都会に住んでいる若者が集団で帰って来ては「テホへ、テホへ」の大合唱で飛んで、跳ねて舞って、騒いで(？)、舞い手の口に次々とみかんを入れて食べさせ、「次は移動するぞ」と教え、本番の祭りなのに練習風景の様な雰囲気祭りにびっくりする。そして若者、お年寄り関係なく脇で踊っ

ては祭りを盛り上げていたので現地以外の人達もテンポの良いテホへの中に入り一緒に大合唱で参加出来る楽しくなる祭りでした。

東京に帰ると、色々な事が具体的に提示され次年度四年生になる子供の母親【鍛田・千葉・渡辺ゆかこ(母)・富田】の四人が中心になり本格スタート。

子供達が練習をしている時間で父母は作業の時間なので練習の様子はわからない。

### ●子供たち集め

広木先生が積極的に声を掛けてくれ二〇数人が集まり四年生(みのる・さおり・ゆかこ・隼)四人の大黒柱がOK。二回目はゆかこちゃんが抜けて大川きくのちゃんに参加で四人の枠は維持出来た。四人のチームワークが良く自分達の練習でないといつもふざけ笑っている。四人はいつも一緒にいた。そんな姿を三年生の木暮君がうらやましそうに見ていた姿が忘れられない。又広木先生は、おやつを楽しみに練習にこれる様にとおやつも担当してくれました。子供達の手には一回一〇〇円のおやつ代を持って広木宅へ練習に来ます。

### ●舞いの指導

人見先生とダガスコの船津先生を中心に荒川さん、大川さん、星野さん、川尻さんが引き受けて下さり「ズーン・ドンドコ」の口唱歌に合わせて舞いを覚える。この口唱歌は小さい子供にも浸み込み易いのか余談①になるが、はくさん保育園の二才児K君保育室で「ズーン・ドンドコ」一人歌いながら踊り楽しんでいました。きつと姉さんの舞いにつき合いながら覚えたのでしよう。余談②：練習日々

方広木家に行くとは船津先生が台所で野菜を切っていました。広木先生が留守で広木家の夕食作りにも出会いました。祭りを成功させる為に色々な所で支えあい頑張ってくれている姿に感謝でした。保存会からは清水さんと植田先生が何回か教えに来てくれました。子供達は広木先生から植田先生は校長先生だったと聞いていた事で植田先生の話の時は早技で態度を変身していました。

#### ●着物・帽子・ざげち・釜作り

釜はお父さん達を中心。帽子・ざげちは人見先生が中心で、帽子の細い竹が折れない様にと少しづつ竹をあたためながら曲線を作るのですが難しく人見先生が殆んど作ってくれて、私達は紙テープを巻いたり簡単な所だけの参加。ざげちも図案によつてはカッター切りが大変なので簡単な図案を選び宿題として持ち帰り仕上げました。難題が着物の準備をどうするか？みんなで自分の出来る時間で広木家に来て少しづつ縫っていかうと決定。広木先生と千葉さんと浅草へ布運びに行き、その後は二人で採寸、裁断をしいつでも縫える様準備をしてくれる。毎夜縫う仕事が入り、一針づつ縫いバトン送りで仕上げていった。(青着物四枚・薄紫四枚)

残るは赤い着物上下四着分。時間との闘いの中で吉報が入る。千田(母)のお母さんが長崎から上京しており手伝ってくれるとの事です。早速長崎まで持ち帰って仕上げてくださいました。だいたい物が準備されました。

二回目の祭りの準備で帽子の修理作業の日に、地元の新聞社の方が取材の為に上京されました。地元の新聞に作業風景の写真と共に記事が掲載されました。

#### ●舞い代三〇〇〇円

お金を払って舞う感覚は初めてだったので、父母達にどう伝え理解してもらおうか一番悩む。伝え方は覚えていないが資金〇円からの出発なので少々強引に理解してもらった様に思います。

#### ●チケット・プログラム作成

広木先生と富田(父)が担当。我が家は帰宅が遅いので毎回話し合いは一時頃から。PCで作っては余白がとか字体が位置が等々でなかなか広木先生との思いが合わず深夜一時、二時頃まで続きました。やっとOKの返事がもらえた時は「ほっと」しました。

#### ●祭り当日

滝山図書室を借りて、朝から先生達や父母総出で準備し、沢山の布で色々な所を覆って、楽の方々の場所も一段高く作り、釜(その時はストーブ)のまわりには沢山の椅子を準備し会場が出来上がる。子供だけの舞いを中心なので短時間で終わり。赤い着物を着た小さい子供達は他のお父さんの肩に乗って登場しても泣かずに舞っている姿にはおどろきでした。保存会の方も来てくれ宿泊先は広木家でみんなで毛布等を持ち寄り泊まっていた記憶があります。

祭りを終えると真君の袴姿での箏の演奏で新年会を広木先生が企画してくれました。この時は、今までの忙しい気分から解放されやつと楽になった気分を味わう。又知らなかった伝統芸能を知った喜びも大きな収穫でした。ありがとうございます。

そして二五周年おめでとう！益々のご活躍を。

## おもしろや 花祭り

船津 美智子

御園では朝晩冷え込んでくる時期になると、誰からとなく、「もうそろそろ、花だのん。」と言う声があちこちで聞かれるということですが、ここ東久留米市滝山でも、夏休みが終わり、「秋風が吹くと……」の合言葉から、花祭りの練習や準備が始まりました。その東京花祭りも二十五回も回を重ねて来たなんて、本当に凄いことです。

三十年も前になりますが、私は小学校の教師をしていたころ、幸いなことに、日本の民俗舞踊の魅力にはまり、ダガスコ（北多摩民舞教育研究会）というサークルで、主に東北地方に伝わる舞踊を練習していました。そんな中、仲間の先生方から「芸能の神髄」「まさに教育の鑑だ」と、口々に賞賛される祭りの噂が耳に入ってきたのです。また「眠い、煙い、寒い！」と、ユーモラスに称されるその奇祭は正月の二、三日に行われるということで大変、興味がそそられました。お盆と正月には必ず実家に帰省していた私には、出掛けていくことが出来ませんでした。

そんな矢先、一九九〇年、廃校寸前の御園小学校に山村留学していた穰さんが滝山に戻って来られ、その春休みに、東京民舞研が和光小で花祭りの舞に触れる会を計画してくれたのです。その時、清水会長さんや尾林克時さん、その御家族が講師として招かれました。前日、広木宅で夕食会が開かれ、ダガスコにもお声をかけてくださいました。そこで、私は初めて、花祭りの舞を観ることができました。たしか、中学生だった靖ちゃんや威ちゃんが「地固め」を舞ってくれたと思うのですが、ゆったりとした優雅な楽に乗って、膝を柔らかく使い、しなやかで伸び伸びとした舞に圧倒されました。

これまで習ってきた踊りとはまったく違う舞の世界に、一緒に見ていたダガスコの先生方や私は完璧に魅せられてしまったのです。そして、翌日の講習会では、「舞い上げ」の四方立ての手ほどきを受けたのですが、本格的に習いたいという気持が強く、その年の五月のゴールデンウィークから、ダガスコの方々と御園通いが始まりました。御園の先生方から、直接御指導を受けるに当たっては、人見先生、広木先生に交渉役を担っていただくなど、大変お世話になりました。さらには、夏休みの講習会、秋の花祭り本番見学がダガスコの年間行事に加わりました。私の御園に通う回数は、茨城の実家に帰省するよりも格段に多くなりました。しかし、少しも淋しさを感じず、それほど御園に夢中になっていました。

初めての夏の御園での講習会。お盆の時期でしたが、台風の影響で新幹線がストップ。待ちに待って、動いた新幹線に乗って御園に向かいました。到着したのは夜の八時でした。表屋さんで、鮎の塩焼きなど、秀子さんの心のこもった夕食を済ませて、すぐ講堂に向かうと、挨拶もそこそこに練習が始まりました。見渡せば、私たち生徒の数よりも保存会の先生方の方が多くて、あちこちから注意やお褒めの言葉がにぎやかに飛び交う中、「舞い上げ」の特訓を受けたのでした。

長いこと、数々の踊りを習ってきた私達でしたが、花祭りの舞は難しくて、しかも、鈴と扇を持つ両腕の辛いこと、辛いこと。清水会長さんからは、「東京の人の舞は速い。音の途中でスタートしているから、音を聞き終わってから動くこと。」と、注意を度々受けました。私たちは習い覚えた踊りを、授業で子ども達に教える立場でもあったので、覚えようという気持ち強く、また、元来の真面目さと熱心さで、四人で舞っていても、お互いの和を余り意識せずに飛び出してしまいがちでした。だから、「二番さん、三番さん、四番さ

んは出しやばらず、一番さんの後について舞えばいいんだ。」という教えには、面食らってしまった。しかし、慣れてみれば、式の流れを一番さんに任せて、ゆったりと楽しく舞う、とつても良い方法だと思えます。花祭りの舞の世界には独特のものがああり、どれだけ汗を絞り抜いても、なかなか花祭りの舞の本質に近づけない私達。清水会長さんや克時さん、植田先生、今朝夫さんが本当に辛抱強く御指導くださいました。その奥では、靖ちゃんや由紀さん、由美さんが笛で応援してくれました。おかげで、私たちは「順の舞」から「四ツ舞」と、練習を進めることができました。

一九九三年には、東京の大手町の農協会館で、御園花祭りの公演が実現しました。その年の夏、人見さん、広木さんからの提案で、東京花祭りの会が産声を上げ、この三年間、花祭りの舞を練習してきたダガスコの方々が子ども達に舞を教えることになりました。今日は、月一回ぐらいの練習会ですが、その当初は定例会以外に、平日の放課後に練習会がバンバン入りました。本来の学校の仕事を終え、また、その後も、子ども達の舞の練習に声を張り上げ、汗を流すダガスコの先生方の大変さは並々ならぬものがありました。練習の後、御自分の家庭のこともあったのですから。ある先生が、「職場で子ども達と接し、帰ってから子ども。少し離れたいなあとと思うことがあった。」と、本音を漏らされていましたが、その後、「でも、子ども達も成長し、異年齢での関わりや地域での関わりがとってもいい。」と、花祭りの良さを語っていました。他のダガスコの先生方も、皆、同じ思いだったと思います。

子ども達も同じだったことでしょう。放課後、どんな楽しい事が始まるのだろうかと好奇心一杯で集まってきたのに、全く見たこともない舞の練習です。四方立てのリズムを踏んでも、腕は疲れて、すぐだらりと下がってしまうし、疲れたと言っては、すぐに床に座

り込んだり、寝っころがったりしたくもなります。時には、「やだ！」と言って錫杖と扇を放り出したくもなります。私達はマンツーマンで腕を持つてあげたり、やさしく励まし、一緒に舞って手本を見せたりしましたが、それでも、一踊りすると、別室へダーツと駆けて行って遊び始めてしまう。そんな子ども達をなだめすかしながら連れ戻し、また続きを始めるといった、まさにゼロからのスタートでした。

やがて、御園の講習会や花祭りにも参加してイメージも膨らみ、そして穰さんや暁君、八幡さんから東京で教えてもらうようになると、子ども達の舞が目覚ましく立派になって自信に満ち溢れていくようになったのは本当にうれしいことでした。陰で本場の御園の花祭りのように年々舞庭の飾りや衣装、会場などを整えて下さったおやじさん、お母さん方など、御家族のバックアップも頼もしい大きな力でした。見守るお母さん方からも、「子どもは踊りがうまいったら楽しい。友達と踊りを合わせるのが楽しい、と言っている。そんな子ども達の踊りにも味が出てきた。」という声が聞かれるようになり、一層の励みになりました。

そして、人見さん、広木さんの確かな方向性と運営力のもとに結集する親御さんの素晴らしいパワーで、東京花祭りは中身も形も一段と充実して行きました。

花祭りの練習を通して何度も通ううちに、御園は私にとって第二の故郷になりました。滝山小の図書館で始めた東京花祭り第一回から欠かさず参加してくださったばかりか、年に何度も東京に足を運んで、辛抱強く御指導下さった清水会長さん。常に先を見通して新しい息吹を吹き込み、方向を示して下さった克時さん。私にとつての歌の師匠、植田先生。花祭りの後の年賀状には、いつもお褒めと課題の言葉をはがき一杯書いて励ましてくださいました。今朝夫さ

んは、親しみのある語り口と笑顔で和ませてくれる御園のお父さんでした。太さんは神野山に何度も連れて行ってくださり、下山後、奥様が手作りの美味しい柏餅を御馳走してくださいました。舞庭では、酔っ払って、今にも煮えたぎったお釜に倒れ込んでしまうのではとハラハラさせられた三浦さん。貉狩りなどの面白いお話を一杯聞かせてくれ、仲良しでした。よくからかわれましたが、竹の箸立てや花入れを作ってくれたやさしい光夫さん。洞口さんの太鼓も素敵でした。練習後に訪ねると、ここに笑顔で迎えてくださった清水さんのおばあちゃん、奥様。おうちの裏の石楠花の見事だったこと。こんな山の中に、なんて綺麗な人がいるのかしらと目を見張った秀子さんは、今でも私のあこがれの人です。

まだまだ、御園で親しく交流させていただいた方々が他にも沢山いらっしゃいますが、皆様との思い出は、かけがえのない宝物です。



# 鬼様に魅せられて

堀江 紀介

東京花祭りに係わってから二十年になります。滝山小学校に在任中、図書室でやっていたようですが、それがなんであるかは知りませんでした。その後、ポスターを版画で彫るよう依頼され写真を見て花祭りの鬼様も初めて知りました。

御園の花祭りに参加し鬼様に魅せられたのが始まりです。夜を徹しての祭りに圧倒され、煙い、眠い、寒い三重苦にもめげず、振る舞い酒のせいもあって夜通しがんばりました。

「テホヘテホヘ」の掛け声はしばらく頭から消えませんでした。日本古来の鬼について興味をもったのもその頃です。昔話に出てくる鬼「こぶとり」「二寸法師」「大工と鬼ろく」など、こわいだけでなく愛嬌があり、やがては人間に福をもたらすもので愛着を感じています。

数えてみると今までに十七枚のポスターを制作しています。数年間は印刷でなく、手刷りでした。バレンでのたくさんの刷りは大変でした。色刷りとなると一枚仕上げるのに三回刷るなど大変な苦勞をかけてしまいました。

これからも花祭りが永く伝承され、ますます発展することを願っています。







## 喜びに溢れた魅力あふれる表情 が素敵です

初冬の晴れた少し風の強い日、朝から脚立に上って花祭りの飾り付けから準備が始まります。作業している一人ひとりがこれから始まる祭りに心踊らせ自分の出番を待っているようです。私は、その様子を写真に撮りながら、長い一日の始まりに私も少し緊張します。

舞台の設営から祭り本番、後片付けまで多くの皆さんの努力によって続けられている花祭りは、この地域の商店街や住民の皆さんにとって馴染み深い行事として根付いてきているようです。コツコツと地道に会の運営を支えてこられた皆さんに敬意を表します。小さな子どもから大人まで幅広い世代の皆さんが自主的に祭りを支え、打ち込む姿は、希薄になっていく住民同士のつながりを再生していく力にもなるのではないのでしょうか。

私の写真は、趣味程度できちんと学んだことはなく我流です。理論など難しいことは分かりませんが、写真は動画と違って連続する動きの瞬間を切り取るので動きの先を読むことが大切だと思っています。舞い手をファインダーで追ってシャッターを切ったら、後ろを向いた瞬間だったということはしばしばです。やはり、舞の流れを知っていないとシャッターチャンスを活かせません。今後の課題です。一層の精進が必要だと痛感しています。それでも、たまに良い写真が撮れたと思う時があります。それは、舞手の目が生き生きと輝き、喜びに溢れた魅力あふれる表情を捉えることができた時で

す。その時の舞手は本当に輝いており、舞うことが楽しい表情に溢れています。そんな写真が撮れた時、私も「やった」と思っています。

記録としての写真の大切さとともに、人の生きる喜びが思わず溢れ出る瞬間を切り取った写真を撮るように心がけて行きたいと思っています。未熟なカメラマンですが、皆さんの舞をキツチリ押さえることができるよう努力して行きたいと思えますので今後とも長いお付き合い、ご指導をよろしくお願いします。

川上正毅



## トピックス

- 高尾山
- 中央図書館
- 国立文楽劇場参加
- 茨城大学講演
- 和光大学榊鬼手伝い
- 研究会・伝統文化セミナー



高尾・浅川金比羅山で「花の舞」などを奉納

一九九八年一〇月一〇日(土) 東京都のはずれ高尾山の前山、浅川金比羅山【金比羅神社例祭】で「花の舞」などを奉納した。参加者二六名

この山は「ある学校がこの山をけずり、運動場にする為」「ある氏が個人的に売る契約」をしてしまった。

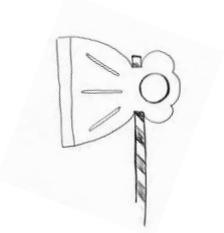
それを他の氏が気付き、この山を守る為、他の氏子たちと力を合せて「東京都の公園に」と裁判をして山を守ったいきさつがある。

その金比羅山を多くの人たちにお参りしてもらおうよう氏子たちを応援する人が増え、浅川金比羅講というものをつくり例大祭でいろいろの催しを行っていた。

その中の一つに「東京花祭り」が声をかけられ、二六名がお参りし、「花の舞の舞上げ・あくま・扇の舞」「鬼の舞」を奉納した。

好評で御ころも霊園の天神社でも奉納をとという声があったが、このとりくみが衣装などの準備が大変でつかれていたので、この話はウヤマヤで終ってしまった気がする。

広木 房枝



ダンス白州2009 空の節で 田中浪さんと

二〇〇四年 ダンス白州  
二〇〇九年 ダンス白州

❖ 花祭りで御園保存会出演

東京からも二〇〇四年は四人(花若も)、二〇〇九年は三人が参加しました。田中浪さんの演出に魅了された体験でした。

広木 房枝

◇花祭り試論

今回「昭和を考える会」の企画で2003年度東久留米市・市民自主企画講座に「東京花祭り」が取り上げられることになり、事前の打ち合わせを行った。東京で愛知県の花祭りをこの10年間伝承実践活動を何で続けてきたのかを知りたいと言われ、何でだろうと改めて考えてみた。

戦後の高度経済成長時代の社会変動で、農山村は過疎の地となり伝統的な文化や祭りが衰退していった。一方大都市圏には、農山村から3000万人もの人々が移住し世界歴史上最大の民族の大移動の時代となった。その結果、超過密地帯が出現した。何もないところに大勢の新住民が大挙して移り住んだ結果、伝統的な人間関係や祭や芸能を持たない都市地域が出来た。この地域の人々と、すばらしい祭や芸能を持っている地域の人々との交流が根底にはあると思う。表面に出ている理由の一つは、「舞」を演じ伝承していく魅力、もう一つはその舞や祭を行っている現地の人々の人間的な優しさ豊かさ、祭に対する思いや関係の深さの魅力とがあると思う。

東京で続いてきた原動力としては、「子ども達」が楽しく舞い遊ぶ姿に大人達がほだされ励まされてきたことが大きい。

だがそれだけでは解けていないと思う。何で奥三河で「花祭り」が700年も続いているのか？・・・その「何か」が私たちをも突き動かしているのではないかと思えて、改めてその「何か」を探りたいと思った。

「北設楽郡史」によるとこの一帯は、「既存の政治権力の空白地帯」が主として落ち武者達により「開発私領」の形で拓かれていった地域という。先に入った郷主を頼り血縁関係となって同族的な村の開発を進めていったようである。

集落の出来方の特殊性と、芸能の伝わり方の独自性（一般的には芸能は伝わることでかなり変化している。）があり、「花祭り」が各集落の成立にとって大事な役割を果たしたと思われる。

応仁の乱から戦国時代までは日本の大激動期・下剋上の時代でもある。政治・経済・身分階層・文化も祭も大きく変化してきた時代。

この時代を途絶えることなくどのようにその波を乗りこえてきたのか？

半武士半農民だった祭の主催者層・郷主達が搾取階級とならずに完全に農民化し、村の中のリーダーになっていった。その結果、武士達の戦乱に決定的に巻き込まれないで、自立自治の生活を維持出来、祭も継続出来たのではないかと思われる。

祭の柱である「神事」と「舞」は、共通の精神・思想に貫かれており、集落の一人一人の修練・鍛錬で人格を磨き、部落を担う人間形成の役割を果たしてきたと思う。

その精神・思想が、「花祭り」の700年も続いてきた『何か』に関わっているのではないだろうか。



◆国立文楽劇場開場20周年記念 第6回特別企画公演

関西元氣文化圏共催事業  
国立文楽劇場開場20周年記念  
第6回特別企画公演

奥三河の花祭

平成16年3月6日(土)・7日(日)  
出演：御園花祭保存会(愛知県北設楽郡東栄町)

6日(土) 5時開演

お湯立て・釜はらい  
ばちの舞

地固めの舞

一の舞

山見鬼

花の舞

三つ舞

7日(日) 1時開演

四つ舞

柗鬼

火のねぎ・おきな

すりこぎ・しゃもじ

みこ・おさんど

湯ばやし

獅子

しづめ祭り

(御園花祭保存会)

|       |        |        |        |
|-------|--------|--------|--------|
| 清水 晃  | 尾林 克時  | 伊藤 文忠  | 佐々木 太  |
| 夏目 平吉 | 尾林 今朝男 | 伊藤 辰一  | 鈴木 弥平  |
| 三浦 勉  | 尾林 光夫  | 佐々木 豊  | 尾林 和明  |
| 八幡 直治 | 清水 靖   | 尾林 威行  | 尾林 曉史  |
| 尾林 秀子 | 村上美恵子  | 人見 勇三  | 千田 茂   |
| 千葉 沙織 | 平野 圭祐  | 平野 知子  | 尾林 若奈  |
|       |        | 宇野 麻苗  |        |
|       |        | 藤原 信廣  | 尾林 経夫  |
|       |        | 藤原 己義  | 村上 正彦  |
|       |        | 藤原 浩也  | 川口 航司  |
|       |        | 平野 由美  | 尾林 万理恵 |
|       |        | 尾林 美智子 | 元田 剛   |
|       |        |        | 木暮 涼   |

御園花祭次第

滝戯(前日)

辻固め・高嶽祭り(当日午後2時ごろより)

天の祭り

お湯立て(神よせ)

宮渡り(氏神遊々)

釜はらい

しめおろし(午後4時ごろより)

ばちの舞

式さんば

地固めの舞

一の舞

山見鬼(午後8時ごろより)

順の舞

花の舞

神事祈願祭(花の舞中)

祈願祭の舞

柗鬼の舞(午前2時ごろより)

火のねぎ・おきな

すりこぎ・しゃもじ(みそめり・めしめり)

みこ・おさんど(おかめ)

四つ舞(夜明けごろより)

湯ばやし(午前8時ごろより)

朝鬼の舞

獅子の舞

ひいな下し

湯ふた・蒸花おろし

宮渡り(氏神送り)

しづめ祭り

外連行(午後12時ごろ終了)

出演：  
御園花祭保存会  
(愛知県北設楽郡東栄町)  
平成一六年  
三月六日(土)  
〜七日(日)

\*東京花祭りからも、八名が参加出演させていた



国立文楽劇場開場20周年記念  
第6回特別企画公演

奥三河の花祭

平成16年3月6日(土)・7日(日)

(6日) 5時開演  
お湯立て・釜はらい  
ばちの舞  
地固めの舞  
一の舞  
山見鬼  
花の舞  
三つ舞

(7日) 1時開演  
四つ舞  
柗鬼  
火のねぎ・おきな  
すりこぎ・しゃもじ  
みこ・おさんど  
湯ばやし  
獅子  
しづめ祭り

出演：御園花祭保存会(愛知県北設楽郡東栄町)

入場料金税込 一般 950円・学生 280円(劇場窓口のみ)  
前売開始 2月14日(土)より  
電話予約 2月16日(日)より  
056(62)2-1120・1081にて受付(10時~14時)

国立文楽劇場  
〒542-0073 大阪市中央区日本橋1-12-10  
TEL 06-6212-2531 代  
●地下鉄・近鉄(日本橋)駅下車②号出口東へ1分  
●駐車場がございませんのでお車でのご来場はご遠慮ください。

関西から  
文化力  
POWER OF CULTURE

## 【茨城大学で花の舞、鬼の舞を舞】

二〇〇〇年九月二十九日

人見 勇三

広木 房枝

友人である茨城大学のある教授から、大学の特別集中講義で、「邦楽花しようぶ」の考えていること・やっていることを話をしてみないか、と声を掛けられた。二〇〇〇年九月二十六日から二十九日まで茨城大学民族学特別講義という。内容は「音楽で語る日本の文化論」ということになり精一杯準備をした。

私たちには手に余る内容だったが、今まで考え、実践してきたことをまとめる良い機会になった。「話と実演」ということで改良楽器「尺八と二七弦」、太鼓・踊り・舞を小曲も含め七〇曲をテープもビデオも使わず進めた。

Ⅰ 現代と伝統音楽—ある生きざま—「邦楽花しようぶ」

Ⅱ 伝統音楽—近世から近代・現代へ—

Ⅲ 伝統音楽にみる自治の闘い

Ⅳ 日本音楽の今後

という項目で話を進めた。

Ⅳの「日本音楽の今後」のところで「伝統の本格的伝承の課題」として「東京花祭りの実践」の話をし、当時東京花祭りの事務局長だった宇野徹さんの力をかり、子供たち四人と「鬼の舞」「花の舞」を学生たちに見てもらった。

講義は九〇分—一五時限。私たちの力量不足で退屈したところもあったと思うが、六〇人弱の学生が無事単位を取得、花祭りの一端を見てもらった。その時の写真がないので残念。

## 『和光大学にて、榊鬼公演のお手伝い』

広木 穰

二〇一七年二月四日(土曜日)に和光大学に行ってきました。今回の依頼はやっちゃんのお奥さんの絵梨香さんからのものでした。絵梨香さんの大学生の頃の恩師、山本ひろ子教授が退職されるという事で、退職のイベントに榊鬼をやってほしいという依頼が御園の若連にありました。絵梨香さんの声掛けで御園若連に募りましたが、日にちが押し迫っている事と、場所が東京という事で中々人が集まりませんでした。

榊鬼を演じるには鬼様は勿論の事、太鼓、笛、そして鬼の着付け、面付けをできる人が必要不可欠になってきます。御園若連の中では、太鼓や笛が集まらなければ、音源を録音する方法も検討したそうです。前にもこの方法でやった事があるようですが、花祭りの太鼓は舞に合わせて微妙にテンポを変化させているので、うまくいかなかったそうです。

今回は東京メンバーで太鼓と笛と周りのせいと衆でお手伝いする事になりました。鬼の着付け、面付けに関しては御園若連で藤原己義さんをお呼びして、教わったそうです。せっかくの機会だからという事で今回の公演に参加できない人達も参加して教わったそうです。

和光大学には光晃さん、水野さん、川口さんが鬼の着付け、面付けの為に同行して、待ち時間の控室では己義さんの面付けの時のビデオを見て確認している姿が印象的でした。普段、祭の時に鬼の面付けなどをじっくり見る事はできません。せっかくなので東京メンバーも面付けをじっくり見させて頂きましたが、一度見ただけでは

とても身に付くものではありません。

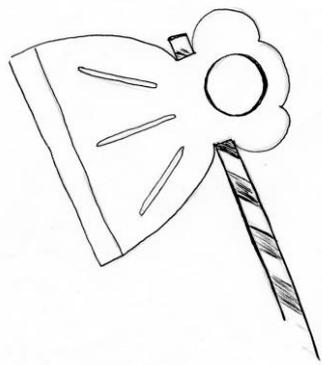
今回の公演は御園から6名、東京から4名が参加しました。山本ひろ子教授は著名な神話、民俗学者です。山本教授の和光大学18年の軌跡をたどるお話もとても興味深いものでした。

そして榊鬼の出番です。出番は約15分でした。厳かな雰囲気では榊鬼が登場して、にらみ、へんべ、釜割り、てほへをしました。途中、花祭りを研究している学生も掛け声をかけてくれました。

榊鬼が退場した後は、御園、東京、学生がせいと衆になり多いに盛り上がり、幕を閉じました。最後は出演者の自己紹介をしました。

絵梨香さんが山本教授のゼミに参加して、研究の為に花祭りを見て回って、そこで御園の花太夫の息子のやっちゃん知り合って結婚に至る話は、会場中がどよめいていました。ある意味、山本教授が恋のキューピット役とも言えます。

今回は榊鬼の太鼓を叩かせて頂くという大変貴重な体験をさせて頂きました。花祭りの演目は、その演者だけではなく、楽や周りを取りまく人達、そして着付けなどの裏方などの役割、すべてが揃って初めて成り立ちます。東京花誕生から25年、鬼の面付けなども東京でできるようになるといいと思うきっかけになりました。



## 伝統文化研修セミナーでの発表

2011年8月21日 日本青年会館にて 主催：全日本郷土芸能協会

「日本の再生の基礎 民俗芸能における子どもの役割」というテーマで研修が催され、そこで「東京花祭り 18年の歩み」を報告しました。

東京花祭りを始めた頃、全日本郷土芸能協会主催の「全日本子ども芸能大会」に出演をと声をかけていただいたのにお断りしたいきさつと、この主催団体の中心の方がその後ずっと東京花祭りを見守ってくださっていたこともありお引き受けし、篠崎・千田・人見・廣木で報告の準備をし、当日はスライドを見ながら廣木が話しを進めました

滝山小学校の図書室での第1回東京花祭りの時はストーブをお釜がわりに。2回目から地域センターの3階フラットホール平場にお父さん達が段ボール新聞紙でつくりペンキで仕上げたお釜を。10年目からは念願の地域センター前の広場で外での祭りになり、ようやくかまどに火がつき、本物のお釜の前や周りで舞を舞うようになったこと等・・・ささやかなつたない第1歩からの経過を話しました。

「学校教育の中での伝統芸能の学習」などいくつか報告があったあと、パネルディスカッションでパネリストの発言があり、民俗音楽学者の小島美子さんからは、御園の人たちが持っている信仰の問題についてどう考えているかと質問があり、「祭りをやる中で日本の伝統的な風俗や習慣に触れ、舞を舞い込んでいく中で舞いに込められ伝えられているそのものの感性が何かしら伝わっていく、基盤が出来ていくのでは・・・」とシドロモドロ考えていることを述べました。(廣木房枝)

## 日本民俗音楽学会（第26回東京大会）での発表

2012年12月8～9日 東京工業大学大岡山キャンパスにて

9日午前の第1部は「都市における民俗芸能の新たな展開」というテーマで星野紘さんの基調報告に続いて、民俗芸能公演として

1) 東京花祭り CDを上映しながらの話し

2) 錦糸町「河内音頭大盆踊り」 踊りの指導も含めての公演がありました。

東京花祭りは主催者から実演の希望がありましたが、第20回東京花祭りと日が重なっていた為映像記録専門家の中藪規正さんの協力を得てCDを作ったの参加でした。

昼食後 第2部シンポジウムは当日出された5人のパネリストのレジュメをもとに発言。廣木は「東京花祭りと20年の活動」の報告。御園から尾林克時さんが参加され「祭りが取りなす東京と奥三河の一つの挑戦」と言うことで話しをされました。

レジュメに書かれていた民族音楽学者の藤井知昭さんの「都市のイベント」に「自然環境と深く結びついて形成・伝承されてきた民俗芸能・・・略・・・都市において民俗芸能が演じられる機会が増加しているが、本来伝承された地域における伝承のどのような要素が残され、どのような要素が変化しているかといった分析も不可欠である。」と問題提起がなされ、発言のなかでは「・・・民俗的な伝統芸能は常に変異・変化していきます。どんどん変わっていくのが宿命だとも言えますが、どういう変化をもってその伝統が続けられているのか・・・。」 その他多くの貴重な話しがあり、学ぶことの多い大会の参加でした。(廣木房枝)

メッセーヂ

○ 民舞研

○ 御園保存会

○ 東京会員



## 東京花祭りによせて

青木 峰子

二十五周年 おめでとうございます。

何事によらず、その事柄が長く続くと云う事は、そこに集う人々のその事に対する熱く・深い想い、そしてたゆまぬ努力がなくては成し得ない事と思います。

私が初めて「花祭り」を知ったのは、御園でのこと、寒い・ねむい・けむい、三拍子揃った御園で、大人の肩ののった幼い子たちが出てきて、釜の回りで舞う、舞の間には、みかんを口に入れてやったり、いろいろねぎらい、又肩ののせて帰って行く：：そして若者達のみごとな舞が続き、鬼が現われ、明け方には、釜の湯をかけられない様に逃げまどうー

こんな祭りの楽しみ方があったのか一と驚きました。

二十五年前、滝山小学校の教室で、御園の釜を模した赤い小さなあかりを、安堵感と満足感の入り交った表情でみつめていた人見さんの姿が、今も目に浮かびます。残念ながら、あの時から数回しか参加出来ない東京花祭りですが、御園の方々の応援、そして、東京花まつりに関わる皆様の想いの深さが滝山の地に根つき・広がり、子どもたちにも伝わり「今」に至っているのだと感じます。

古くから各地に伝えられている踊りや、様々な行事はたしかにその土地のものではありませんが、その根底にあるのは、人が人として生きる力に他なりません。日々変化する現代社会にあつて、人として真摯に生きる心を育てる糧の一つとして東京花まつりが、これからも永く続く事を信じています。

## 舞いの美しさに魅かれて

古矢比佐子（民舞研）

私が初めて奥三河の御園を訪ねたのは、一九八三年のお正月でした。人見さん、広木さんそして民舞研の仲間の平野正美さん、藤井千津子さんと一緒にした。その頃、小学校三年生の国語の教科書（光村）に「おにの話」という説明文が入っていて、花祭りのおにのことが載っていました。ですから、人見さんから花祭りのことを聞いた時に、ぜひ行ってみたいと思いました。

その頃、御園では、お正月の三が日に、花祭りが行われていました。まさに、「寒い、眠い、煙い」の花祭りでした。夕方になれば、道路も凍り付く寒さ、夜通し続く舞、まきの煙でいぶされ、すっかり燻製状態になりそう。子どもたちの「花の舞」が夜中になることも不思議でしたが、舞庭の人がいつきに増えて、大勢の人が子どもたちの舞を見まもるあたたかさ。少年や青年が舞う「三つ舞」、「四つ舞」の清々しさ。榊様、山見様の鬼の舞の威厳。教科書では作物が豊作になるように舞う鬼、人々に大切にされている鬼とされていますが、舞庭では「この鬼ばかだと：：」とはやされることもあり、驚きました。鬼様がより力強く足を踏み、悪い物を追い出してくれるようにということなのでしょう。幼い子どもから大人まで、各世代の舞があることも魅力的でした。この地域の人々は舞いながら育つていくのだと、感激したことが忘れられません。御園周辺の地域には、地域ごとに花祭りがあるので、御園の柔軟で躍動的な舞の美しさに魅かれ、こんなふうに住んでみたいと思ったものです。

東京花祭り二十五周年、おめでとうございます。西部地域センターでの赤い電気が灯った舞庭をなつかしく思い出します。東京に根付いた花祭り、みなさんに感謝いたします。

## 北多摩民舞サークル「ダガスコ」

星野 美紀子

川尻 和子

東京花まつり、二十五周年、おめでとうございます。

私達の民舞サークル、ダガスコと花祭りとの関わりのはじめは、メンバーで、活動の内容や方向性を示してくださる人見勇三さんから、奥三河に伝わる素晴らしい芸能があることを教えていただき、東栄町御園を訪ねる機会をもてたことからでした。

踊りを教えていただけるようになると、花祭りでは、子どもが踊る「舞上げ」を、子育ても終えた年代の私達が、軽やかに踊れるわけもなく、太鼓のリズムにただ体を合わせていたことが思い出されません。

花祭りでは幼児から青年、そして大人まで各世代の踊りがあり、それを温かく見守り囃す人々がいる、そのような様子を東京でも広げたいという人見さん、広木さんの熱い思いを共にする方々で始めた東京花祭りでした。

東京花祭りの輪は、滝山地域の方々とその家族に広がり、舞手が育ち、祭りの担い手が育ちというようにして、二十五年続いてきたことに、本当に敬意を表したいと思います。

花祭りを行うには、舞や楽の練習から始まり、たくさん準備が必要なことを、周辺で見えてきてわかっていく身として、今後とも、自分のできることで関わらせていただこうと思っています。



東京花祭り二十五周年おめでとうございます！

花祭りとの出会いはいつも懐かしく思い出します。

三十年近く前になるでしょうか、人見先生、広木先生に教えていただいて、初めて御園花祭りを訪ねました。幾重にも重なる暗い山道を行くが行くが行くと、突然ぼつかりと灯りがともって見え、笛太鼓が聞こえてきました。木の洞の中で踊る昔話の世界が現れたかと思えました。その頃は表屋さんの隣にあった平屋の集会所が舞庭でした。一月の寒い寒い夜でした。山から招かれた神様も舞庭の外で震えておられるようでした。

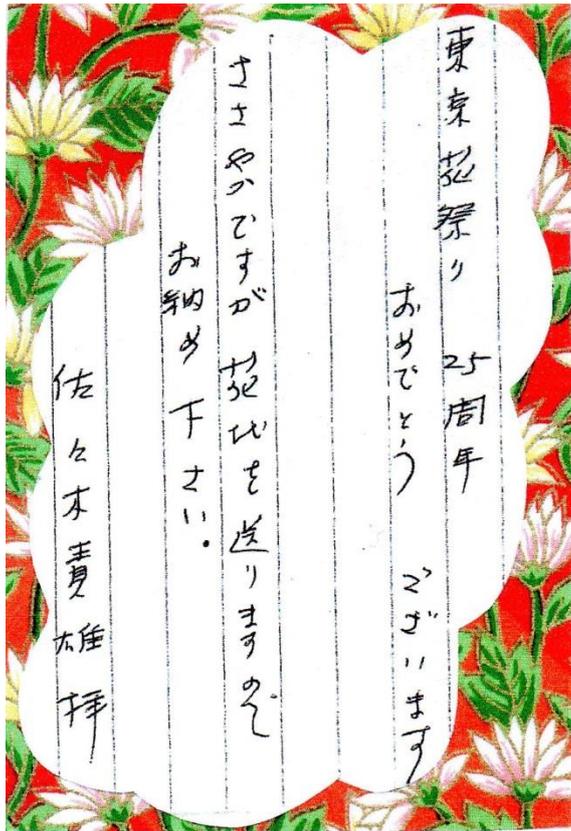
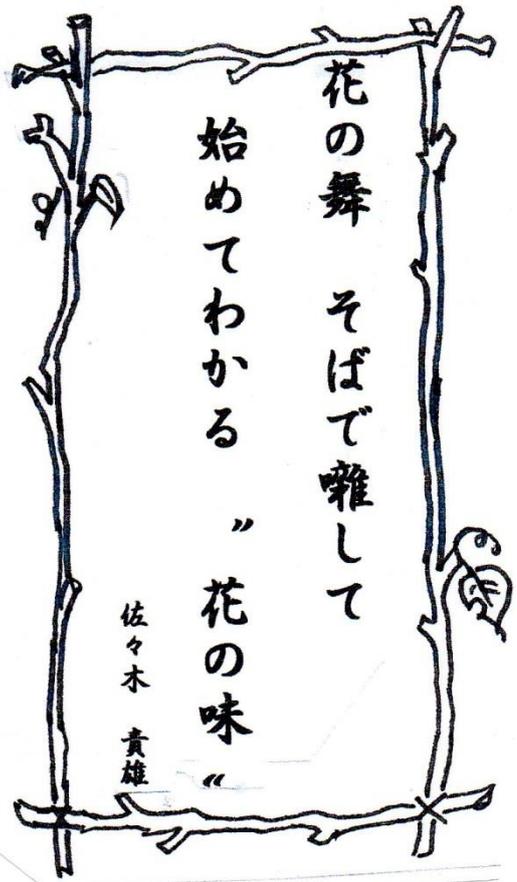
真夜中の花の舞。幼い子ども達が大人の肩に載って舞う姿は、天から舞い降りてきたかと思われました。民舞研の平野先生は「教育の原点がここに在る」と言われ、胸が熱くなつたのを覚えています。

やがて人見先生、民舞研の先生方、ダガスコの仲間等と何度か御園に通って踊りを教えていただきました。保存会の皆様に大変お世話になりました。植田先生には、「あの娘（こ）は：」「この娘（こ）は：」と呼ばれて励ましていただきました。思い出すと懐かしいことばかり。感謝の気持ちでいっぱいです。

御園の想いを引き継がれ、東京に根付かせて育ててこられた東京花祭りの皆様のご努力に敬服し、祭り当日のお手伝いに少しばかり参加させていただいている私どもです。今後も東京花祭りがますます発展なさいますようお願いいたします。

## 「花祭り」の笛取り組んで

ムジカ篠笛講座・伊藤浦子



花祭りが大好きな貴雄さんは、御園でも東京でも舞庭で囃して、舞い手を元気づけてくれます。笑顔で優雅に囃す貴雄さんが、また来て下さるのをみんな待っています。

ムジカで人見勇三先生の篠笛講座が始まったのが一九九九年秋です。「花祭り」については全く知識がなかったのですが、人見先生にご案内をいただき、初めて「第七回東京花祭り」を見に行ってみました。会場はまだ屋外ではなく西部地域センターの多目的ホールでした。

篠笛講座のメンバーが初めて笛のお手伝いさせていただいたのは二〇一〇年です。当日メンバー三人で祭り会場に行ってはみたものの、地元保存会の方々もいるのに、東京の会の方を差しおいて未熟な私たちが笛を吹いても良いのだろうか、と尻込みしていたら、「いい経験になるから全部吹きなさい」と笛吹き先輩、所さんに励まされ、十二時から十九時まで必死に吹きました。途中知らない旋律も出てきて焦ったりもしましたが、本当にいい経験になり、鍛えられた一日でした。それからは毎年可能なかぎり笛のお手伝いさせていただくようになりました。多彩な舞いの魅力もだんだんと分かるようになり、子どもたちが舞うときには「がんばれ！」という気持ちで、鬼様が出てくるときはワクワクして笛を吹いています。花祭りの笛を吹くことがとても楽しく、自信もつきました。思えば、あの時に所さんに励ましていただいたことが今につながっているのだと思います。篠笛講座のメンバーは普段の練習になかなか出ることはできないのに、祭り当日はいつも会のみなさんに温かく仲間に入れていただき本当に感謝しています。

これからは笛だけでなく「東京花祭り」のお役に立てるようがんばりますので、よろしく願います。

## 東京と御園 『花の銀婚式』

御園花祭保存会 清水 靖

東京花祭り二十五周年おめでとうございます。第一回が開催された時、私は大学二年生でした。御園からは、尾林今朝男さんと父と私の三人で参加し、小学校の教室で行われたのを今でも鮮明に思い出されます。第一回目が開催される数年ぐらい前から交流があったと思いますので東京花祭りとの関わりは三〇年ぐらいになるのでしょうか。東京花祭りの花若メンバーと御園の若連十五周年記念として一緒に諏訪へ旅行に行ったり、正月に行われる各地の花祭を巡ったりしたこともありました。

東京花祭りが開催されるようになってからは、五月のGW練習会、八月の夏合宿、十月の講習会、十二月の東京花祭りが自分の年間行事として慣例化しています。花祭り好きの自分としては、まさに年中花祭に関わることができ幸せなことではと思います。

舞の練習では、東京花祭りのみなさんがいつも真剣に取り組み、何回も、何年かかっても習得しようとする気持ちには本当に頭が下がりました。練習会には、御園や御園に縁のある子どもたちも便乗させてもらい、御園の花祭りにとっても良い機会であったと思います。また、舞を教えるにあたり、自分も間違ったことを教えてはいけないと思い、御園の長老衆に確認をしたりして自分も舞に対する理解を深めることができました。

私が大学時代に教えていた子どもたちも、結婚して子どもが生まれ親となり、今では親・子・孫と三世代を教えるということになってきました。新しいメンバーの参加もあつたりして、改めて時の流れを感じます。

ここ数年の東京花祭りでは、東京のみなさんがほとんど舞・楽を担っており、御園の衆は一緒に舞ったり、囃したりと純粹に花を楽しむ気分で参加しているのではないかと思います。御園の花では、それぞれ役割があり、なかなか花を楽しむことが出来ないのですが、御園と同じ拍子、舞で行われる東京花祭りは御園の衆にとって一年に二度、御園の花を味わえるものとなりました。

二十五年間続いてこられたのは、東京花祭りのみなさんの熱意があつたからこそだと思います。様々な問題や困難があつたと思いますが、何とか続けていこうとする気持ちに心から敬服致します。

また、御園の花で舞を舞ってもらったり、笛や歌ぐらなど手伝っていたりすると、今では東京花祭りのみなさんも御園の花には欠かせない存在となっています。今回、東京と御園がいろいろな交流を重ねつつ『花祭の銀婚式』をめたく迎えることが出来きたと言ってもいいのではないのでしょうか。この先、金婚式を迎えられるようお互い頑張っていきましょう。今後もよろしくお願い致します。

最後に、これからも東京花祭りの中から一人でも多くの「花キチ」が出てきてくれることを期待しております。



## 東京花祭りと共に

御園花祭保存会 尾林 威行

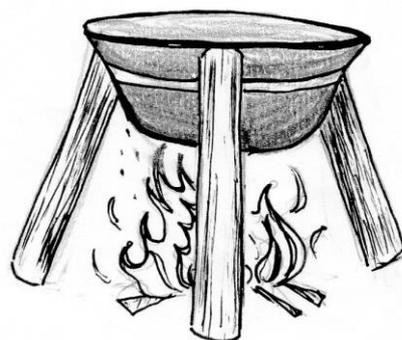
私の東京花祭りの思い出は、高校一年生の時、小学校三年生の広木穰君が私の家で一年間暮らした時から始まります。その当時の記憶をたどると、花祭りよりも一緒に遊んだことが、鮮明に浮かんできます。東京、御園、関係なく私の弟と三人で、兄弟のよう遊んだことは、大切な思い出であり、その関係は今でもずっと変わりません。

それから、程なくして東京の皆さんが練習に來られました。旧御園小学校の講堂で汗だくになって練習されたのが、始めの頃だったように思います。あれから二十五年以上欠かすことなく行われてきた合宿、練習会は東京花祭りの確固たる礎だと思えます。

大学生になり初めて参加させていただいた第二回東京花祭り、小学校の教室で行われ、ほぼ花の舞だったように思いますが、大切な第一歩として心に刻まれています。それから数年は地域センターの中で行われ、ついには外で釜に湯を沸かし、湯ばやしを舞った時には驚きと感動がありました。

私は今年四十五歳になります。近頃は東京花祭りが世代を超えて、子供にそして孫に伝承されていることに気づかされ、継続の力、素晴らしさを、まざまざと実感しています。

人見さん、広木さんをはじめ東京花の皆さん、御園の先輩方が力を合わせて築き上げてきた二十五周年。私は本当に微力でしたが、参加することで、東京花祭りと共に成長させていただいたと思います。そして皆様に出会えたことに心より感謝いたしております。



2017年12月 東京花祭り 夜交流会にて  
御園保存会の方々よりお祝いの言葉をいただきました

東京花祭り25周年おめでとうございます。  
盛大に出来たと誠にありがとうございます。今後の発展を  
祈り皆様方に乾杯 SHIMIZU A

25周年盛大に出来 誠に お祈り申し上げます。  
東京と御園が共に栄えつよ様に祈念の時  
尾花克昭

25周年おめでとうございます。これからも  
貴会の発展を祈り申し上げます。 藤原巳美、  
村上下子、  
荒河香子。

25周年誠にありがとうございます。今後30年、50年と  
さらに盛大に発展されることをお祈り申し上げます。  
八幡直浩

東京花祭りの25周年おめでとうございます。御園と東京共に  
24から30年、40年に向けの発展に引き続き祈念しております。  
真松覚

東京花祭り25周年おめでとうございます。  
親子で参加して、うれしく思います。  
更なるご発展を祈念するとともに、ご来場いただいた  
皆様へ感謝いたします。  
尾花克昭

25周年おめでとうございます。

東京と御園共に力を合わせて30年、50年と  
続けていきますよ。 尾林威行

25周年おめでとうございます、東京花、御園花お互いこれから  
がんばりましょう！ 藤原大晃

縁のなかで、心身にも長く親戚のようにならねば。  
ゆめ合、学び感謝の思い、いつかです！

あつとに いっまで、続いほしと願っ  
てます。 尾林秀子

25周年おめでとうございます！子ども世代までのつながりができ、  
うれしく思います。お互い来長く続けていきましょう！ 荒河光弘

祝！！25周年！！清水靖

25周年おめでとうございます。気づいたら女性人も、  
40すぎにたりじゅりです。せーそら0周年をお願いします。  
本回

25周年おめでとうございます。祝 藤原エリ子

25周年おめでとうございます ♡ 私は結婚して21年になりますので、東京花の皆様  
とは、ずいぶん長いおつきあいにありがとうございます。  
25周年おめでとうございます。香奈美 今後とも変わらぬおつきあい、よろしくお願ひします。  
おめでとう 尾林直子

東京25周年おめでとうございます。

心からも永くつなげて下さい。  
高尾智恵

25周年おめでとうございます。

今回初めて参加させていただいて、みんなで作りに上げ  
ている東京花祭りも十二分に楽しむことが

できました。これから来長く続くことを  
楽しみにしています。 荒河 裕美

25周年、おめでとうございます。

東京の皆様は、とても熱心で、いつも  
感心させられます。今回、初めて参加  
させていただけました。つながり…  
きずなはの深さ…素晴らしいと思ひました  
金田由紀

25周年りのイロウジジいます!  
 小さい頃より東京の皆の手にお世話のほ、7います!  
 今夜も変わりずのよりよくお願い致します! 平野 知子

25周年おめでとうございませう。  
 東京花祭りには、1年の中の楽しみの一つです。  
 来年からもよろしくお願ひします! 尾林 結花

25周年 おめでとございませう。  
 何度来ても東京花祭りは、楽しいです。  
 来年は社会人とな、てしまひますが、  
 かならず参加したいです。 尾林 若奈

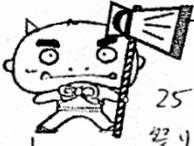
25周年おめでとうございませう!  
 自由で楽しい雰囲気が大好きです!!  
 今後ともよろしくお願ひします  
 尾林 百花

25周年おめでとうございませう。  
 東京のみなさんとやかわりをお、本当に嬉しく思います。  
 私は花祭り、そして東京のみなさんが大好きです。😊  
 これからもよろしくお願ひします。 菅沼 芽奈。

東京花祭り25周年 おめでとうございませう。  
 これからも参加させていただきます。  
 尾林 雅司



# 御園の子どもたち



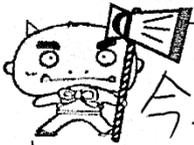
25周年という記念すべき日に東京花  
祭りに参加できよう水しかたで7。  
2.3年ぶりに舞いました。ヤ、ぱり楽しい!!  
これからもうがと続けてほしいです!

なまえ 尾林若奈



花祭りは私の生涯。

なまえ 菅沼 芽奈



今年の花まつり楽しか  
たです。  
来年もきて楽しみたいです。  
みずの なまえ もたま

なまえ もたま



はなのまいのけんか  
楽しかった

なまえ 友也



毎回はひょつとこが目  
れなかつたので、次は  
見たいです。

なまえ 金田大和



花まつりのまいのけんか  
楽しかったです。

なまえ あらかわさき



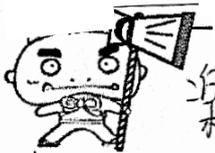
おのあま

なまえ あらかわさら



初めて来たけど東京の子  
たちと楽しく食べてよかった。

なまえ 金田奈々



功ま下の「ひか」  
楽しめたです。

また来年もまたみたいで。

なまえ 佐々木 佐太郎



花祭りと生きる人生。

名前 尾林 結花



No 花祭り  
No life

なまえ 尾林 百花



ぼくの生いきて、少し  
まぢがえてしまおけれど、  
しっかりできました。

なまえ 国田<sup>結</sup>牙<sup>士</sup>



25周年の祭りに参加して  
とても大変うれしかったです。

名前 尾林 雅司



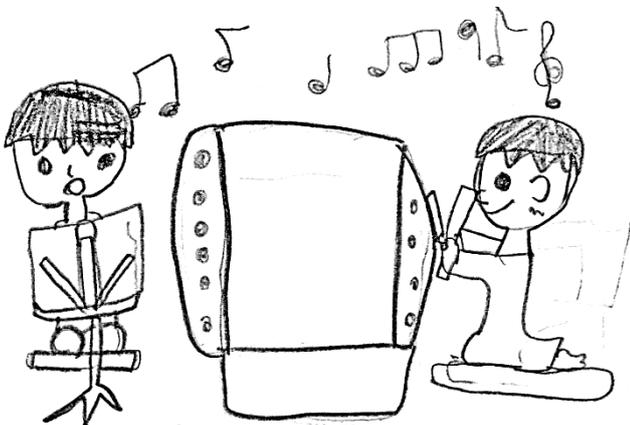
今年の花祭りはとてもた  
のしかたです。いいねんは  
これな~~い~~か~~い~~またこんどまたか  
まか~~い~~を見たいです。

なまえ 佐々木 さくし



花まっりのゆ  
は「やさか」楽しかた  
です。らい年をきたいです。

なまえ 水のたか



# 東京の子どもたち



わたしは、花祭<sup>カサ</sup>カ...すき  
です。まいを、まてきもちよく  
なるからて、あくまとおに  
をやりました。

なまえ 近とうかな子



250円ねんおめで  
うございます。  
けんをまてきんちにし  
ました。  
ひろ木<sup>なまえ</sup> そうや

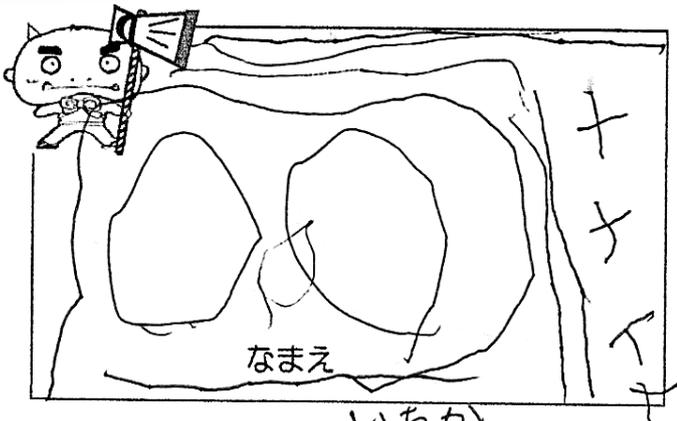


えんようをまて、  
たくさんまちがえてしまった  
けれど、仲良しの3人とまえた  
ので楽しかったです。

名前 荒木 春花



まいあけをま  
いきました。  
1ばんがたのしかた  
です。<sup>なまえ</sup> あら木の3み



なまえ

いちか



なまえ

モリタレシ





初めて三つ舞を舞って  
ミスは多があけど、楽し  
く舞えたのでよかった。

名前 小川 心優



合宿がとてもしつかり  
楽しかったです。

ありがとうございます。

なまえ 加藤 大輔



えんようをやって仲良く  
みでました時たくさんいい  
あて笑ったりしてとてもた  
のしかったです。

名前 保科 真咲



あくまをうまくま、こさ  
れいにまえてよかったです。

名前 永瀬 深生 人



今年は、えんようをして、みんな  
仲の良友達ともやったので  
言合ながら楽しみながら  
出ました。そして、つかれた時に  
周りのトにはげましてくれたり、  
かけこえをかけたので  
がんばれた。なまえ 山路 彩奈



中一になって初めて三つ舞踊た。  
部活とあり、忙しく、おま練習が  
できずかなり失敗しました。  
それでもリカリーをしてみんなと相談して  
舞うことで楽しく笑ってできたので、  
名前 藤田 一誠



わたしは、花のまいの湯  
とうをまいました。初めて  
一番をやってそんなに練習  
をしていなかたからまちがえた  
けどもたまちゃん、はるかちゃん、  
うたろうくん、まえよかったです。  
なまえ かつうゆい



なまえ いちむら いずみ



きょうはくは、  
ゆほゆほして、いっほい  
ぬれらたてできた  
いっほいぬれたいです。  
名前 山路 峻太


 えんようを仲良しの4人で  
 おどり、うれしか、たです？  
 なで みんなで笑いながら  
 おど、たりして たのしか、たです。  
 なまえ 市村 玲輝


 よしだ" なまえ よね


 失敗してくやしかったけど、  
 楽しく舞えてよかったです。  
 なまえ 宮田 梨生奈


 まいあけ"が楽しかった  
 花まつり火焚きです。  
 なまえ 宮田 由太

亮君、2枚書いて  
 くれて  
 ありがとう♪


 花若  
 "けんいよ！ 漢字マがエウ(笑)  
 三つ舞の機ははじめ  
 でしたか、たのしくできました。  
 名前 篠崎 亮


 25周年おめでとうござい  
 ます。  
 高校生にもうすぐなりま  
 すか！仲良く楽しく続けてい  
 たいと思います :)  
 名前 篠崎 亮


 朝 木 神 山見

え: ひろき そうや (6さい)  
 2016. 御園花祭

# 花若たち

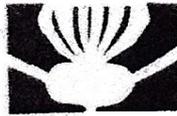


25周年

おめでとうございます。

この素敵な花祭りがいつまでも  
続きますように♡

名前 大川 さく乃



滝山小での花祭り、今でも覚えて  
います。

25周年おめでとうございます。

富田 隼



25周年おめでとうございます。

小さい頃に楽しく舞える場所があっ  
て幸せだったと思います。これからも  
ずっと続いてほしいです。

名前 宇野 麻苗梨



アッ！という間に25  
年が経って、いました。

アッ！という間に50年が経てば  
いいのですが。。

名前 廣木 穰



この度はおめでとうございます。

小学生の頃から参加させて頂き、今や  
30歳代の一児の父親になりました。  
25年の長さを感じます。

お祭りを通じて皆様に出会えたことが  
大切な思い出でございます。

今後の更なる繁栄をお祈り申し上げます。

名前 木暮 涼



25周年おめでとうございます！

学校の図書室から始まった東京  
花祭りが25年間も続いてきた  
ことは本当に凄いことだと思います。

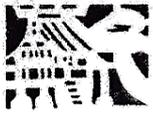
これからの益々の発展応援しています！

名前 渡辺 光



8才だった小学2年生から始めた花の舞、  
長が伸びれば25周年とは本当にあんなに  
でした。25年の間に社会人になり、海外へ  
行き、結婚をし、来年には親になります。  
一時期肉の事ができない時期もありましたが、  
今まで続けられたのは花の魅力があるからです。  
これから産まれてくる我が子にも花の舞を舞ってほしい。  
この東京花祭りが次世代に引き継がれる事を  
思っています。

名前 エレイドリ、ツニ(旧姓矢野)歩



一踏一踏しなやかに  
一舞一舞にぎやかに  
花祭をはやし続けていきたい!!

名前 藤田 亜紀子



あ、という間に25年、  
色々な方々に支えられて、  
感謝の一言です。

名前 廣木 沙織



自分も成長させてく  
れた花祭りに  
おんがえししたいです。

名前 近江 祐輔



相手舞は初めてで  
間違えたところもありましたが  
笑って楽しくできたので  
良かったと思います。

名前 山路 未侑



これからもずっと  
盛り上げていきたいです

名前 佐村 陸希



毎年毎年盛り上げ  
ていきたいです。

名前 宮田 有希奈



今後もずっと  
続いてほしいです。  
25周年おめでとうございます

名前 宇野 友来菜



25周年おめでとうございます!!  
毎年舞わねばならず、現地の古くとも  
交流ができて、とても嬉しいです。  
これからも長く続いていけるよう協力します!

名前 加藤 芽生



これからも  
盛り上げ役!

名前 長沢 隼斗



# 東京の大人たち



東京花祭りが始まって、すでに  
四半世紀を迎えるということに  
驚いています。この活動を支えてきた皆様の  
努力と情熱に頭が下がります。支える  
方々のご健勝をお祈り致します。

名前 村田智加子



第1回目、私は36才。滝山  
小学校のこととおぼろげながら  
思い出します。  
美園に行き、花祭りの熱気は何回感  
ことでしょうか。ばせし手か盛り上げ、踊り終  
たあとの充実感、ともに喜び、この感動を大事に  
したい。

名前 川上咲子



小さかった子どもたちが、今回三舞  
び堂々と釜に飛び込む姿...泣き声  
「花祭り、てすいなあ...」というのか  
口ぐせの様でした。老若男女が、揃えるわを出して  
持ちつ持たれつ。話し許され居られる処。私は  
何はなれども「お祭りオバちゃん」として、この花に  
いられたら、と思っています。お節介 お許し下さい...



名前 荒木久子



毎年花祭りが開かれている中で  
継続していくことの難しさと、皆  
さんの思いと行動がそれを成し遂  
げている事への感謝を感じていま  
す。これからも、応援したいと思っ  
ています。

山路 柚衣



祝25年  
心の成長とともに  
優雅な舞手になれますように。

名前 小川杏子



侑希奈と梨生奈は幼稚園に  
入る前から参加させていただいて  
あ、という間に十数年たちました。  
泣いて女嫌がっていたのがウソのように今では楽しく  
参加しています。柚奈も同じように少し前までは  
泣き泣き舞っていましたが、今では同じくらいの  
年の子たちと楽しくやれるようになり良かったです。  
三姉妹一緒に 名前 宮田侑希奈 梨生奈 柚奈の母  
未永く楽しんで参加していければと思います。



人見さんとの30数年ぶりの  
出会いから、消化不良から  
篠笛をもう一度と思い  
花まつりに参加させていたたき私  
もう16年の歳月です。若い方々  
可愛らしい子共たちに思いを  
伝えます。 名前 伊藤 久々



25周年おめでとうございませ  
縁あって参加させていただいたこと  
いることを誇りに思います。30回50回と  
続きますことを。  
私もがんばります。  
名前 佐口木ふみ

 その地に根がく、生きる。そんな芸能を伝える保存会は、とりしてこんなにもできるのではありませんか!!

何もわからず25年前母子でかがわり始めました。「我が子が三ッ舞を舞うのを見たい」と思ったことが、その後お孫子は1人でも合宿へ、花祭りへと御園へ出てきてました。子育てと共に花祭りがあった25年間。今は恩返し、出来ることをお手伝い致します。

名前 木暮明子

 25周年おめでとうございます!! 「お祭りをする事」の意味。この歳になって自分なりにわかってきました。そして、いろいろな物事や人に感謝できる事が、ありがたく、善いであ。これからも、よろしくお願ひします。

名前 保科千夏

 見るべりとして昔年、舞うべりとしてはまだ2日ですが、わたしはとてとろりとて。東京花はついでにはならぬお祭り、HOMEです!

これからますます楽しみ!!  
みんなの成長も、楽しみ!!

名前 吉田有美(お母)

 昨年聖矢は、おと泣きっぱなしで何も出来なかったが、今年も舞い、手入を言て楽しんでたのでうれしく思いました。

名前 もとほし まり

 祝25周年! おめでとうございます  
1回~15回頃まで、娘と一緒に参加させていただきまけた。感謝  
これからも、ずっと続きますように♡

名前 渡辺民江

 毎年(漆花)を書かせていただき、感謝しつつ、恐縮しています。書の道は深くはるかに遠いですが、これからも協力できる自分<sup>名前</sup>でいたい。漆花

 笛を習いたくて、人見先生と虫会い、花祭りに虫会いは、「花祭り」? ...ずいぶん前に聞いたことが、て父が北設楽の出身だからです。

名前 今泉良子

 東京で祭りをするとすこい!! ことですわね!  
25年前女おまたた当カに祭りを支えていた方々の思いが、今も系売っている<sup>名前</sup>お

名前 市村百合子

 初めて御園を訪ねた頃のこと、今でも懐かしく思い出されます。正月の寒い、けむい、眠い、夜だけ。御園の想いを東京に根付かせ、育ててくれた東京花まつり、25周年、おめでとうございます!

名前 川尻和子

 25周年、おめでとうございます。踊りも鬼の出で立ちも他では見ることのないものばかり、素晴らしい奥三河の花祭りを代々受け継いでいる皆様の意気込みに脱帽! 元々感謝です。職場で出会った大野さんに声をかけてもらい、3年前現地を訪れ「花祭り」を体験。夢中でカメラをまわり続けました。ますますの活躍をお祈りします。

名前 浅見泰子



御園の高校生だったたけちゃんとやっちゃん  
の舞に魅せられて早いもので25年。我が子は  
4年生でした。第一回は滝山小学校の図書室、  
花の舞だけだったように記憶していますが、25  
年の歴史を感じると共に子どもが生まれ育った滝山  
で伝承されていく事、孫達も花祭りの虜になり舞っ  
ている姿を見られる事を幸せに感じています。

名前 千葉 初子



保育園の時から見させて頂いたみうとが  
「ボウもやりたい」と言っ一緒に入らせ  
て頂きました。

25年続けこの先も先輩に感謝。  
右様もわかりませんか。  
一緒に舞って楽しんでいただけたいです。

名前 永瀬 景一



東京花祭りに20年御園の  
花祭りにも参加させて頂いた中で  
故郷の榎葉神楽よりも  
身近に感じるようになってきました。  
これから御園との交流を深め舞を  
見習い、300年の歴史の重みを感じながら  
舞えるようになることを願っています。

名前 所 征子



25周年おめでとうございました。  
約20年前にきくぼと参加させ  
ていただいたことに心裏しく思い  
出されます。これからも、日本の伝統  
芸能をささえて頑張ってください。

名前 大川 由美子



魂と体全体で脈々と  
受け継がれてきた花祭り  
その長い歴史の中に、少しでも共に  
居られることが何より嬉しいです。

花祭りよ、永遠に♡♡♡

名前 宇野 千鶴子



東京花まつり25周年  
おめでとうございませう。  
祭りを支えて来た会員の皆様  
のご苦労と熱心さに敬意を表  
します。祭りが長く発展しますよう。  
名前 川上 正毅



東京花祭りが始まった初期  
の頃でしょうか。息子が踊って  
いたので、お年伝いをさせていた  
だいていました。御園にも一度行った  
ことがあります。「テホヘテホヘ……」印象  
的でした。25周年おめでとうございます。

名前 富田 速人



## 25周年を記念して次のように御案内をいたしました

「秋過ぎて冬咲く花の花祭り」の季節がやって参りました。1993年に東久留米市滝山で「花祭り」を開催して以来、保存会をはじめさまざまな方々の御支援をいただきお陰様で今年は25周年を迎えます。

子供たちの楽しく舞う姿、若者たちのエネルギーにみちた舞など、花祭りの魅力に励まされ、大人たちも共に舞ったりして一步一步月日を重ねて25年になります。

今年は、愛知県東栄町御園から保存会の方々が40人乗りのバスで東京にかけつけてくださることになり、会員一同新たな思いで準備に励んでおります。

つきましては東京花祭りにお力添え、ご指導をお願いしたく招待券をお送りさせていただきます。

東京花祭りの会 人見勇三

日時 2017年 12月 9日(土) 11:00 ~ 19:00

場所 東久留米市西部地域センター前広場

### 東京花祭り 25周年記念公演をお祝いして

東京文化財研究所名誉研究員  
星野 紘

昭和5年に折口信夫は、「広い東京にも大分、花祭りぐるいと冷笑されることに満足を感じる人々がふえて来ました」と記していたが、それ以後、芸能研究者、学生をはじめ“花祭りぐるい”と称される都会人は今日も引きもきらない。ところが、単に研究するだけでなく、花祭りの舞い振りに魅せられ、みずからそれを体得し継承していこうと四半世紀間頑張ってきたのが、この「東京花祭り」の人たちである。これを立ち上げその運営を支えてこられた人見勇三さんと広木房枝さんのご尽力にはびっくりしている。由緒が深く、内容次第が豊富かつ複雑、その意味解釈がとても難解な第一級の民俗芸能「花祭り」の場合は、東京に移植しようとして簡単なものではない。高度な技芸に到達すべく毎年東京と現地（愛知県北設楽郡東栄町御園）で数回、御園の人の指導を仰ぐ講習会を開催し、本番の時には御園花祭り保存会の中心メンバー（清水晃保存会長・尾林克時前東栄町長をはじめ）の上京を得て、まるで現地の分家のような「東京花祭り」を実施している。居住地住民（東京都東久留米市・小平市）の支援を得て地道に組織活動を展開しておられるが、地縁血縁の強固な伝統に徹する奥三河の現地人の了解を得ることの大変さ、諸経費の資金繰りのやっかいさなど種々の問題に当面して来られたに違いない。25年間これを継続してこられた壮をまずもってお祝いしたい。聞けば過疎化高齢化に悩む現地御園の花祭りの活性化にもひとつの刺激を与えてもおられるとのことだ。

花祭りは数百年の伝統をもち昭和五十一年に国の重要無形民俗文化財に指定された民族芸能です。  
東京花祭りの会は三十有年前より祭りの研究と実践をしようと努力され本年二十五周年を迎え、  
なお一層の発展向上をしようと研究熱心な皆様です。  
今後のご支援とご指導をいただきたくお願い申し上げます。

平成二十九年十一月十二日  
愛知県北設楽郡東栄町御園 御園花祭保存会長  
花太夫 清水 晃

25周年おめでとうございます。滝山夏まつりの踊り手を通じて花祭りが滝山で行われていることを知りました。小さい頃に疎開先で寒い冬、テホヘテホへの音で花祭を見ていたのを覚えていました。そんな花祭が滝山で行われていたことにびっくりでした。それから微力ながらお手伝いをさせていただいています。

はじめの頃はとても大変だったと思います。広木さんご夫妻のご努力とお祭りに携わる皆様方にはいつも頭がさがります。皆様の努力があつてこそ迎えられた25周年だと思います。愛知県奥三河と東京が結びつき東京花祭りが行われるのはとても喜ばしく、改めて700年伝統のすごさを感じます。これからも花祭りが東京に根付いてゆくことをお祈りします。

しばたふとん店 柴田 豊

「東京花祭り」25周年、おめでとうございます。我家の娘が小学2年生の時に誘いを受け、1993年秋の第1回「東京花祭り」に参加しました。紅い衣裳が可愛く、印象的でした。年々舞の種類がふえ、青年・壮年の舞はとても素敵でした。

それから四半世紀がアツという間に過ぎました。地域のつながりが希薄な今の時代にこの舞の場と仲間との経験は学校では得られない人生の本当の意味の教育を受けられたものと考えます。海外在住中に縁あつて結婚し、子育ては日本で…と現在市内に住み、来年春に親になる予定です。これからは子供と一緒に50周年を目ざし、皆様との絆を深めていくことを望んでおります。

さいわい町診療所 矢澤 智子



25周年にむけて一言をお願いしましたところ、28人の方から温かいメッセージが届けられました。紙面の都合上12人の方の言葉を掲載させていただきました。この励ましの言葉は「東京花祭り」の今後に大きな力となります。有難うございます。

1993年12月

滝山小学校図書室が始まった「東京花祭り」以後25年間、一年一年正念場を乗り越えてこられた方々に敬意を表します。

民俗芸能学会

名前(中村 茂子)

「東京花祭り」25周年  
おめでとうございます  
日本全国の神楽を聞いて  
このように試みは多く  
こころのちがいを思い  
とらいつつ難しいことを地道に続け  
今のよう姿に花咲いた事は  
素晴らしいです。

東京花祭りのお祭りの熱意と  
お祭りへの協力をしてくださった  
御国のお祭りの御下りです

日本民俗音楽学会

お名前(三ヶ敏視)

継続は力です。25周年おめでとうございます。

民俗芸能の今日的な継承の仕方、先駆けを切り開かれた東京花祭りに敬意を表します。

奥三河の魂を受けつぎ地域の皆様と共に東京の民俗芸能にも育ち上げて下さい。

記念すべき公開なのに同日、在話人を引受けの催しが重なり不参加お詫下さい

(公社)全日本郷土芸能協会

お名前(城井 智子)

東京花祭り25周年

おめでとうございます

花祭を通じて奥三河の芸能文化の奥深さを東京の方々に知って頂く機会として、芸能の楽しさを堪能して頂く場として、そして今後の民俗芸能のあり方を考える上での先導事例

として、東京花祭りの25周年は大変意義深いものと存じます。これから50年、100年と続いてゆきますよう、益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。



東京文化財研究所

お名前(久保田 裕道)

尚都内には他府県、在外同人が  
多く占めています。このおにぎりが  
たいした人々に自分のルーツを思い出させる  
思いやります。このおにぎりは  
伝統的色彩の強いもので、脚金の対候と  
おにぎりのすばやい、肉や野菜の白身で  
包み込んだ勇姿はすばいと思えます。  
この種の借物は高峯ベースでは  
無礼であり、財政的にきびしい  
是非これからはメヤセ自治体、国お  
お金をもたらすことが必須であり思えます

在日日本郷土芸能協会  
お名前(中坪 功雄)

素晴らしい催しですね。  
是非お伺いしたいところ  
ですが、当日、芸能学  
会での発表も予定し  
ており伺えません。ご  
盛会をお祈りします。

お名前(獅子博物館 高橋 裕一)

東京花祭り 25周年おめでとう  
ございます。  
25年前の滝山小学校図書室での  
初回東京花祭りが懐しく思い  
出されます。

子どもたちの花の舞、勇壮な息  
の舞を見て、終盤の湯ばやれで  
逃げ回っています。

花祭りの伝承と、その伝統が  
現代に夢開き、未来に芽生えて  
いくように、益々のご発展を  
お祈りいたします。

お名前(鈴木 利雄)

願想園コンサート事務局長

東京花祭り 25周年、誠にありがとうございます。

700年もの長きにわたり続いた愛知県御  
園奥三河の「花祭り」(国重要無形民俗文化  
財)を、東京の東久留米市滝山で開催する  
とは、何と無謀な、何と大胆な、そして何  
と素敵なことかとただただ感嘆するばかり  
です。しかも、現地「御園花祭り保存会」  
の方々が大勢見えて、一緒に踊り継ぎ語り  
継いで公演を支えてくださっているとは、  
夢のようなお話です。それだけこの「花祭  
り」には人を惹きつけ、舞い手の心を酔わ  
せる魅力があるのですね。

最後に、東京花祭り実行委員会の皆様、本  
当にお疲れ様です。この歴史と伝統のある  
文化を伝承することは素晴らしいことだけ  
ど、どんなにか努力や苦勞をされているこ  
とでしょうね。これから益々発展されるこ  
とを期待します。

お名前(室井 敏明)

あじさい公園手づくり盆踊りの会元代表



# 「東京花祭りの会」

広木 穰

この度、東京花の代表を務めさせて頂く事になり、名称としても「東京花祭り実行委員会」から「東京花祭りの会」に改名する事になりました。二五年の節目に看板を掛けかえる訳ですが、中味としては大きく変わっていく事はないと思います。人が色々な力をつけていくには、継続が必要不可欠です。要するに「継続は力なり」を実践し続けていこうと思います。

最近の私が祭りに対して一番関心があるのは、次世代育成についてです。何百年と祭りが続く為には、何百年と生きれる人はいないので、次世代に繋がられた地区の祭だけが後世に残ります。祭りを執り行う為には色々な要素がありますが、次世代にどう繋がっていくかというのは、一番重要視すべき要素だと思います。

花祭の中にも、次世代に繋げていく為の先人の知恵や先人の熱き思いが色々な箇所に詰め込まれています。

かの有名な「秩父夜祭」ですが、祭のクライマックスを冬の夜中に迎える事もあり、基本的に子供達の出番はありません。大人達だけで盛り上がって、次世代育成をおろそかにしている訳ではありません。夏の昼間に「秩父川瀬祭」というのを執り行なっていて、子供達が主役の祭です。一つの神社で大きな祭を年に複数回執り行う事は、並大抵の事ではありませんが、そこに秩父の人達の次世代に繋げる熱い思いを感じます。どこの祭も毎年の段取りがコロコロ変わる訳ではなく、何百年と行ってきた中でその土地に一番しっくりくるルーティーンがあります。



「東京花祭り」も滝山の土地にしっかりと値付くようなルーティーンを、あと何年かかかるかわかりませんがみんなで模索をしている旅の途中だと思っています。













# 編集後記



東京花祭りが近づくと、シーツを洗い、毛布や布団を干して準備をし、ワゴン車にいっぱい積んで運んだことを思い出します。あれから二十五年。

沢山の会員の方々の協力に感謝します。

大野 みちよ

昨年秋から、コースのドリンクバーで手探りの編集会議を重ねてきました。

多くの方々のご協力で、こんなに素敵な記念誌が、完成しました。

東京花祭りの歩みと未来を感じ取って頂けたら幸いです。

宇野 千鶴子

ここに花祭りがある。仲間がいる。

当たり前じゃない、在り難いことが在る。

その軌跡が詰まっている記念誌の完成。

本当に本当に嬉しいです。

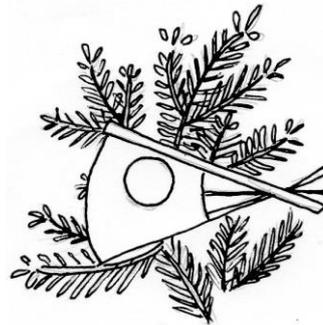
荒木 久子

やる気と実力が比例しなくて困りましたが、少しでもお役に立てたのなら幸いです♥

保科 千夏

集めるのに時間がかかった原稿でしたが、いざ手元に届いた内容は、花祭りへの思いや歴史のたくさん詰まった、私自身も感動するものでした。有難うございました。

木暮 明子



記念誌をつくるにあたって、御園花祭保存会の皆様、花祭りで育った子どもたち、そして子どもたちをとりまく大人たち、東京花祭りを支えて下さる多くの皆様に、感謝いたします。

ありがとうございました！

東京花祭り実行委員一同

二十五周年実行委員長

……千田 茂

編集委員……宇野千鶴子

大野みちよ

木暮 明子

実行委員……荒木 久子

保科 千夏

表紙(版画)

……堀江 紀介

写真提供……川上 正毅

浅見 泰子

カット・挿し絵

……保科 千夏

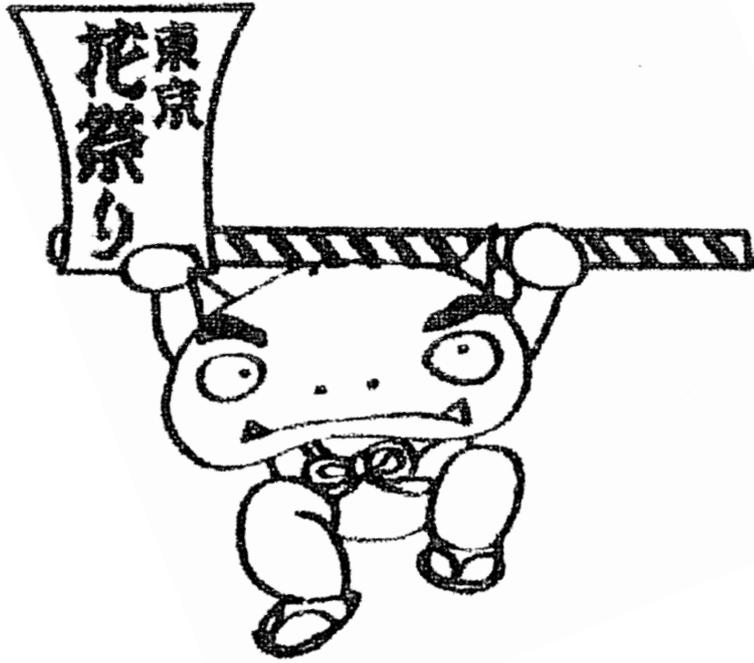
荒木 久子

広木 奏也

荒木 希実

保科 真咲

資料提供……渡辺 民江



◆東京花祭り二十五周年記念誌

二〇一八年六月末日発行

制作・二十五周年実行委員

発行者・東京花祭り二十五周年実行委員会

連絡先・二十五周年実行委員長 千田茂

〇四二(四七三) 五六五二

代表 人見勇三

〇四二(四七三) 八四八四

東京都小平市花小金井四・六・五

製本所・篠崎製本

〇四二(三九三) 二〇二九